



# 伊藤音次郎日記

## 1910(明治 43)年

文字データ作成: 一般財団法人 日本航空協会 2018(平成 30)年 6 月

\* お気づきの点などございましたら、ご教示のほどお願い申し上げます。

一般財団法人日本航空協会

航空遺産継承基金事務局

〒105-0004

東京都港区新橋 1-18-1

電話 03-3502-1207

ファクス 03-3503-1375

電子メール isan@aero.or.jp

禁無断転載 © 一般財団法人日本航空協会



デアツタ 七日ニ新年宴會ヲヤルナド大分景氣付イテ居タ。余ハ精算表ヲ造ルノ二九時カ、ツタ 後三日ノ日記ノ残りト之レトヲ記ス 時十時  
夜寄生木ヲ讀ミ十一時半就眠

▲▼8ページ▲▼ 明治43(1910)年1月6日(木)

天気晴

五時半覺醒 歐州見物ヲ讀ム 六時十分起床 掃除後歐州見物ヲ讀ミ後郵便ヲ觀  
八時就業 本日利益ノ處分アリ 即チ純益ノ内一千円ヲ商品損失豫備トシ他ハコトゴ  
トク繰越金ノ内ニ入ル 之レデ同金ノ残二万三千余円トナツタ 今年中ニ全部返シタ  
イモノダガ、サテドーカシラ。余ハ賞與八円ト給料五十錢値上ゲノ趣キヲ得タ外ニ過  
□賞與三十壹錢即チ二日分ヲ貰ツタ。

二時半三井ノ難波ガ來テ丸銅百噸三十五日廿五錢デ値ヲ貸スト夕方買取ルトノ返  
事ガアツタ。之レハ、タシカニ好イ賣物ダ 因ニ本日入電 五十二磅十志。夜六時半ニ夜  
業 後商業講義録ヲ調査シ八時夜警ヲ廻ル 尚其後チ昨年中ニ於ケル日記ノ付残り  
ヲ取調べタ。ベテ六日アツタガ其内四日ハ雜記帳ニ下書キガアツタガ九月十一日ノ  
両ガ書イタ筈ダノニドーシテモ分カラナカ

▲▼9ページ▲▼ 明治43(1910)年1月7日(金)

天気晴

例刻起床 掃除後今日ハ御祝儀ダカラ少シな、草 なすなの御かゆヲ食シタ 其精力  
御復(ママ)ノ工合ガ大変悪クナツテ、大便ガ止マツテシマツタ 而シテ式三日一寸夜業  
ヲヤツタリ夜遅ク、何ニヤ斯ヤト仕タノデ頭痛ガ又氣ザシテ來タデ、夜帰宅シテ帰途  
腦丸ヲ買ツタ

今日帰宅シタノ八十日ニ御店ノ人ヲ宅へ招待仕様爲メ打合せト冬着ヲ持ツテ帰ヘツタノ  
デアツタ。西ノ姉ガ丁度髪ヲ結ヒニ來テ居タ

商事 90武力高進 賣場七円十錢 市場ノ持品スコブル薄弱 当店ノ大当リ。夕方  
大分買ヒニ來テ居タガ、何レモ値ガ合ワナカッタラシイ

▲▼10ページ▲▼ 明治43(1910)年1月8日(土)

天気晴

頭痛再發ヲ恐レテ七時十五分)床ニ居タ。タ、チニ腦丸ヲ服ス

商事 本日銅六十二磅壹志 一寸安イ。氣配ニ變リ無シ。亜鉛板三井入電。四百四  
十片 非常ナ高値デアアル。

晝前岡本龍君が京坂電鉄カラ逆四六ノ半田百ベノ見積ヲ出シテ呉レトノ電話ガ懸カ  
ツタト知ラセタノデ、早速竹島ノ兄ニ電話シテ見ルトケ五十八円ダトノ事 余リ高過  
ギルノデ成川ヲ聞クト五十六円ノ由 前二五十二円デ成川デ買ツタ事ガアルノデ逆二  
五十五円)切ツメサセタ

見積ハベ三十五円六十錢デヤツタ 而シテ原料ノ錫鉛高値ノ由一寸附記シテ置イタ。  
夕方佐世保ノ電気銅五千キロ三十五円四十錢替ノ割デ落札シタ旨電報ガアツタ。之  
レニ付イテ、二月十日ノ納期) 最底如何程ノ値段デ仕入ガ出來ルカ、トノ面白イ問題  
ガ出テ、井上、中山、両氏ト小旦那ト入札セラレタ。余モ一寸算盤ヲ以テ見ルト三十  
四円五十錢ナラ出來ル見込ガ付イタノデ入札ノ札ヲ見ルト小旦那ニ中山ハ八四円七  
十錢 井上君ガ四円廿錢 余ハ其間デアツタ デ、余モマダ捨テタモノデモ無イワイト  
心ヒソカニ嬉シカッタ

尚今日ヨリ銅真中板ガ一变二四円五十錢方ヲ引締メタ。原因ハ昨夜重亭デ、ロール業  
者ノ集會ガアツテ協定シタノダ。但シ割引ハ随意トノ事。店デハ賣場ニ円替割引シタ  
増田ハ当店へ三円ノ割引ヲシテ呉レタ。製銅場ノ買ヒハ三円五十錢引

夜物理ノ復習ヲナシ八時半終リ一寸大便へ行クト、ドーモキバルト「ノド」ガ痛ンデ何ン  
ダカ太クフクレル様デ非常ニ困マツタ

後千坂口君ガ、餅ヲ焼イテ居タノデ御馳走ニナリ九時半就床 欧州見物ヲ讀ミ十時  
半就眠午前六時起床 掃途(ママ)後欧州見物ヲ讀ム

晝) 簿記 午後製銅場ヨリ買入銅及入電統計ヲ作ル

商事 本日夕方前田中ハンガ來ラレテ何ニカ中山ハント話ヲシテ居ラレルノデ、ソバニ行  
クト、ソコニ銅板ノ切端ガ一枚アツテ、中々奇麗ナ板ダ 處ガ裏面ヲ見ルト、アダカモ  
電気銅ノ様ニザラヽシテ居ル 然シ極ク細カイ、キラヽト宜イ 之レハ三菱デ電気銅  
板トシテ分銅ノ原理ヲ応用シテ板ニシタノダソナ、ソーシテ薄イモノ程安ク付クソ  
ダ。ソーカ、ソー云フト昨年ソナ事ヲ聞イタ事ガアツタ。尚因ニ今度ノ日英博ニ非同  
板ノ四八ヤ五十ヲ出品スルソダ。如何ナ白人モ一寸驚クダロー

夜少時製圖復習後坂口君ト今日貰ツタ五十錢ヲ棒ニ振ルツモリデ先ヅ心濟橋カラ道  
頓堀ヲ遊ビ帰途北村デ肉ヲヤツタ 今日ハ酒モ大分ノンダ 然シヨワナカッタ 帰店後  
雑談九時半就床 欧州見物ヲ見十時半就眠

天気 晴

受信 工業學校応用機械學入學願書 藤井甚松様

▲▼12ページ▲▼ 明治43(1910)年1月10日(月)

## 天気 晴

黒田君が一寸戎様へ参詣シテ來ルカラト云ヒツオ出タタノヲ、ウツ、ニ聞キ流シヤガテ二階ガソーゾー敷ナツテ眠ラレヌマ、起キタノガ丁度五時半 昨夜一寸心配シタニ引替へ今朝ハ誠ニ好イ天気 カラリト晴レテ明ノ星キラ、

晝(簿記ヲヤツタゞケ 然シ其間ニ今日色々ト小用ガ多カッタノデ大分急ガシカッタ晝食ハ牛肉デアツタ 午後ハ勿論休業 余ハ歐州見物ヲ讀ミニ一時間前井上坂口両君ト店ヲ出タ 「中坊ヲ連レテ」 處ガ此ノ中坊サンデ一寸骨ガ折レタノダ。ソレハ若主人ガ中坊ノ外出ヲ止メタノデ余ガ御寮人ニ頼ンデヤツト連レル事ニシタノダ 其訳ハ余ガ中坊ヲ愛スル否中坊ニ同情スル念ノ表現トナツタダケ別ニ深い意味ハナイノダ。(余ハ中坊ガ此頃大分大人ヲトナシク、且ツ浜ヘヲ余リ云ワナイ様ニナツタ否オトナシクナツタノデ老主人ガ時々浜ヘ連レテ帰ラセルノデ非常ニ嬉シイ 殊ニ中坊ガ余ノ云フ事ヲ、ヨク辨又ハ決シテ、サカロワヌ事。而シテ風呂呂ナドモ余トデナケレハ這入ナイト云フ風ナノデ余ハ、ムシロ、ホコリタイ位ニナツタ 尚昨冬ハ大坊ニ旗ヲ送クツタ店ノ友モ此頃ハ大分又中坊ニ同情否旗ヲ送ルニ到ツタ

然シ余ハ決シテ中坊ニ好言ヲ述ベタリ或ハ菓子ナドヲ他ノ人ノ様ニ與ヘタリシタ事ハナイ。タゞ彼レガ泣ク時彼ヲナグサメ彼レガ、イタヅラヲスル時彼レヲ諭シ彼レガ遊ブ時彼レニ注意ヲ與ヘタニ過ギナカッタノダ)

サテヤツトノ事デ人中ヲ切りヌケ帰宅スルヤ、余ハタゞチニ店ヘ電話シテ黒田ニ岡本三君ニ最(ママ)非來ル様云ヒ置キ鳥佐ヘ行キ鍋七ツヲ注文シテ帰り之ヨリ酒宴ヲ張ツタ

丁度ソコヘ平井サンガ來ラレ、其内又三君モ列席セラレタノデ大變ニギヤカニナツタ 余ハ初終中坊ノ「カタワラ」デ食物ニ注意シテ居タ

六時坂口君ヤ平井サンノ謡曲ガアツテ宴盛ナル内ニ終リヲ告ゲル事ニナリ、帰途ニ付イタ。ラン、タル星ハ空ニカゞヤイテ雲モナイ、昆(ママ)雜ハ何分何處モ夕食時トテ左程ニ込合ワナカッタノガ何ヨリ幸イデアツタ 然シ門ノ出入リサスガニ一寸、オシ返サレタ。

中坊ハ見ル物大底(ママ)アレ、ホシイ之レ買ツテト云フノデ先ヅ云フ儘ニシタガ、「トビ」ト「ハシゴ」ダケハヨイ買ワナカッタ否余ヲシテ買ヒ能ワザラシメタノダ。其レハ、キケン物ナル爲メニ又余自分モ少時ヨリ、コレ等ヲ持テ遊ンダ事ガナイカラ

ヤガテ難波ノ停車場前) 來ルト丁度六時半 之レカラ學校へ間ニ合フカシラ。止メ様カト思ツタガ、折格(ママ)道具モ持テ居ルシ殊ニ初メカラ休ムノモアマリト思ツタノデ、此處デ諸氏ニ中坊ヲ托シ分カレヲ、告ゲテ梅田行き電車ニ投ジタ。間モナク満員ノ札ハ下サレテ電車ハ「ゴー」ト走り出タ

丁度學校ノ門前) クルト、カン、ト第一ノ金ガ鳴ツテ居ル。之レデヤツト安心シタ

今日ハ最初ノ少時間デ先生ガ新年ニ感ジタトテ、次ノ事ニツイテ有益ナ話ヲセラレタ

一、新年ノ意義(年ガ新タニナルト共二人ノ心モ新タニナルモノデ、此時ニ本年ニハ、ド一云フ事ヲ吾レハシナケレバナラナイト云フ様ナ事ヲ思フ。斯云フ事ガナイ人ニハ眞ノ新年ノ意義ハ訳カツテ居ナイ人ダト云ワレタ)

一、新年ノ目出度訳(此レモ前同様デタゞ酒ヲノンダリ餅ヲ喰ツタリ、ヨイ着物ヲ來(マ  
マル爲メニ新年ハ目出度ノデハナイトノ説ダ)  
一、信仰ヲ持ツト(之レハ何ニモ佛教ヤ「キリスト」ヲ信ゼヨト云フノデハナイ 神ト云ノ  
ハ宇宙間致ル處ニ居ルモノデアアル サレバ、サレハ己レノ心ニ固イ意志ト云フ信仰ヲ守ツテ  
スベテニ忠実デアレト云フノダ)

此間ニ宗教觀モアル小説モ引ハリ出サレル教訓談モアルヒン富論モアッタ 勿論何レモ極  
ク「カンタンダ」ガ然シ新學期早々ヨイ談話ヲ得テ心中大ニ感謝シタ

今日ハ休マナカッタ御蔭デ講義ガ聞ケタ 誠ニ嬉シカッタ ソーシテ今夜ノ様ナ心持コソ  
先程先生ノ云ワレタ、心ノ平和ナ人ノ心デアルト思ツタ

九時半帰店 表ニ女中二人ガ戎様ヘデモ行ツタノダロー 戸オ、ヨータ、キモセズニ立ッ  
テ居ルノデ余ガ平吉ヲタ、キ起シテヤッタ

就床前此日記を書ス 時正二十一時十分前 ドレ寝マシヨ

### ▲▼13ページ▲▼ 明治43(1910)年1月11日(火)

天気 雨

七時三十分起床掃除、新聞、郵便

本日ハ簿記ハ九時過ぎ早クモ済ンダノデ入電統計表ヲ造ル。ソレニシテモ銅ノ上下ガ半  
期毎ニ少ナクナツテ來テ居ルノハ、ヤハリオイ、市場ガ平和ニ快復シツ、アル現象ダロー  
殊ニ昨下半期ノ如キ五十七磅台ヲ最下トシ最高六十三磅ニ充タナイト云フ平ラカナ  
極静カナ調詞(ママ)デアアル。之レニ依ツテ觀ルト、小旦那ノカノ恐慌ト前後ト云フ英書  
ニ書イテアッタ通りニナツテ居ル

夜五時夕食ヲ終リ歐州見物ヲ讀ミ六時二十分登校ノ途ニ付ク

今日モ先生ハ今日ノ様ナ事ヲ話サレタ

十時帰店ス 帰途余リ寒イノデ「ウドン屋」ヘ飛ビ込ンダ。マツヤレ、ト思ツタ

何シロ暗ラサハ暗ラシ雨ハドシヤブリト)ハ行カナイガ兎ニ角困難ナ夜デアッタ爲メ。十  
時二十分記後チ復習、科學世界ヲ讀ム 十一時就眠

### ▲▼14ページ▲▼ 明治43(1910)年1月12日(水)

天気 晴

朝新聞ヲ見ルト東京デハ大分雪ガ降ツテ居ルソーダ。

又彼ノ米國ノ満州ニ於ケル諸鉄道ヲ列強ノ共有鉄道タラシムベシトノ提議ハ日本ハ無

論、露西亜や清国マデガ大返(ママ)對 處方角フノ國務卿「ノックス卿」トカハ之レガ成立ヲ公言シテ居ルソダ。サテドチラガ勝ツヤラ。ドーカ日本モ無事ト之レヲ却ケテ欲シイモノダ

本日中山君カラ濱倉庫ノ總監督ヲシテ呉レト頼マレタノデ、午後早速一寸行ツテ現在ノ大体ヲ取調ベタ。夕方風呂ヲ上ガツテカラ、スグ帰宅シタ。夕食中、魚ノ事カラ宗教論ヤ人生論ニ及ンデ大分父ヲ云ヒ込メタ。サスガノ文句屋モ終ニ無言テ仕末ツタ。然シスグ又父ノ拜金主義デ敵ヲ取ラレタ 兎ニ角今ノ間金ノ事ヲ云ワレト余ハ一句モ上ガラナイ。

九時帰店 之レヲ記ス 後チ商業通論其他雜誌ナドヲ見十一時過ぎ就眠

▲▼15ページ▲▼ 明治43(1910)年1月13日(木)

天気 雨

六時十分起床掃除、郵便。とはたり。浜。即チ現在調ベテ行ツタ序デニ昨夜持帰ヘツタ餅花ヲ「とーそん」ニ上ゲタ。商品現在ハ、実ニ「アイマイ」仕極クデ「タシカ」ナ事ガ分カラナイ。此間ノ棚卸モノスルトアテニナラナイ。十時過ぎ分カラヌマ、一度帰店シソレヨリ簿記。地方ノ对上ゲ及明日ノ地方請求書ヲ作り、注文商品現在ノ調査ヲナス。前田ハンガ第一頼リナイ。而シテ尚余ニ、到底、確カナ事ハ出來ルモノデナイ、ナドト余マデ「アイマイ」ニ仕様トスルノデ余ハ心ノ内ニニクソ、分明ニナル) 調べズニ置クモノカト思ツタ

夜少時物価表ヲ手傳ヒ學校ニ行ク。大変ナヌカルミニ六閉口シタ。然シ傘ハ持ツテ行ツタガ雨が降ラナカッタノハ、マダシモ仕合セデアッタ 十時帰店 之レヲ記ス 後チ商業通論ヲ讀ミ十一時就眠

▲▼16ページ▲▼ 明治43(1910)年1月14日(金)

天気 曇

今日ハ終日「ウットーシイ」天気デ今ニモ降リソデー一寸モ降ラナイ嫌ヤナ日デアッタ。午後北へ五六軒書出シヲ持ツテ廻リ帰店後一寸浜へ行き奥倉ノ品物ヲ見帰店後地方ノ帳合ヲナス

商事 昨日佐世保ノ錫ハ千疋落札シタ。銅、亜鉛ハ他店へ

夕商業通論ヲ讀ミ六時學校ニ行ク。今日速度ノ處デ最初ノ間眠クテ、ヨワツタガ、角速度ノ説明ニ入ツテカラ、中々眠タイ處ノサワギデナイノデ、目ハタチマチ、パットシタ而シテ割合六ツケ敷代数式モヨク、分カッタ。十時帰店 三十分復習 之レヲ記ス 後商業通論ヲ讀ミ十一時頃ヨリ雲右衛門ノ議(ママ)士銘々傳ヲ讀ミ二時消燈

▲▼17ページ▲▼ 明治43(1910)年1月15日(土)

天気 曇

六時半起床 郵便新聞ヲ讀ミタゞチニ事務ニカゝル 小正月ダガ、節季ダカラ余ハムシロ常ヨリ急ガシク、夕方モ御作サンガ休ンダノデ井上君ト出入ヲヤツタリシテ五時半ド一ゾ、コーゾ終ヘタ

商事 一時市役所へ見積モノガアルカラ來イト云フノデ行ツタ MNK四萬磅明後日午前中ニ見積提出セトアル。今日京坂ヨリ先日余ガ見積リシタ半田百貫印注文ガ來タ。ケニ付ニ円替アルノダカラ一寸十二三円モ一カル譯ケダ。夜夕食後昨年四月三日ノ日記付替ヘヲナシ終ツテ代数ヲ學ビ、後チ今日來タ工學講義ノ雜報ヲ見九時床ヲ取リ之レヲ記ス 後チ和漢名詩鈔ヲ讀ム

受信 藤井甚松様

▲▼18ページ▲▼ 明治43(1910)年1月16日(日)

天気 曇

午前六時半起床 掃除郵便。今日ハ新聞見ル間ガ無カッタ。スグ事務ニ着ク

晝食後濱宅ノ品物ヲ見ニ行キ其ヨリ工場ニ向フ 此時ヨリ風強ク曇雲ハ次第々々ニ東ヘ吹き送ラレ、西ノ方僅ニ青ヲ現ワシ初メ、寒氣ニワカニ切ナリ。三時工場ヲ出デ帰宅 三日撮影ノ寫眞ヲ得テ帰ル 處ガ僕ノヲ一枚、カンジンノ種板ニ「キズ」ヲツケタノデ寫シ直シニ來テ呉レトハ馬鹿ラシイ。然シテ今度ノ出來ハ皆ヨク無イ 殊ニ顔ニ色々手入レスルナド、ケシカラヌ事ダ。四時帰店地方傳票整理、夕食、風呂、散髪。夜御寮人ノ依頼ニ依リ玩具ノ軍艦ノ、ツブレタルヲ組立テ六時半終リ、物理ノ復習。十時本ヲトジ、床ヲ延べ之レヲ記ス 後チ新聞名詩鈔ヲ讀ム

▲▼19ページ▲▼ 明治43(1910)年1月17日(月)

天気 曇

六時半起床 掃除、郵便、新聞、簿記、濱倉庫現在表等本日ノ仕事以上ノ如シ 商事 今朝市役所鉛見積書提出ニ付店ニテ一人々々思ヒ々々ノ入札アリ 余ハ例ニヨリテ余ノ思惑ヲ立テテ傍觀スルニ中山君ト河野君トノ中間ニアリ。井上君ニ小旦那ハ最底(ママ)シ

本日又京坂電鉄ヨリ半田百貫注文アリタリ。依ツテ先キノ分トニ通請書ヲ出ス。夕食後名詩鈔ヲ讀ミ六時學校ニ行ク。此往復電車内ニテハ名詩鈔ヲ讀ム。處ガ字ヲ覺ユル、故事ガ分カル、忠孝徳義ナドト云フ事モ大ニ爲メニナル事ガアツタ 十時十分前起(ママ)店 床ヲ引キ之レヲ記ス。



後本日ノ處復習。就床後日獨郵報ヲ讀ム中ニ、此度ノ米國ノ提議ニ對シ獨國ノ尻押シデアルトノ説ヲ大ニ辨明シテ居タ

▲▼20ページ▲▼ 明治43(1910)年1月18日(火)

天氣曇

六時半起床 掃除、郵便、新聞。今日ハ少シ間ガアツタノデ日獨郵報ヲ讀ム  
晝)簿記 十一時半浜宅へ品物ヲ見ニ行ク。丁度晝ニナツタノデ御飯ヲ馳走ニナル。一寸御サカナガ着(ママ)イテ居タ。此時雪ハ、チラ、ト大分、降ツテ居タ。食後帰店 現在表ヲ作ル。後チ浜倉庫商品出納ヲ一ツ「ハイカラ」デカード式ニスルベク見本ヲ造リ鎌田へ注文ス。「カード」ガ千枚デ七円五十錢 函代ガ四円、日取用紙ガ一組五十錢 合計十二円ト附ク 主人ニ見ラレタラ、又一寸位ノ御目玉ハアルダロー

商事 夕方井上君ノ依頼ニヨリ京ト松田直七へ電話シテ注文ノキ針28、26ヲ急ギ、次ギニ白銅線ノ直(ママ)ヲ聞キ色々懸合ノ結果卅三円七十錢ニテ20四百ケ19二百ケ14、17二百ケデ、千ケ注文シ中20、19ハ廿五日)ニ最(ママ)非坂着ノ由申聞ケ置ク。

夕、中坊ヲ風呂ニ入レタノデ少々遅クナツタノデ、登校前讀書ノ間ガナカッタ。學校ヨリ帰店 十時十分前床ヲ延べ本日ノ處大分六ツ個數カッタノデ三十分間復習 後チ新聞ヲ見國ノ光ヲ讀ム 又太平洋ヲ觀 十二時五分就寢

▲▼21ページ▲▼ 明治43(1910)年1月19日(水)

天氣晴

六時二十分起床 掃除、新聞、郵便。今日ハ久々デ好天氣デ誠ニ氣持ガ好カッタ

商事 銅六十一磅二志六片 益々安イデ、古川ノ「ベセマ」百噸ヲ迷(ママ)ツテ貰フ事ニ話シヲシテ兎ニ角三十四円五十錢デ値ヲ貸シタ 夜七時頃、電話デ東京ノ本店へ照会シタガ支配人ガ居ラナイノデ、直接電報ヲ打ツテ居イタカラ、明朝返事ヲスルトノ返事ガアツタ

晝)簿記地方引合セラナシ、午後濱倉庫へ行キ帰店後地方ノ傳票ヲ記帳シ後チ電話ノ番号表ヲ造ルベク用紙ニ線ヲ引ク

夜七時)物理復習後代数 八時ヨリ科學世界ヲ讀ミ九時之レヲ記ス  
本日主人ハ金物税引上ゲノ議案ニ付衆議員岩下清周氏ニ運動ニ行カル

▲▼22ページ▲▼ 明治43(1910)年1月20日(木)

天氣晴

午前中例ノ如シ 晝食後濱宅へ行ク。丁度製鉄ノ浪板ヲ引イテ來テ居タガ、サテ入レル處ガナイ 其中前田ハンモ來ラレ色々手配ノ末前ノ岡野ノ奥倉へ入レル事ニシタ。余ハ其レ等ノ貫々ヲナシタ爲メ、丁度夕方ノ懸カッタ。帰店後直チニ入浴夕食等ヲ済シ終ルヤ否ヤ登校ス。今日ノ處ハ大分、六ツケ敷カッタ。殊ニ前ノ一時間ガ眠カッタニハ大キニ弱ッタ。然シ製圖ハ如何カニ六ツケ敷ト云ツテモ物理ヤ機械學ノ様ナ事ハナイ

帰途一番踏切デ例ノ貨車ノ「ケリ込」ニ會ヒ少々手間取ツタ。御負ケニ、電車ガ中々急ニ出テ來ナイ俣十分以上モ待ツタ頃ヤット出テ來タ。トタチマチ満員。十時帰店 例ノ通り芋三身ヲ袖ニ入レテ之レヲ記シナガラムシヤリ、、、、実ニタワケダ様ダガ何ニ伊藤公ガ竹ノ皮包ミノ牛肉ヲ喰ツタ事モアレバ大山侯ガ鰻飯ヲ喰ヒソコネテ不平顔ヲシタ事モアッタト云フデハナイカ！ 後新聞ヲ讀ミ十一時就寢

▲▼23ページ▲▼ 明治43(1910)年1月21日(金)

天気 雨

六時半起床 掃除新聞、郵便、商品現在、簿記、丁度正午

晝食後製銅場へ行ク。古河ノ銅片ヲ昨日正午)ニ全部取調べ川口へ出荷ノ事 打銅板五千枚八百二十枚ダケ工場ニ出來合セアリ

三時半帰店 地方帳合 四時濱へ昨日ノ浪板ヲ撰リ分ケ居ルヲ見ニ行キ序ニ風呂ニ入り四時半帰店終業

夕食後今日ハ登校時間) 雑談ヲナス。處へ例ノ相撲ノ號外來ル サ一大変皆々號外ヲ取り合フヤラ、ヤー負ケタ、ウマイ勝ッテル勝ッテル 一ツニツナド数ル者モアル 実ニ一時ハ非常ナ、ソージョーヲ極タ 然シ之レ等ハ毎日ノ事デ大相撲トナルト何時モ之レナンダ。アンナ事シテ何處ニ樂シミガ有ルノカ余ハ解スルニ一寸困ル位イダ。

今日ハ學校ヨリ店)、何ンダカ雨ノ中ヲ歩いて見タクナツテ、トコ、ト 此時丁度雨ハ上ガツテ居タガ「ヌカル」ノ中ヲ帰ヘタ 時正二十時二十五分

▲▼24ページ▲▼ 明治43(1910)年1月22日(土)

天気 雨

例刻起床 例ノ通り午後濱へ行ク 帰店後稅務署使(ママ)員ガ階上デ今シモ帳簿ノ調べヲ終リ小旦那ト談話中ナノデ、ストーブヲ焚キナガラ彼使員ノ話ヲ聞ク。カクテニ時頃彼レハ帰ヘツタガ、談話中ノ節々ニドーモ、アヤシイ處ガアツテ暗ニ袖ノ下ヲ請求スル如ク殆ント自分ノ住所)ヲ云ワントシテ居タ位デ殊ニ終ニ、イヅレ明日大抵ハ來マセンガ都合デ今一人連レテ参リマスカラ何カ宜シク、ナド、云ツテ帰ヘツタ ア、「宮使フハイ」ハ今ハ彼レ等ニ)デ及ボシテ居ル。コンナ事デ増稅ヤイヤ減稅ジヤト云ツタトテ何ニナルモノカ

夜夕食後製圖ノ復習ヲナシ九時終リ後科學世界ヲ讀ミ十時半就眠

▲▼25ページ▲▼ 明治43(1910)年1月23日(日)

天気晴

午前六時十分前起床 掃除新聞、後手簿記

晝食後少時電話番号表ヲ作ル。此時若主人始メテ店へ出ラレ銀行帳ヲ見後約定帳ト手合帳ヲ調べ間モ無ク内ニ入ラル 余ハ濱へ行き品物ノ在品引合セラナシ四時過帰店ス少時國ノ光ヲ讀ミ夕食ス。牛肉 但シ常日牛肉ノ時漬物ヲ食シタ事ガナイガ今日ハ一寸「アッサク」ヲヤッタノガ、ムカツヒテ、今ニモ「トランシップ」ヲヤロトシタガ、漸(ママ)時便所デ落ち付カシテ、ヤット旧ニ復シタ。

商事 井上君ノ依頼デ再三電話シテ呉ノ真中ヲ二十四円デ工場取りニシテ貰フ様ニ頼ンダ 但シ撰ルノハ工場ノ庭デシテ貰ツテモ、カマワナイト云フタガ、ドーモソレデハ具會ガ悪イカラ持ツテ來テ來レト 茲デ双方、ツツパヤ會イトナリ遂ニ先方ガ主人ガ出ラレナカツタ爲メ不得要リヨ一ニ終ツタ。

主人ハ此度ノ金物税引上ゲニ付キ其抵感運動委員トシテ上京委員ニ撰出セラレタトノコト

六時ヨリ八時) 力學復習之レヲ記ス 後手論語ヲ讀ム 得ル處大ナリキ。

▲▼26ページ▲▼ 明治43(1910)年1月24日(月)

天気晴

午前四時便所へ行キシ爲メ朝起キル事稍ヤ遅シ。

起床後、掃除、新聞、郵便例ノ如シ。晝(簿記。午後濱倉庫へ行き二時帰店。入荷品ヲ調べ或ハ電話番号表ヲ作ル 夕地方傳票付上ゲ、夕食後風呂ニ入ル暇ナク直チニ登校ス 但シ今日ハ何ントナク歩キタイノデ往復共徒歩シタ

商事 昨夕門司三井支社ヨリ電話ヲ以ツテ26鉛板五万枚ノ問ヒ合セアリ 其レガ爲メ昨夜ノ中ニ中山ハ市中ノ現物又ハ三月頃)入荷ノ同品ヲ全部買ベ、今朝ハ、初塚ハンガ東京ニ居ラレルヲ幸ヒ電話シテ東京デモ買占メヲ依頼シタ。正午前東京ノ大野ハ電話ヲ懸ケ三月初メ26浪板三十屯十円(但シ阪着)ニテ買付ケヲナス。學校ヨリ帰店後少時復習 終ツテ新聞ヲ讀ミ十一時三十分就眠

▲▼27ページ▲▼ 明治43(1910)年1月25日(火)

天気雨

六時十分起床 例之通り終ツテ事務ニ着手 正午過ギヨリ雨ハ「シト、」ト降り出シタ。

而シテ其冷タサト云ツタラ実ニタマラナイ。夜學校ヨリ帰店ノ際ナドハ雪マジリトナツテ居タ位イデアツタ。然ルニ今日ニ限り登校ニ帽子ト、クビ巻ヲ忙(ママ)スレタモノダ。之レニ六大きニ困マツタ。本日受業中校長閣下ト小山先生ノ付添ニテ数名ノ参看人アツタ。十時帰店ス 中山氏ハ尚ホ河野君ヲ相手ニ何ニカヤツテ居ラレタ。見ルト例ノ厚浪板五万枚ノロデアツタ。エライモノデ僅々二日ノ内ニ三百余噸ノ買占ヲヤツテ仕末ツタ 無論三月入荷品)ノモノデ、東京、大阪、神戸ノ現物、及ビ約定モノハ全部ト云ツテヨイ位イ、店ノモノニナツタ。處ガ本日三井物産大阪支店ヨリ川合ヘノ照會デハ大連デ日品ガ入用ノ由デ、買付ケ品ニ對シテハ早速保稅ノ手續ヲナサシメタ  
本日又老主人ノ命ニヨリ神戸市役所ヘ納稅代理人撰定ノ手續キヲ序ガアレバ行ク筈ダガナイカラ初塚ヘ手紙ヲ以テ「クワシク」ニ云ヒ送ル  
午後十時半中山氏帰宅セラレ他ノモノモ皆寢ニ就ク 余ハ之レヨリ復習ニカハル

▲▼28ページ▲▼ 明治43(1910)年1月26日(水)

天気 曇

晝)例ニ依ツテ例ノ如シ。晝食後濱へ、製鉄浪板ノ明細取調べニ行キ一先ツ帰店 中山氏ニ報告 再ビ濱倉庫ニ到リ、一通り調査ヲナシニ時過ギ帰店  
先日來ノ浪板ハイヨ、野沢組ヨリ明細問合セニ接シ、二時過ギ中山氏ハ見積書ヲ持テ即チ下神セラル。右ニ就キ川合ハ例ノ「イヂ悪ル」?デ数日前買付ノ品物ニ對シ解約ヲ申シ込シ。ガ、中山氏ハ理ヲ以ツテ之レヲ拒ミ尚ホ解約ヲ望マル、ナラバ当方ニテモ以後其分ニテ取引スベシト答ヘシニ、彼レモ、ソレデハ今一度考ヘルベシトテ、其後中山氏ニ對シ、何度モ電話ヲ懸ケテ之レカラ御話シニ出ルカラト云ツテ來タガ、ウマク之レヲ拒絶セラレタ。

入浴後帰宅 九時半帰店 之レヲ記ス。後チ國ノ光ヲ讀ミ十時四十分消燈就眠

▲▼29ページ▲▼ 明治43(1910)年1月17日(月)

天気 晴

昨日、タマニ早く起キタモノドモハ、ドタバタ大キナ音ヲ立テ、掃除ヲ仕居ツタノデ非常ニ虫ニ障ツタカラ、今日ハ常ヨリ二十分間、バカリ早起シテ、見ルト、マダ、グーグー寢テ居ル シカモ余ガ掃除ヲ終リ新聞ヲ讀ミカケタ頃ノツコリ一人起キ一人起キシテ來タ。ナンノ彼レ等ニ負ケテタマルモノカ。

晝食後井上君ニ河野君ハ相撲ヲ見ニ行ツタ

商事 本日中午カラ26浪板ノ直(ママ)段ヲ聞キニ來タノデ七尺十二円八尺十一円八十錢ト八十錢ヲ云ヒカケルト驚イテ仕末ツタカ、タゞシハ馬鹿ラシイト思ツタノカ其盡(ママ)電話ヲ切ツテ仕末ツタ。BHP二月モノ十噸金伊ヨリ買約ス 903濱着、佐世保、

納入ノ場中興 先日來三興洋行へ照會中 本日午後三時過ギ入電アリテc.i.l八十三  
円五十錢デ取極メ出來ス、先ヅ之レデ七百円ノ利ハ動カヌ處ダ  
夜十時學校ヨリ帰店 之レヲ記ス

▲▼30ページ▲▼ 明治43(1910)年1月28日(金)

天気 晴

午前例ノ通り 十時簿記ヲ終リ直チニ京坂電鉄へ集金ニ行ク 處ガ少々時間ガ早イノ  
デ一度帰店シ一時頃玉吉ヲヤッタ  
余ハ二十日休ムニ付ケ明日書出シヲ配ラナケレバナライノデ地方ノ引合セヲナシ、一  
号ノ請求書ヲ全部書イタ頃スデニ五時ヲ過グル幾分カニナツテ居タノデ夕食 學校へ二  
行キ十時十五分前帰店。之レヨリボチ、火ヲ造リツ、二号三号製銅場取引簿ト順々  
ニ請求書ヲ作ル 此時、おまきどんガ焼キ立テノホヤ、餅ヲ持ツテ來テ呉レタ。之レ  
ニ六大キニ、ノドヲナラシタ 十二時十分前全部終リ之レヲ記ス

▲▼31ページ▲▼ 明治43(1910)年1月29日(土)

天気 曇

六時起床 掃除後直チニ事務ニ着手 十時書出シ配リニ出ツ 一時半帰店 地方帳合  
ヲナシ客ニ接シ後書出シヲ調ブ  
夜判取引合セ 八時終ル 其レヨリ、「タドン」ヲ「イコシ」床ヲ取り九時散髪ニ行ク 處  
ガ大ツカヘ ヤムヲ得ズ四五人待ツ。其間「此花」雜誌ヲ讀ム 所謂浮世畫、奨勵雜誌  
デアル。サスガ滑稽新聞社發行ダケデ、時々讀ムニ忍ビナイ、「インピ」ナ文字ガアル。  
然シ浮世繪ニ対スル承(ママ)細ナ歴史其他参考トナルベキ事モ、有ルニハ有ツタ  
十一時前帰店 直チニ就寢  
明朝老主人帰店ノ筈。御寮人ノ病氣ハ今日少シ好サソデアッタ

▲▼32ページ▲▼ 明治43(1910)年1月30日(日)

天気 雨

折格(ママ)ノ休ミモ雨デ台無シダ。製圖ヲ仕様ト思ツテモ闇クテ出來ナイ。ソレカラ明  
ルイ處ヲ、アチヲコチヲトヤツトサガシ、アテ、ツイヒニ二階ノ客室へ上リ御晝(學校デ  
寫シ取ツタ格言ヲ別ノ「ノート」ニ寫シ替へ、晝食後製圖ヲナシ三時頃ヤツトノ事デ出來  
上ガツタ。直チニ夕食、少時雑談ヤ「發明」ヲ讀ム事ニ時ヲツヒヤシ後五時過ギ)就寢シ  
タ。然シ頭ハ一寸モ寢ラレナカツタ。其中ゾロ、皆這入テ來ルト、花合セノ札ヲ買ヒニヤ  
リ、パチリ、ヤリダシタノデ直グ下ニ降り岡本正、黒田両君ト雑談ヲナシ、椋十ノ

世界見物ヲ買ヒニヤリ後チソレヲ讀ム 九時、夕食ガ早ヤカッタノデ、腹ガヘルカラ岡本  
滝君ガ西洋料理ヲ云ヒニヤルノデ久シ振りニ「ライスカレイ」ト「ビフテキ」ヲヤッタ  
中々美味カッタ

◆▼33ページ▲▼ 明治43(1910)年1月31日(月)

天気曇

今日ハ非常ニ寒イ日デアッタ。而シテ急ガシイ、ヤ、コシイ、嫌ナ様ナ、嬉イ日デアッタ。  
然シ何故カ分カラナイ。晝食後大阪鉄工所へ集金ニ行ツタ時ノ冷タサ 道ハ、イテ付イ  
テ、直(ママ)白ロ。イカニモ寒ソーオオツタデ、シカモ、雨上リデ高下駄ノ齒形ヤ、車輪  
ノ筋ガ固ク凸凹シテ居テ大キニ歩ミニクカッタ

夕、風呂カラ上ルヤ直グ、出入リ 手傳ツテ見ルト一辺ニ、合ツタ。余ハ飛ビ上ル程嬉シ  
カッタ。実ハ大分ヤ、コシカッタ内々心配シテ居タノダ

夕食後直チニ登校ス。十時帰店後今日ノ集金ノ分ヲ入帳ナシ、地方賣上ノ記帳ヲナス。  
其内十二時モヤ、過ギタ頃ニハ、冬ノ夜ノ、セキバクガ、ヒシ、身ニセマル様デ、時々硝  
子窓ガ、ガタン、ト云フノト、二階ノ便所ノ鉛管ノ中ノ水ガゴロン、ト気味ノ悪イ  
音シテ落テ行クノガ耳ニヒビクノミ。余モ、オジケ付イテ來タノデ 十時帳ヲ閉ジ宵ニ、  
火ヲ持ツテ炭ヲ出シニ行ツタノガ氣ニ懸ルノデ一寸火ノ用心ヲ見ニ行キ直チニ就眠 時  
一時

◆▼34ページ▲▼ 二月中行事豫記

- ・金壹円七十銭 本
- ・金壹円三十銭 下駄
- ・金四十銭 本
- ・七十五銭 和英辞書
- ・八十銭 和漢名詩鈔
- ・五十五銭 日和下駄
- ↗五円五十銭
- 一円五十銭 世界見物
- ↗七円也 内一円八十五銭支拂
- ↗五円十五銭

◆▼35ページ▲▼ 明治43(1910)年2月1日(火)

## 天気晴

午前六時半起床 今日モ氣バカリアセツテ、一寸モ用事ガハカドツテ居ナイ 其クセ大分急ガシカツタンダガ 正午過ギヨリ、冷タイモノガチラ、シテ來タ

二時半大阪郵便局へ鉛ノ見積ニ行ツタ BHPデ六百ペ 内三百ペハ森町 残り平野町納メ 非常ニ急イデ直ニ納入出來ルカト幾度モ念ヲ押スノデ、今極メテ貰ヘルナラバ、直グニモ持参シマスト云ツテヤツタ 直(ママ)段ハ、ノ五十七錢八厘

此時細カイ「通シ」デ、フルータ様ナ雪ガ向フモ見エナイ位降りシキツタガ三休橋デ電車ヲ乗り捨タ時ニ「ケロリ」ト晴レテ、日ハキラ、ト照リ雪ハソノ光ヲ受ケテ益々白ク輝イテ居タ

帰店後地方ノ帳合ヲナシ濱宅ヲ見ニ行ク 帰店スルト、モーチャント仕舞ツテアツタ。夕食ハ肉 岡本君正君ト食ヲ共ニス 後チ少時復習 七時田中へ雜誌ヲ注文ヲシニ行ク。帰店シテ見ルト、老主人ガ今度ノ減税運動ノ書類ヲ東京カラ送クツタノヲ、持ツテ來イト云ツテ來ラレタガ無イトテ大サガシヲシテ居ル。余モ共ニサガシタガ東京カラ手紙様ナモノガ來タ事ガナイノニトテ、カノ請願書ヲ持タシテヤルト之レデハナイトテ大目玉ヲ頂戴シテ帰ツテ來タ 而シテ中山宛ニ送クツタノダカラ中山ガ知ツテ居ル筈ダト云ワレルガ中山君ハ朝京へ行カレテ、マダ帰ラレナイ

サー事ダ 主人ハ一時ガ二時デモコーシテ待ツテ居ル(因ニ云 今夜塩町ノ倶楽部デ同業者大會ヲシテ居ルノダ デ其レニ東京ノ有様ヲ報告シナケレバナライノニ、其カンジンノ書類ガナイノダ)カラ帰り次第中山ヲヨコセトノ事デ止ムヲ得ナイカラ中山君ノ宅へ其事ヲ云ツテ居イタ。(尚因ニ中山君ハ、若主人ガ止メロト云ワレタ京都市役所ノ銅線五万磅ノ拂下入札ニ行カレタノダ)

商事 先日來ノカノ26浪板ノ大口ハ値段ノ都合上外国商館へ直積(ママ)約定ヲシタトノ事大倉組ヨリ通知ガアツタ。サーコイツモ失敗ダ。今日ハ又何タル日デアロー?

九時之レヲ記ス 後世界見物ヲ讀ム 椋十式ノ滑稽実ニ笑ワセル 而シテ、知ラズ、ノ間ニ外国ノ風俗、人情、習慣等ヲ頭ニシミ込マセル 然シソレハ余リ極端ナ觀察デアアル 十一時過ギ就眠

中山氏ハ九時過ギ帰店セラレタガ、主人ノ手紙ナド見タ事モナイトノ事デ倶楽部へ電話ヲ懸ケルトモー帰ラレタトノ事デ濱ヲ尋ネルト、スデニ寝テ居ラレルトハ人馬鹿ニシタ致方デアアルマイカ?

◆▼36ページ◆▼ 明治43(1910)年2月2日(水)

## 天気晴

今日ハ大分ヨイ天気デアッタガ寒ムカッタ

正午食ヲ終テ店ニ出ルト丁度千六八十六番ノ方へ「ベル」ガ鳴ツテ來タ 早速聞イテ見ルト大阪郵便局カラ鉛ノ注文ガ來タノダ。デ直チニ契約ニ行ツタ 而シテ明日スグ納メ

ル事二手数(ママ)ヲシテ居イタ

夜十時過)夜業 後世界見物ヲ見(ママ)ミ、「ニーヨルク」見物中椋十ガ病氣デ全ク外へ出ナカツタガ今日初メテ出デ、タマゲタ高イ家ヲ見、クタビレ「ホテル」へ帰ツテ寝タノデ余モ寝ル事ニシタ 時十一時十分

▲▼37ページ▲▼ 明治43(1910)年2月3日(木)

天気 晴

六時起床 掃除新聞ハ例ノ如シ 後郵便ヲ見濱倉庫現在表ヲ作り帳簿引合セニカ、リ晝食 後郵便局へ物品上納書ヲ以ッテ行ツタ。ガ請求書ハ返サレテ仮受取証ハ渡シテ帰ヘツタ。帰途製銅場へ寄ル。本日ヨリ余ハ製銅場へ夜間ダケ宿リニ來ル事ニナツタ。ソレヨリ濱へ行キ現在ヲ見帰店ス

夜學校へ行ク 例ノ道順デ一番ノ踏切へ來ルト、又城東線ノ列車ガ横ハツテ居ル。而シテ、待ツテ居ルモ々々々々々々大勢ノ人ガヒシ、ト話懸ケテ居ル 列車ハ間モ無ク出テヤレ嬉シヤトガヤ、ドヤ、ト行クト、中央ニ長ク、續イタ貨車ガ又横ハツテ居ル。モ一行ケナイ。其内又其向へ貨車ガ停ツタ 一体ドーシテ呉レルノカ、其内人ハ益々多クナル、ト汽灌車(ママ)ガピーピート、イヤナ笛ヲ鳴ラシナガラ人ヲ左右ニ分ケテシユー、走ツテ行ク。アトニ煙ト悪イ汽灌車(ママ)特有ノカザガ鼻ヲツク。貨車ハ、依然動カナイ。氣早ノ土方風ノ男ニ三人ハ、ツツトヌケ出シタ。トヨラ、「命ガ入ランノカ、馬鹿奴」、「オイ、ソッチ側ニ誰レモ居ランノカ?ク、ラシテ傷サシタラドウスルンダ」トワメクト吾等ノ後ロカラ角燈サゲタ番人ガ、ノソソリト現ワレテ、「ウン、今メシヲ喰ツテタンヤ。飯喰ウ間位イソナイヤカマシ云ツテ呉レナイ」ト之レデ問答ハ終ツタ。「オー寒ム」:「足ノ先ガ冷タイワ」:「之ンナンナラモット、向デ遊ンデタラヨカッタ」:ナドトロロニ不平ヲ稱ヘテ居ル。ヤガテノ事デ貨車ノ幾分ハ吾レラノスグ西ノ方カラ、引キ去ラレタ。ガ、マダ通レナイ。其處ヲ又ピヨイ、飛ビ越ル者ガアル 一人飛ビ二人越ヘタチマチバタ、ト走ルト例ノ番人ハ「ヨラ、アブナイ、貨車ガ動クゾ、生命知ラズ奴。オイアブナイオイ、トヤツキトナツテ居ルガソレデモ、ヤハリ飛ビ越エル奴ガアル。其内前ノ貨車ガ動キ出シタ。

而シテ、通路ハカラクモ開カレタ。待チ、クタビレタ人々ハ一時ニドット進ムト向フカラモ又同ジ様ニドヤ、ヤツテ來ルト、ハルカダガ左ノ方カラ汽笛ヲ鳴シナガラ汽灌車(ママ)ガ又ヤツテ來タ 「早く通レタ々々々、グズ、シテルトアブナイゾ」トコンナ事デヤツト難関ヲ通過シタ。ア、ヤレ、ト思ツタ。ソーシテ何故橋ヲカケナイノカ、一ツ西部管理局長へ投書シテヤローカナドト思ヒナガラ登校シタ

十時製銅場ニ帰ヘツタ。今日ノ當宿ハ戸次高行サンデ余ガ帰ヘツタ時ニ六門番室デ、寝コロヒナガラ、上氣元(ママ)デ「ウタヒ」ヲ「ウナツテ」居ラレタ 余ハ漸(ママ)時冷エタ足ヲアタ、メ床ニ入ル。床ハスデニ、敷カレテ、コタツマデ入レテアツタ 「之レハ今日晝買ツテト



ノ事ダ」

後漸(ママ)時科學世界ヲ讀ミ就寢ス。店ト違イ電燈六頭ノ上デ「カン、點モツテ居ル」

◆▼388ページ◆▲▼ 明治43(1910)年2月4日(金)

天氣晴

午前三時目ガ醒メテカラウツラ、スル内四時頃ニハ、ハヤ生シ釜ニ石炭ヲ入レル事ガシテ門ヲクバル職工ノ音ガ絶ヘナクナツタ モーイヨ、寝ラレナイノデ五時起床 六時十分前出勤 マダ皆寢テ居タ。イツモ早イ女中マデ今日ハ余ガ出テ三十分モシテカラヤツト起キテ來タ

今日ハ節分デアル 昨日朝カラ休ムト云ツテ居タノガ半休ニナリ早仕舞ニナリ遂ヒ三三時閉店シタ。余ハ風呂ニ入り食事ヲ終リ帰宅シタ 處ガ奈良原先生カラ、飛行器操縦者トシテ人間ガ入用ダカラ履歷書ト、經驗書キト、寫眞ト醫師ノ試験表トフスグ送レトアル 余ハ一時一寸、マヨツタガ、タチマチ決心シタ。ヨシオレモ男ダ 最(ママ)非ヤツテ見セルト。而シテ兄ガ居レバ今ニモ相談スルノダガ、アヒニク留都ナノデ、父ニハ知ラヌ顔シテ登校シタ

途次製銅場ヘ立寄又中之島ノ文具屋ニテ「コンパス」ヲ購ヒ登校ス

今日ハ出席者ガ少ナカツタ。西岡君ハ例ニ余ノトナリニ坐シタ ツク、同君ノ顔ヲ見ルニ、ドーモ店ノ御清ドンニ似テ居ル ソシテ余ニ、モノヲ尋ネニ來タ時ナド声マデソックリダ 余ハナントナク、ナツカシク感ジタ。ソレハ彼レノ音無シノナ風 又ハ「フックリ」シタ「ホー」カルク結ンダロ元 ナニカラナニマデ余ノ氣ニ入ツタデ、各々ト云フ字ガ解ラナカツタノダロー、ソレトナク聞クカラ丁寧ニ教エテヤツタ

十時帰場 世界見物ヲ讀ミ後就眠ス

今日奈良原先生ノ手紙ヲ見テカラ、父ヲ承知サスノハ何シタラヨカロー。又飛行機ニ乗ツタ時ハドンナモノダロー 而シテ

◆▼388ページ◆▼ 明治43(1910)年2月4日(金)

天氣晴

落チテ死ネバ、ドーダ 父ニ不孝、姉ニ不義ニナリハシマイカ。ナニ死ナバ斯界ノ爲メダ 大キク云エバ日本陸海軍否大帝国ノ爲メダ 死ヌル時ハ何處ニ居テモ死ヌ 大阪ニ居テ 高イ醫者ノ藥ヲ、ノンデ死ヌルヨリ余程マシダ。殊ニ新聞ニ名ノ出ルダケデモ結構ダ。ヨシサラバ日本最初ノ飛行機操縦者トナツテヤロー 決心ハ増々カタクナツタ

◆▼399ページ◆▼ 明治43(1910)年2月5日(土)

## 天気晴

今日モ朝カラ横須賀へ行くニ付キ父兄ヲ何シテ承認サセヨカトノミニ腐心シタ。ソシテ今日ハ學校ガ休ミダカラ宅へ帰ルハヨイガ製銅場デ寝ル様ニナツテ初メテノ休日ダカラ早ク帰場シナケレバ、都合ガ悪イガト思ツタガ先生ノ手紙ガ廿六日ノ出ニナツテ居ル。今日デ丁度十日ニナルカラ、余リ返事ガ遅レテ折格(ママ)ノ機會ヲ逃ガス様ナ事ニナツテハ、何ニモナラヌト思ヒ返シテ物價表ノ出來テ居タノモ捨テ、居イテ帰宅シタ。云ヒ出ソートスルガ丁度数サンガ遊ビニ來テ居タノデ、其間ニ兄上ヲ風呂ニ行ツテ貰ヒ早ク帰ラレル様云ツテ待ツテ居タガ七時ニナツテモ八時ニナツテモ帰ラナイ。父ハ一寸用事が出來テ出ル事ニナツタガ、余ガ用事ガアルト云フノデスグ帰ヘツテ來テ呉レタ。處ガ丁度数サンガ帰ツテ仕舞タノデ今ノ間ニト兄上ヲ呼ビニヤルト今帳合ラシテ居ルトノ事。處へ又井筒屋ノ高サンガ遊ビニ來タ。デモ今日ハダメト思ツタノデ奈良原先生カラ來タニ通ノ手紙ヲ兄上ニ見セル様姉上ニ頼ンデ、少々立腹ノ体ニ帰ヘツテヤツタ。實際又兄上モ々々々々 人が折格(ママ)最(ママ)非相談ガアルカラト云フノニ、ユーユート帳合ヲシテ居ルナドハナシタ。夜ルスル帳合グライナラ、左程至急ヲ要スルモノデモナカロー二人ヲ馬鹿ニシテ居ル處置ダ。コンナ事ヲ考ヘナガラ八時十分帰場シ、兎三角返事ガ遅レテハト思ツタノデ御受ケノ返書ダケヲ、書イテ居イタ。

後世界見物ヲ讀ム 老戸次サンハヒヨクリ目ヲ醒シ「戻ツテ來タカ」ト云ワレタ 九時頃門番ガ御風呂ハ、ドーデスト云フテ來テ呉レタノデ一風呂浴スル事ニシタ。浴場カラ事務所へ來ルノニ大分遠イ 其間、湯毛(ママ)ノポツ、ト立ツ「カラダ」ニヒヤリ、ト、サワル風ノ心地ヨサ。ヨイ気味デ寝間着ト着替へ後又世界見物ヲ讀ミ十時半就眠シタ

## ◆◆40ページ◆◆ 明治43(1910)年2月6日(日)

## 天気晴

七時十分出勤 奈良原先生ニ手紙ヲ書ク 後チ事務ニ着手 引合セヲナス 四時閉店。余ハ奈良原先生ニ送ルベキ寫眞ヲ撮リニ田村へ行ツタガ時ガ遅イノデオ茶ヲ引イタ。デ博労町ノ若林獨立軒へ行ツタ サスガ大阪随一ノ寫眞館ダケデ立派ナモノ

一先ツ帰店 夕食後帰宅 父ハ夕食後スグ竹島様へ行ツタノデ兄ヤ姉ニ、トートー余ノ思ツタダケヲサラケシ、今度ハ父ガ何ント云ツテモ最(ママ)非行カズニハ居ナイト云ヒ張ツタ 兄ハ非常ニヤルベシ、トトテ思ヒノ外早く用事ガ方付イタ。姉ハサスガニ「落チテ死ンダラ？」ト心配シタガ、ソレハ御無用 死スル時ハ家ノ内ニ居テモ死ヌトテ此問題モ事無ク解決シタ。而シテ先生ニ出ベキ手紙モ一寸兄上ニ見セテ居イタ  
文ハ次ノ如クデアル

拝呈 二十六日付書翰正ニ拝誦仕り候 就てハ客年御繁忙中を省みず御願申上候件ニ付き御忘れも無く御採用ノ趣き御通知をたまわり有難く奉感謝候

実ハ其後當研究會ニ於テ明年位ヨリ飛行機ノ実験を行わせらるべき由新聞紙上ニてほ  
のかニ承リ内々時機ノ致(ママ)るを相待申居候折柄此度ノ御報ニ接シ誠や欣嬉(ママ)  
若(ママ)躍ノ感ニ打たれ申候

醫師ノ試験表、履歴書并に寫眞等は後便を以て御郵送申上ぐべく手紙仕り居り候  
間先づハ不取敢御受ケ方々御返事)

二月

伊藤音次郎

奈良原三次先生机下帰りガケ姉ニ金三円貰フ 九時十分帰場 世界見物ヲ讀ミ十時  
風呂ニ入り後又書ヲ讀ミ十一時十分前就眠シタ  
後不圖目ヲ醒シタガ余リ「コタツガ」アツイノデ外ニ出シテ寝タ

▲▼41ページ▲▼ 明治43(1910)年2月7日(月)

天気晴

橋モ舟モ小屋モ材木モ屋根モ白イ、、 茲湊町停車場奥ノ掘割ニソーテ店ヘト急グ時  
赤イ、然シヌルイ光ノ太陽ガキラ、ト置く霜ニ映シテ誠ニ美シカッタ

本日モ就(ママ)日近キ未來ニ來ルベキ運命ノ空想ニフケリ續ケタ。然シ用事ハ沢山アッタ。  
何ヤ斯ヤト、ヤツパリバタ、デ日ヲ送ツタ

夜登校シタ 今夜昨冬來學校ニ提出シテアッタ、製圖ヲ貰ツタ 點ハ「英」ヲ最上トシ次  
ガ「良」「可」「稍可」ト四ツニ分ケテアツテ、余ハ四枚出シタ内三度「英」 今一枚ハ英ナレ  
ド「可」ナラザル處アリトアッタ。実ニ不用ト思ツテ畫カナカッタノガヤハリ入ルノデアッ  
タ サテモ残念。然シ「英」三枚ノ内一枚ハ教室内ニ張出サレテアッタ。此レヲ見タ時実  
ニ嬉シカッタ 然シヨク、考ヘテ見ルト「二十才」ニモナツテアレダケノ事ヲ畫イテ居ルヨ  
ーデハマダ、嬉(ママ)ブ處デハナイ 大ニ益々勉強セナケレバナラナイ。十時帰店 今  
日ハ吉田氏ト同宿 飛行船ノ書ヲ讀ミ十一時就眠

発信 奈良原先生ヘ昨日ノ手紙(但シ今ヤ正ニ「ポスト」ニ向ツテ手ヲ、ハナサントスル時、  
之レデ余ノ終生ノ運命ガ初メテ定マルノダナト思ツタ)

▲▼42ページ▲▼ 明治43(1910)年2月8日(火)

天気雨

例ニ依ツテ五時頃カラ目ガ醒メル 六時頃カラ本ヲ讀ミ七時起床。店ニ出ル 一通リ  
用事ガ済ムト濱ヘ行キソレカラ大阪郵便局ヘ此間ノ鉛ノ上納書ノ残ヲ提出ニ行ク 十時  
過ギ帰店

一時頃ヨリ「ヒチャ、」雨トナツタ 學校ヘ行クニハ、スコブル付困難ナ日デアッタ。此  
頃不思議ナ事ニ大抵夜ハ十一時朝ハ六時 早ケレバ五時頃カラ目ガ醒メルノニ學校デ

一寸モ眠クナイ 先ヅ有難事ダ

扱テ本日ヨリ飛行機操縦者トシテ最(ママ)非、カクベカラザル瓦斯機関ノ扱方ガ、分カラナイノデハト思タノデ、瓦斯及石油機関ヲ取出シテ讀ム

又余リ残シテ居イテ入タ本ナドハ、方端カラ原價ノ五割乃至七八割位デ賣リ飛シタ

▲▼43ページ▲▼ 明治43(1910)年2月9日(水)

天気 晴

今日ハ一日以後ノ傳票三渡リニ終日ヲ費シタ。其間、濱(丹後宮本)ニ付イテ品物ヲ見セニ行ツタ

後六時半製銅場ニ帰ル。直チニ宿題ノ製圖ニ懸リ十時頃ヤウヤク、下圖ダケ出來上ツタ。後奈良原先生ヘノ手紙ヲ書ク。處ガ宵カラ寝タ老戸次サガ十時頃カラ目ヲ醒シテ、寝ラレナイトテ、一度宅ヘ帰リ今度ハ、正宗ノ二合瓶ヲ提ゲテ帰リ、ソレヲ、皆吞ンデハ多過ギルダノモツタイナイダノト、酒ノミニ過(ママ)ギリ云フロデ半分ホド、トポ、、、ト、タンポニソ、ギ湯釜ニツケテ、チビリ、、、ヤリダシ、ソロ、、、ト話シダシタノハ、自分ノ主張ダトテ、宗教論カラ國教ヲ論ジ道德トナリ商業論ナリ工業論ト農業論トナリ遂イニ余ニ君ハ中々工業ニ就イテ勉強シテ居ル様ダ、ソレナラ、吾シノ知會ヒニ電気事業ヲヤツテ居ルモノガアルカラ、何シナラ一ツ、ソットロヲ聞イテ見様ナドト一人極メニシテ居ル。然シ余ノ性質ヲ見テ余ノ爲メニ計カッテ下サルノダカラ余ハ心ノ中デ感謝シタ。然シ今奈良原先生ニ手紙ヲ書イテ居ルナドトハ、ヨク云ワナカッタ。其内十壹時モ久シキ前ニ過ギ去ツタノデ、床ニ入り余ハ眠レル。太陽ヲ讀ム

十二時鳴ツタノハヨク知ツテ居ル ソーシテシバラクハ、ヤハリ讀ミ續ケタ

▲▼44ページ▲▼ 明治43(1910)年2月10日(木)

天気 晴

今日ハ別ニ大シタ事ハナカッタ。唯學校ノ製圖ノ投影法ガ今日デ終ツタノト、先生ヘ、手紙ト履歷書ノ下書キヲシタダケ 後世界見物ヲ讀ミ十二時近ク就眠シタ

十二時半大串ヘ身体検査ヲシテ貰ヒニ行ツタ。然シ■■■検査ニモ色々アルソーダガ極ク簡單ナ健康証明ダケニシテ貰ヒ帰途西ノ家ヘ寄り姉ニ一寸横須賀行キノ事ダケ知セテ居イタ

一時酒ノカスヲ「ウン」ト喰イ込ンデ帰場ノ途ニ付ク 其途次去月ノ「実業少年」ニ奈良原式飛行機模型ガ出テ居ルノデ之レヲ購フベク本屋ヲ「アサッタ」ガ無カッタ。此時細雪紛々ト降りシキツテ居タ

帰場後製圖ヲヤツタガ、タツタ一本點線ニスル處ヲ実線 然カモ太イヤツデ、ヤツテ仕

舞ツタノデ折格(ママ)一昨夜十時頃)カ、テ晝イタ圖モダイ無シニシオオツオナリ終ツ  
タ モー晝ク氣ニナラナイ 又明日ノ事ニシヨ

後戸次サンノ知り合ヒニ蓄音機ガアルト云フノデ雪ノ降ル中ヲ借りテ來テヤツタ 非常  
ニ面白イノデ電話デ店へ懸ケテ見タ。井上君ヲ呼ンデ貰フト思ツタガ、又例ノ「カルタ」  
ヲヤツテ居ルト云フノデ、初塚ニ聞カシテヤツタ。ソレシテモ又「カルタ」遊ビトハケシカ  
ラヌ。兄ト云ヒ店ノ連中ト云ヒ、ヨモモノ屋仲間ハ之レダケ「腐ハイ」シタモノダ  
夜戸次サンノ宅へ行ツテ見タ 中々新イダケ奇麗ナ家デアツタ 二階ノ床ニ経ヒツガ二  
個並ベテ置イテ其上ニ古書ガ高ク積カサネテアツタ。コ、ラハサスガ昔ガ昔ダケニ、エラ  
イモノダ 少時遊ンデ帰場。後世界見物ヲ讀ミ九時前就眠ス  
本日大串ヨリ帰宅後直チニ先生へ手紙ヲ出シタ 文ハ次ノ通り 外ニ健康証明一通

▲▼45ページ▲▼ 明治43(1910)年2月11日(金)

天気晴

例刻起床シテ先生へ手紙ト履書(ママ)ヲ書キ封筒ニ納メ後十時頃マデ工場デ雑談ヲシ  
タ(但シ今日ハ工場ハ休ミニナシ) ソレカラ店へ帰り依(ママ)服ヲ着(食事ヲ済シ、帰宅ス  
今日ハ旧正月元日ダトテ宅デハ雑煮ガ出來テ居タノデニ三バイ又方付ケタ 處ガ今  
年カラ旧歴(ママ)本ガ無クナツタノデ元日ガ昨日ト云ウ人ト今日ダト云フ人トガアツ  
テ、ドチラトモ付カナイソノダ  
兄嫁ハ、シキリニ兄ガ此頃竹島デ夜十二時頃)遊ンデ來ルノデ、ドンナラントコボシテ居  
タ。余モ薄々悪イ遊ビヲスル事ヲ知ツテ居ルノデ、折リガアレバ注意仕様ト思ツテ居  
タ。然シ本日モ一日帰宅シナカツタ爲メ、曾(ママ)ヘナカツタ

発信 奈良原先生

▲▼46ページ▲▼ 明治43(1910)年2月12日(土)

天気晴

五時ト云フニ既ニ目ガ醒メタノデ歐州見物ヲ讀ミ後瓦斯及石油機關ヲ練習ス 七時  
十五分起床 少時工場ヲ見八時帰店 小旦那ガモ來テ居ラレタ。今日ハ終日簿記ヲ  
ヤリ通シテ一日ヨリ十日)デノ分ヲ全部記帳シタ 後地方ノ帳合ヲナシ終ルヤ手代室  
ニ入り昨日着替ヘタ着物ヲ手早く整理シ、太陽ヲ集メ宅へ持帰ル 八時帰場 風呂ニ入  
少時讀書 九時半就眠

今日ハ店ニ居ル間少シモ笑ワナカツタ 又笑ヒタクナイノダ。理由トスル處ハ今日ノ店ノ  
情体ガ、ドーモ面白クナイ。飲酒、喫煙、トバク、シット。イヅレ道德ニ返(ママ)シテ居ナ

イモノガナイ。何ダカ汚ガレル様ナ氣持ガシテナラナカッタ故

▲▼47ページ▲▼ 明治43(1910)年2月13日(日)

天気晴

ハ、東京！東京！

ア、モシ、(何處カ分カラナイガ旅館)奈良原サンハ居ラレマスカ？

シキリニ電話ヲ懸ケテ居ルガ一向出ラレナイ。ハ、インアカンノカナ、ドーヤロ、採用シテ下サルダローカ？

.....

狭イ山間(谷間?)カラヌケテ出タ一飛行機 スート心地好ク走ッテ來ル。幕(ママ)々タル野！

中ニ一ツ「コツテージ」ガアル 其傍ニ天ニソビユル大樹ガアル(何ソノ木カ分ラナイ) 冬カレノ葉コソナイガ梢繁ク八方ニ廣ガツテ居ル ソレガ地上カラ第一ノ枝)ノ高イコトハシゴ位イデハ到底間ニ合ヒ兼ネル。太サモ太イ

處ガ今ニモ彼ノ飛行機「アワ」ト思フ内ニ大樹ノ最モ高イ枝ニ懸ッテ動カナイ。乗者ハ幸イ何事モナイガ中々一寸述(ママ)フ事ガ出來ナイ。唯下ヨリハルカニ眺メテ居ルバカリ五時頃ヨリ飛行船ヲ讀ミ七時起床 店へ行ク

今日モ終日店ニアリテ記帳其他明日ノ請求書ヲ作ル

夜四時店ヲ仕舞ウヤ否ヤ食事ヲ終リ帰場 十一日晝キ損ヒノ製圖ニカ、ル 處ガ今日モ又黒入レノ時一寸間違ヲ生ジタノデ九時トードー止メテ仕舞ヒ、カキモチヲ焼キ床ニ入り飛行船ヲ讀ム

今朝余リ先生ノ御返事ヲ氣遣タ精カ妙ナ夢ヲ見タ 即チ別紙ノ如クデアル

▲▼48ページ▲▼ 明治43(1910)年2月14日(月)

天気晴

晝食後、大阪鉄工所、汽車会社、内外綿会社ト順次廻ワツタ 寒イ、時々雪ガ紛々ト降り出スニ困ツタ

四時帰店 風呂ニ入ル 宅ヨリ着替ヲ浪サンガ持ッテ來テ呉レタ

五時終業 井上、坂口、藤田、河の等ハ又ニ階デパチリ、花合セラヤッテ居ル。六時學校ニ行ク 十時十分前帰場 直チニ就眠

▲▼49ページ▲▼ 明治43(1910)年2月15日(火)

天気曇

記事ナシ。只先生ノ返事ヲ思ヒ待ツ  
夜飛行機ニ関スル書ヲ讀ム  
十時就眠

▲▼50ページ▲▼ 明治43(1910)年2月16日(水)

天気曇

例ニ依ツテ朝床ノ中デ飛行機ノ本ヲ讀ム ソレカラ店へ上ル途中道々矢ノ飛ム有様ヲ思ヒ付イテ一寸アーカコーカ考へテ居タ

今日御寮人ハ非常ニ悪イラシイ 昨夜活(ママ)血シテカラマダ何ニモ喰ベナイソーダデ余ハ何時トモ分カラナイノデ、モシ暇ヲ貰フノニ御死去ト、ツキ遅ウテハ又一二週間モオソクナル訳ナノデ今カラ暇ヲ貰フ様ナ風ニ色々見セテ居カウカト思ツタノデ其相談ヤラ先生ノ御返事ガ來テヤシナイカト帰宅シタ

御手紙ハ來テ居ナカッタ。後酒ノカスノ馳走ニナリ、姉ガオカシナ小説本ヲ讀ンデ居タノヲ讀マサレ八時過ギ全部讀ミ終ツテ帰場 風呂入り直チニ就眠

▲▼51ページ▲▼ 明治43(1910)年2月17日(木)

ナツカシイ死ナレタ母様ニ連レラレ横須賀へ行キ正ニ飛行機ニ乗ル處デ夢破ラレタ 時五時十五分前 モー寝ラレナイノデ飛行機ヲ讀ミ又昨夜買ツタ實業少年ヲ見ルト、奈良原式飛行機模型ト而シテ先生ノ肖像ガ出テ居タ。余ハ不計先生ノ面ニ接スルヲ得テ嬉シカッタ。顔色ハ黒イガ「ハナ」筋ノ通ツタ口元ノキリトシタ目ノ冷シイ好男子、好青年士官。之レデ學識ガアツテ飛行機ノ發明家ト云フカラ實ニ余ノ先生トシテ敬ウニ何ソノハヅル處カアランヤト云ヒタイ位。後チ昨朝ノ工夫ヲ製圖シテ見タガ昨日思ツタ通りニ行カナカッタ 少々改良シタ。然シ中々皆マデ出來ナイノデ本日ヨリ學校ヲ廢シテ之レニカゝル事ニ決心シタ 八時前出店 後チ小旦那ニ意見ヲ一寸モラシテ居イタ。夜今日非常ニ眠ムカッタノデ早く寝タ

▲▼52ページ▲▼ 明治43(1910)年2月18日(金)

天気晴

五時目ヲ醒シ飛行機ノ研究ヲナシ八時店ニ出ル 今日ハ非(ママ)ニ暇デアッタ

夜五時帰場 風呂ニ入り研究ニ従事 九時頃大分眠タクナッタノデ「うどん」ヲ喰ヒ又

研究ヲナス 十一時就眠

本日研究中ニ得タル處ハ同機傾斜動ヨーヲフセグ爲メ「ジャイロスコープ」ヲ応用シテハ

如何ナモノカト云フ事ニ思ヒ至ツタ

◆▼53ページ◆▼ 明治43(1910)年2月19日(土)

天気晴

午前六時ヨリ研究ニカ、ツタガ今朝寫眞ガ出來ル筈ナノデ先生ニ手紙ヲ添ヘテ出サネバナラヌデ其下書キヲナス 文ハ先生ガ今ニ何ノ御返事モナイノデ次ノ如クニ書イタ

拜啓 御所望ノ小生寫眞延引ニ延引を重ね誠に恐縮ノ致(ママ)リニ候 漸く本日出來候ニ付別封一葉御送呈申候

就てハ其後閣下御許の御都合如何ニ御坐候や 先日御手紙に依りて愚察ながら、あらかじめ御採用下され候事と信じ奉り御通知ニ接すべく日々鶴首御待申居り候然しながら履歷書に依り小生ニハ飛行機操縦者ニ最も必要なる「エンジン」取扱ひニ全く經驗なきものとの御懸念を保持遊され候んも、たとひ今日(之レ等ニ対スル經驗候はずとも小生も死を決ての志願ニ候ヘバ幾旬ならずして必ず御念を氷解申上くべく勉勵致すべく又浅薄なる考へながら右に對し目下書物により幾分ニ他日の要ニ供せんと獨學致し居り候

尚ほ若し經驗不十分として研究会ニ御採用無之閣下御組織ノ内事業の一員ニ御加ヘ相成候上ハ小生身ハ飛行機否閣下の爲め如何なる犠牲と成るとも喜んで其事ニ従ふべく候

草々敬白

写真ハ晝食前若林ヨリ取り帰り食後投函シタ

夕五時帰宅 伊勢ノ叔母ガ來テ居ラレタ 而シテ今日ハ浪サンノ自前ニナツタ日デ御馳走ガアツタ 八時半帰場 吉田ハンガ、カキ餅ヲ焼クト云フノデ其手傳ヲナシ、後升談話中遂ニ遊郭ノ事ニ至リ余ガ遊ブトハ何シテ遊ブノカト尋ネルトソレカラ、ハハヘト、クワシクハハハ、話シテ余ハ一夜ノ中ニ大變ナ廓通ニナツテシマッタ。トードー十一時モ半バ過ギテヤット眠リニ就イタ

帰場ノ途次先生へ手紙ヲ出ス。途々思フノニ今度ハ如何ニシテモ行カネバナラヌ 行ケハ必ズ自助ノ精神ヲ以テ増々勉強 家ノ厄介ニナラナイ様心懸ケネバナラナイト心ニチコッタ

発信 奈良原三次閣下

◆▼54ページ◆▼ 明治43(1910)年2月20日(日)

天気晴



記事無シ 例ノ通り夜ト朝ハ飛行機研究

▲▼55ページ▲▼ 明治43(1910)年2月21日(月)

天気晴

午前五時十五分目ヲ醒シソレヨリ飛行機研究

夕六時帰場ノ途次商用ニテ新戎橋ノ大和屋旅館ニ紀州ノ吉田氏ヲ訪問ス 帰場 直

チニ入浴後物理学研究々習 九時就床飛行機研究

▲▼56ページ▲▼ 明治43(1910)年2月22日(火)

天気晴

横須賀海軍工廠ニ夜間気球ノ飛揚ノ様ヲ見テ目ヲ醒セバ丁度四時過ぎ 又ウツ、ト

シテ五時半ヨリ研究ニカ、ル 七時起床 店ニ出ル

午後濱ノ現在ヲ中山氏ニセカレテ大キニ困ツタ。ソレガ爲メ大分頭ヲ痛メタ ア、ヤ、コ

シカッタコト

六時帰場入浴 講義録整理後物理 終ツテ、カキ餅ヲ焼キ就床後研究 十時就眠

発信 藤井甚松様返事

受信 藤井甚松様繪はがき

▲▼57ページ▲▼ 明治43(1910)年2月23日(水)

天気晴

今朝先進飛行家ノ苦辛(ママ)スル下降ノ際ダカノ爲メニ往々機ヲ破碎スル事ニ付イテ  
研究ヲナシ少シク端緒ヲ得タ。然シウマク行クカ否カハマダマダ、ウタガワシイ

夕四時店ヲ出工場ニテ入浴 五時帰宅シタ。先生カラハマダ何ニモ來テ居ナイ。大分氣  
懸リニナツテ來タ。然シ余モ一度思起シタ事デモアリ又生命ヲモトマデ、チカッタ事ダ  
カラ若シ返書ガ來ナケレバ此方カラ出懸ケテ行ツテデモ又先生ニ採用セラレナケレバ他  
ニ轉書ヲ貰フカ左モナケレバ一時、何レニカ身ヲ寄セ一苦辛(ママ)ノ上機會ヲ待ツ事ニ  
仕様ト早クモ決心シタ。然シ父ハ非常ナ不機嫌デアッタ。ソレニ返シ兄ハ又大変ナ同情  
デ色々ト余ノ爲メニ計カツテ呉レタ 九時過ぎ帰場 少時研究ヲ續ケ十時就眠

▲▼58ページ▲▼ 明治43(1910)年2月24日(木)

天気晴

午前五時半ヨリ研究 今日ハ何ソノ得ル處モナカッタ

特筆スベキ事ナシ

夜モ又研究 物理學等 常ト大差ナシ

▲▼60ページ▲▼ 明治43(1910)年2月25日(金)

天気 晴

毎朝ニ変リナシ 唯今朝不圖シタ事カラ、オイ、ト考ヘテ行クト今マデノ研究ノ仕方ハ實ニ皮相ノミニ渡ツテ具体的ノ考察ニナラナカッタ事ヲ發見シ数理的ニヤル事ニシタ。然シソレハ誠ニヨカッタガ少シ六ツケ敷クナルト淺學ノ悲シサ 割出シガドーモ出ナイ コレニハ一番ヨワッタ

夕工場カラ電話デヨンデ呉レタノデ、夕食ハ工場デスル事ニシタ 丁度田中努氏モ居ラレテ肉ノ御馳走ニナッタ 後研究ト物理 十時就眠

一パイ機嫌デ遊ビニ出タ吉田ハント戸次サンハ一時過ギ帰場シタ 河野君ハ夕五時十八分ノ列車ニテ御祖父御病氣ノ爲メ帰國セリ

▲▼60ページ▲▼ 明治43(1910)年2月26日(土)

天気 雨

朝カラビシヤ、、降りデ嫌ヤナ天氣デアッタ 然シ晝頃カラ雨ダケハ上ガッタ 午前例ノ通り研究。今日ハ電車ニ乗ラズニ出勤ス。

夜物理 不思議ト今日(理解スル事ノ出來ナカッタ速度ノ公式ガズン、)解スル事ガ出來ルノデ非常ニ心持ガ好カッタ。後チ研究

▲▼61ページ▲▼ 明治43(1910)年2月27日(日)

天気 晴

五時半ヨリ研究 七時出勤。朝一通り用事ヲ終ルヤ書出シテ整理シ後書出シ配リニ出二時前帰店 地方帳合ヲナシ、來テ居ル書出シヲ取調ベ支払帳ニ付上ゲヲナシ夜八時就終業

九時帰場 途次心濟(ママ)橋筋ニテ飛行機ノ玩具ヲ見タ 實ニ輕妙ニ出來テ居ルノニハ感心シタ。余ガ昨春色々工夫ヲコラシテ、得能ワナカッタノガ今ハ玩具トナツテ販賣セラレテ居ル 實ニ余ハ余自身ノ淺薄ナル學才ニハジタ。然シ而シテ益々人一倍ノ努力セザルベカラザル事ヲ、論(ママ)ッタ。十時過ギ就眠

▲▼62ページ▲▼ 明治43(1910)年2月28日(月)

天気晴

七時十分前出勤 就(ママ)日バタゞ、デ終ツタ。今日ハ不思議と、主人ノトガメヲ得ル事ガナカツタ 実ニ拂帳ヲ書ク様ニナツテ初メテノ事デアル 夕六時過ぎ坂口君ト長堀橋下ノ蠣殻デ夕食ヲ共シ、大分酒ヲ呑ンダ。タシカニ一合ハヤツタデアロー。然シ左様ニ、ヨウモノデハナカツタ 帰途、不圖思ヒ出シテ帰宅シタ 而シテ、西ノ姉モ帰宅來テ居タノデ余ノ將來ノ大体ノ方針ト希望トヲ述べ父ニ安心スル様取ナシヲ依頼シテ居イタ。西ノ姉ハ余ノ顔ヲ見テ好イ色ヤコト。否ヤ右ノ眼ガ悪イ様ナ、ドーモ赤イナドト常ニノマナイカラ酒ヲ目ノ悪イノトヲ間違ヘテ仕末ツタ(勿論目モ少々悪ルカツタ) 少々骨稽デアツタガ答ヒモナラズ廿時ソノマ、十時帰場 新聞ヲ讀ミ十一時就眠

◆◆63ページ◆◆ 三月中行事豫記

本月中ニ暇ヲ取り出發ノ事

六日、日曜日竹島御主人ニ願イ出ヅル事

一円五十錢自助論 一円五十錢工手便覽 二十錢科學世界 三十錢太陽 八十錢論語

ズ 四円三十錢

一円七十錢英語ノ本

ズ 六円也

◆◆64ページ◆◆ 明治43(1910)年3月1日(火)

天気晴

五時ヨリ自助論ヲ讀ム 説ク處コトゴトク自助ノ精神ヲ發揮セザルハナク本書ヲ讀ンデ怠惰タラントテモ然ル能ワザルズ 余デスラモ今朝僅ニ数葉ヲ讀ンダニ過ギナイガ自カラ勤勉、精力、正直タラントノ念ガ悠然トシテ起ルノヲ覺エタ

今日ハ晝食前郵便局へ行ツタノト夕方香港へ三興洋行へノ電報ヲ小旦那ノ書イタノデ、間ニ合ワナカツタカラ書キ直シタ 其他ニハ終日月表ノ準備ニ費シタノミ 夜頭痛ヲ感ジタノデ早寢シタ

但シ帰場ノ途次心済(ママ)橋ヲ通り飛行玩具ヲ見ル

◆◆65ページ◆◆ 明治43(1910)年3月2日(水)

天気晴

床ノ内ニテ自助論ヲ讀ミ七時出勤 直チニ事務ニ懸リ余暇ヲ見テ自助論ヲ讀ム 夕六

時半帰場 三十分間物理 後チ飛行機玩具製造ノ設計ヲナシ十時過ギ眠ニ就ク  
目ヲ閉テ後チ先生ヨリ今ニ何ン等返事ナキニ付今一応手紙ヲ出シタモノダローカ 其レ  
ニ何云フ具合ニ云フタモノデアロー、又ハ六日竹島御主人へ話シニ行カナケレバナラヌガ、  
ドー云フ風ニ持チカケタモノダロー、ナドト考ヘルト漸(ママ)時ハ眠レナカッタ

◆◆66ページ◆◆ 明治43(1910)年3月3日(木)

天気 晴

自助ヲ讀ミ七時出勤 直チニ事務ニ着キ本日試算表ヲ完成ス

事務終業 食事後井上、坂口、河野其他ニ二三諸君ト雑談ノ内ニ談ハタママ工場余  
ガ店ヲ却ツタ後チ工場へ宿直ニ誰レガ行クデアロートノ事ニ寫リシニ何レモハ皆一齋ニ「イ  
ヤドンナラン」「イヤゴタンユームル」ト誰一人行クト云フモノガナイ 然シテ云フ處ガ実  
ニ不可思議ダ。ソレハタトヒ電車デ通フトシテモ電車マデ歩ムノガ、ジャマナトカ、車デ  
送ツテ呉レルナラ、ママダ行カナイコトモナイトカ、或ハ五十銭宛日終ヲ呉レルナラバナ  
ドト実ニ余ニ彼レ等ガ何ンノ爲メニ生キテ居ルノカ解ラナイ 余ハ幸ヒニ今日(父兄姉  
ノ教導キ 藤井家ニ居ル時ノ感化ヤ、ハタ昨冬以來工業夜學校へ通ツタ御蔭ゲデ人間  
ガ働クト云フハ普通ノコト ムシロ人間ノナスベキモノト思ツテ居ルカラ工場へ通フ位ヒ何  
ントモ感ジナイ。ムシロ余ハ工場ノ方ガ夜間勉強スルノニ静カデ而シテ他ノ人々ガ皆店  
ノ様ニ輕薄デナク、質粗(ママ)ナ風ヲ嬉(ママ)ムト共ニ夕方ハ大抵電車ニ乗ラズ「テク、」  
歩イテ帰ルノニ又一種ノ趣味アルコトヲ感シダ。而シテ今日モ帰途飛行機ヲ見テ帰場  
後直チニ竹デ製造ニ着手シタ トコロガ大体ノ骨格ガ出來上ツテ見ルト、ドーモ重過ギ  
ル様ナ感ジガシタ。デコレデアカナイトキハ他ニコレヨリ輕イ材料ヲト考ヘテ見ルトア  
ル、輕々モ、之レヨリ輕イモノハアルマイ、ウマイヨイトコロヘ氣ガ付イタ。ソレハ「緒  
ガラ」デアル 之レナラ大丈夫ト思タデ今夜ハマダ動力ノ「ゴム」ガ買フテナイノデ、アト  
ハ朝(ママ)日ニユヅルコトニシタ  
後「趣味」ヲ讀ミ十二時就眠シタ

◆◆67ページ◆◆ 明治43(1910)年3月4日(金)

動カナイデ今度ハ、算盤ヲ縦ニ二挺平行シテサシテ其上へ十五六番ノ針金ヲ渡シ、ソノ  
上デ試験スルト一番ウマク行ツタノガ三寸ばかり動イタ 而シソレハスベッタノデ針金ガ  
ウマク、クル、廻ワツタノデハナカッタデ、之レニ車ヲ着ケタラタシカニ、二三尺ハ走ルモ  
ノト、タシカメタ。ソコデ明日ハ最(ママ)非「緒ガラ」デ機体ヲ構製(ママ)スルコトニシテ、  
床ニ入り「セルフヘルプ」ヲ讀ミ九時就眠ス

本今朝ノ間ニ用事ガ方付イタノデ午後掛残ヤ傳票ノ整理ヲナシ、モ一無クナツタモノハ  
注文スルコトニシ、改正電話ノ判ノナイモノニハ小供ニ之レヲナサシメ余モ手傳ヒ四時半

風呂ニ入り五時終業シタノデアル午前五時ヨリ「趣味」ヲ讀ンダ 然シ讀ンデ居ル内ニ  
ドーモコンナ小説ヲ讀ムノガオシ様ナ、モッタイナイ様ナ氣ガシタノデ直チニ、トチ後  
チ新聞ト自助論トヲ讀ミ七時出店ス  
夕帰場ノ途次ラバ商会ニテ飛行機ノ動力ニスベキ「ゴム」ヲ求メタ  
帰場後直チニ推進器ノ製造ヲナシタ。マヅウマク出來上ガッタガ柚ニ動力ナイ様ニ付ケ  
ルノニハテドーシヨト思ツテ色々ヤツテ居ル處ハ職長ノ中村ガ來テ之レヲ「カラクツテ」  
付ケテ呉レタガナニガサテ、ユニーム板ノ薄イノダカラ又ガタゞ、動キ出シタノデ今度ハ  
糸デグルゝ、巻キニクゝリ付ケテヤツト試験シテ見ルト昨夜思ツタ通り ハタシテ重ニ手  
ノ上デヤルト少シモ

◆◆68ページ◆◆ 明治43(1910)年3月5日(土)

天気晴

冷タイ水道デ洗面ヲ終ルト直グ工場ヲ出タ 空ハ奇麗ニハレテ居ル例ノ泥クサイ小川  
ノ「ランカ」ニハ淡イ霜ガ消エカゝツテ居ルハ分寒イタ

半町程先キノ円手橋ノ上ニ、七ツ八ツノ柄ノ悪イ悪サラシイ坊ズ共ガ三四人寒ソニー  
橋ノ裾ニカタマリナガラ紫ノ雲ノ間カラ出ル眞赤ナ太陽ヲメヅラシソーニ見テ居ル。ト  
何處ノ鳩カ五羽六羽七羽住友倉庫ノ家根ノ上ニ時ニ高ク抵(ママ)ク片々ト面白ソニー  
舞ヒ飛ンデ居ル。多分倉ニコボレテアル豆ヲヒロイニ來テ居ルノデアロー。余ハウラヤマシ  
ク早く此廣イ々々空ヲ一人飛ンデ見タクナツテ來タ。而シテ高イ處ヲ飛ブ時此冷ヤカ  
ナ空氣ガ顔ヤ頭ヲサワル心持ハ、ハテドノ位ノモノデアロート想像シテ居ル内ニ電車ニ乗  
ルベキ處ニ來タ電車ニ乗ツタ 例ノ通り半バキタナイ洋服着タ労働者デ充テ居ルタサ  
レテ他ニ遠イ學校ニ行ク女學生ラシイノト何處カノ女子事務員ラシイ海老茶ガ二人  
ト職人ラシイノヤラトデ何人モ皆之レカラ開カレル活動ノ舞台ニ就カントスルモノノミ  
デアアル

ソニー、此労働者！此労働者！労働者ノカノ如何ニ大ナルヨ！今日文明ハ何ニ三負處最  
モ大ナルカ？他ナシ此レ等勞力者！如何ニ健腕、繁腦ノ才子ト雖ドモ彼等ハ、タゞ考察  
ヲナスノミ議論ヲナスノミ 然シテ之レ等考察、議論ガ今日ノ文明トシテ現ハル、モノハ、  
此七時前ノ半貨ニ依ツテ、イミジクモ彼レ等ノ持場ニ就カントスル勞力者ノ堅忍ト力ト  
ニ依ツテナリ。而シテ彼レ等ノ得ル處ハタシテ幾何ゾ 大ナル労働ノ僅カナ賃銀ト彼レ  
等ノ、マトエル依(ママ)ノ汚レトナツテ彼等ニ歸スルノミ 余ハソゾロ社會ノ不均等ナルヲ  
感ジヌ。ト共ニ余ハ余ノ將來ニ思ハ走リヌ。而シテ余ノ新ナル生活ニ入ラントスル今ノ  
時即チ過渡期ニオケル、障碍ヲ如何ニシテ通過センカ？

試ミニ明日ノ竹島御主人トノ會見如何ニシテ此最初ノ難関ヲ無事ニ越スベキカ。省ミレ  
ハ昨年ノ此頃ナリシ 目的ハ異ナルヲ雖モ同ノ目的ニ於イテ竹島様ニ  
對セシ時余ハ遂ニ失敗セリ 即チ徴兵險(ママ)査後タラザルベカラザルニ至レリ。サレド

モ此度ハ再ビ失敗ヲセザランコトヲ決心シヌ。ソハ先生ノ手紙ト此幾日ノ間讀ミツ、アル「セルフヘルプ」トニ依リテ余ノ決心ニハ忍耐テフ鞭撻ヲ欠ケタレバナリ。ア、余ハ敗ラレジ。必ズ々々

今日ハ充分ナル余暇ヲ得タルマ、多ク自助論ヲ讀ムコトガ出来タ

夕帰場ノ途次「緒ガラ」ヲ購フベカリシガ主人ヨリ戸次サンへ着物ヲ「事ツカリ」シ爲メ一度帰場シ入浴後日本橋ナル知り合ノ荒物ヤ行シ。幸ニ品物ハアリタリ。サレドモ何分時季違イノモノトテ奥倉ニ仕舞アレバ明日ニナシ呉レトノコトニ余ハ其「ジヤマ」ナランコトヲ深く謝シ明日ヲ約シテ帰リヌ

行ク途々多クノ荒物屋ヲ尋ネシモ何處ニモナカリシナリ

帰場後約一時間半ばかり自助論ヲ讀ミ十時半頃就眠ス

▲▼70ページ▲▼ 明治43(1910)年3月6日(日)

天気晴

朝店へ來ルトスグ兄ニ電話デ今夕御主人ニ話シニ帰ルベキ事ヲ通知シテ居イタ

夕食後一寸帰場シ直チニ帰宅 其儘竹島様倉庫ニ兄ヲ問ヒ御主人ニ一寸取次イデ居イテ呉レタカト聞クト「マダダ」トノ事 実ニハキリノシナイ兄ダト思ツタガ兄ニハヤハリ兄ダケノ考ヘガアル 而シテ今一度充分確メタ上ノ事ニシタラドーダトノ意見 余最初ハ折格帰ヘツテ帰タノデト思ツタガ遂ニ兄ノ説ニ同意シタ。宅ニ寄ルト伊勢ノ叔母ガ父ガ大変恐(ママ)コツテイルト云ツテ居タ。姉モ余ノ爲メニシカラレタトノ事 余ハ父ノ眞意ヲ解スルコトガ出来ナイ 何故ナラバ今日)父ハ余ニ對シ全ク勇氣否快氣ノナキモノトシテ一ツ米国ヘデモ出テ行ク位ノ氣ニナレトハ終始云ツテ居ツタ處ナノダ 然ルニ横須賀位ヲ遠イ處へ行クトテ心配シタリスルカラ

然シ余ハヒソカニ思フ 父ノ反対意見ハ表向キノミデ全ク複雑ナル家庭ノ事情ト竹島様ニ對スル儀(ママ)理トニヨルモノナル事ヲ。オ行クオオバ到抵デ余ハ今日)ナルベク円萬ニ極ヲ結ンデ行キタイト思ツテ居タガ、此有様デハ到抵(ママ)ダメダ。全ク非常手段ニ依ルノ外道ナキヲ論(ママ)ツタ。オソレコソオハ就テハソレニシテモ第一最初ニ父ニ最モ安心スル様ニシナケレバナラン。第二ニハ兄ヤ姉ニモ知ラシテハ返ツテ迷惑ヲ懸ケルモノダローサレバ之レ等ニモ極ク密々ニシナケレバナラナイ。第三ニハ其準備ヲ整ヘザルベカラズ。当月其際佐渡島、竹島両御主人又ハ父兄姉ニ對スル置キ手紙ハ何ント書イタモノダロート今日ハコンナ事ヲ考ヘオナガラ直チニ帰場シタ。而シテ兎ニ角先生へ手紙ヲ書ク事ニシタガ、合ニク來客ガアツタ爲メ明朝ニユヅリ「セルフヘルプ」ト「科學世界」ヲ讀ミ十一時半就眠ス

▲▼70ページ▲▼ 明治43(1910)年3月7日(月)

天気晴

午前四時半目ヲ醒シ其レヨリ先生ヘノ手紙ノ下書キヲナシ五時半起床 洗面ヲ終テ工場ヲ出ル 空ハマダ暗イ 星ハキラ、トカ、ヤイテ細イ月ガ僅カニ照ラシテ居ル 丁度新戎橋) 來ルト客待チノ辻車ガ低イ声デ「御帰リデスカ御傳シマヨカ」ト一寸ツイテ呉ルノデ余ハ僅ニ頭デ、イラナイ事ヲ示シタ。車夫メ場所ガ場所ダケニ朝戻リノ客ト間違ヘ居ツタラシイ 不ラチナヤツメ。帰店後手紙ヲシタ、メ投函ス。余ガ店ヘ着イタノハ六時ソレニ、誰レ一人起キテ居ナイ。女中マデ六時半頃モツコリ起キタ。余ノ店ニ居ル時ト朝早ク夜ガ明ケル様ニナツテ起キルノガ反(ママ)ヘツテ遅クナツテ居ル。ドーモ仕方ノナイ人バカリダ

夜新材料ヲ以テ飛行機ノ骨組ヲ造ル

発信 奈良原三次殿

▲▼71ページ▲▼ 明治43(1910)年3月8日(火)

天気晴

今朝店デ、岩田兄弟商会ヘ丁銅ヲ賣ツタ 處ガ二三日前ニ岡本君ガ三十七円ト延丁銅ノ直(ママ)段ヲ云ツテ有ルノニ裏カラ岩田ハ何時モ小丁銅ダカラ小丁銅ヲ持タシテヤレトテ小丁銅ノ傳票ヲ廻シテ來タノデ余ハ延丁ノ直(ママ)段デ賣ツテアルノダカラ延丁ヲヤレト云フト、前田ハンガ小丁デヨイ云フテ居ラレラスト返答シテ來タノデ余ハ一声「佐渡島商社ハ、ソシナ不正ナ事ハセズトモ宜シイ 前田ハンデモ誰レガ云ツテモカマワヌ 延丁ノ直(ママ)段デ賣ツテアレバ延丁ヲ持タシテヤリナサイ」ト一本ハネツケテヤツタガ小旦那ノ中サイ(ママ)デ結極小丁銅ヲ小丁銅ノ直(ママ)段ニシテ持タシテヤル事ニシタ夜「セルフヘルプ」ヲ讀ミ又飛行機ヲ造ル

▲▼72ページ▲▼ 明治43(1910)年3月9日(水)

天気晴

執務中寸暇ヲ得テ「セルフヘルプ」ヲ讀ム中 過々曾々「オックスフォードのオール・ソールスにある時計の表面に彫メル格言」ヲ讀ミ余モ自今此主意ニ反(ママ)カザランコトヲ断ジ余ノ時計ノ「フタ」ニ同格言ヲ記セリ

夜物理學ヲ學ブコト一時間余 九時過ぎ就眠ス

今日夕工場ニテ反射爐デ「エンコツ」ヲ造リツ、アリタリ 余ハ稍ヤ久シキ間之レヲ見ル内余ノ身体ガ爐カラ四五尺離(ママ)ダタツテ居ルノニ顔ナドハ熱ニ「ホテル」位デアアルノデ余ハ此等ノ熱ヲ全放散シナイ様ナ装置ニスレバ石炭ノ消費料ガ非常ニ減ジ又型ニ流スノニ今少シ機械的ニヤレバ人夫ヲ少クシテ生産費ヲ安價ニスルコトガ出來ルダロト思ツタ ソーシテ將來店ニ居ルモノナラ之レ等ノ研究ヲシテ見ルモノヲト思ツタ

▲▼73ページ▲▼ 明治43(1910)年3月10日(木)

天気晴

旅費ノ準備トシテ昨日買ッテ居イタ伊藤公銅像ヲ姉ニ買ッテ貰フベク夕方帰宅シタツヒデニマルマン(万の文字に○囲み・以下同じ)デすしヲ用意シ持ッテ帰ヘツタ 處ガ、兄ノ「ヤ、ユガ出來テ居ル 余ハ實ニ驚イタ 聞イテ居ルト一昨日出來タトノコト。ソレニ一寸モ知ラシテ呉レナイノダ。然シ今度ハ男デ大分強ヨソデアッタ 父モ今日ハ大分機嫌ヨク後チニハ何處ガ近所ニ「素人淨ルリ」ガアルノテ聞イテ來ルトテ出テ行ツタ。デ余ハ姉ニ銅像ヲ示シ十円デア買ッテ貰フコトニ頼ンダ 最初ハナカ、聞カナカッタガ遂ヒニ「モノ」ニシタ 然シアマリ余モ心持チガヨクナカッタノデ原價ヲ云ツテ末舞ウ(ママ)フト姉ハ苦笑シテ居タ 九時半帰場 後チ物理 十時半就眠

▲▼74ページ▲▼ 明治43(1910)年3月11日(金)

「セルフヘルプ」ノ中ニ博士ノメーソン・グードハ病人回診ノ爲メ馬車ニ乗り廻ル間ニ「ラクレチーウス」ヲ翻(ママ)譯シ、「ヘール」ハ「サーキット」ニテ旅行セル間ニ「コンテンプレーション」ヲ書キ「バーネー」ハ門生ヲ歴訪スル旅行中ニ佛蘭西語及ビ以太利語ヲ學ビ「カークホワイト」ハ事務所ニ通勤セル往復ノ途中ニテ希臘語ヲ學ビタリト有リシニ余モ店ノ通勤スル途中ヲ利用シテ漢文ヲ學バント志シ今朝ヨリ実施ノ爲メ歩ルク事ニシ今日ハ名詩鈔ヲ讀ム

例ニ依ッテ記事ハ例ノ如ク大差ナシ

▲▼75ページ▲▼ 明治43(1910)年3月12日(土)

天気晴

海ヲ渡ッテ吹き來ル烈風ハ朝ニ於イテ時々雪ヲトモナイテ、出店ノ途次傘ノ爲メニ吹き飛バサレントセシコト幾度モアリタリ

夜物理、三角法、後カキ餅ヲ焼キ食シテ十時頃就眠

▲▼76ページ▲▼ 明治43(1910)年3月13日(日)

天気晴

朝四時ヨリ三角法後チ代数 六時戸次サンニサソワレ店ニ出ル マダ大抵寢テ居タ夕方不圖帰宅スルト、清平ノ六日ザダトテ非常ナ御馳走デアッタ

八時帰場 入浴後九時就眠



▲▼77ページ▲▼ 明治43(1910)年3月14日(月)

天気晴

今朝ハ一昨日購ナッタ論語講義ヲ讀ミツ、出勤ス  
午後住友鑄鋼場へ行ツタノヲ幸ヒ帰途安倍川ノ某船具店ニテ兼ネテノ帆布ノ目方ニ就  
イテ、ウマク買フ様ナ顔シテ尋ネテ見ルト極ク厚イモノデー、印デニ丈ホドダソ一ダ  
無論巾ハ一尺八寸ニ極マツタモノトカ 値段ハ一、二印ガ三円四五十錢ハ最底(ママ)ヤソ  
一ダ。夜八時) 明日ノ支拂準備ニ付夜業ヲナス

▲▼78ページ▲▼ 明治43(1910)年3月15日(火)

天気雨

論語ヲ讀ミツ、出勤 大分得ル處アリタリ  
晝晝ハ集金ノ整理支拂等ニテ終日急ガシク送レリ  
夜、昨日モ一昨日モ勉強ヲシナカッタノデ非常ニ心ヲ改メ安カラザリシモ六時ヨリ十  
時)デ數學ヲ學ビ間ニ出發ニ際シ費用ノ計算ヤ、持参スベキ物品書物ニ就イテ取調べ  
シタ爲メ心持ヨク寝ニ就クヲ得タ 時十一時過ギ

▲▼79ページ▲▼ 明治43(1910)年3月16日(水)

天気晴

五時覺醒 新聞ヲ讀ミ六時半起床 論語ヲ手ニ出勤  
事務ハ忠實ニ終リ六時帰場 入浴後飛行機ニ車取付ヲナシ八時半ヨリ漢文復習 ツヒ  
デニ出郷ノ時家ニ残サントテ七絶ヲ賦ス 即チ下ノ如シ

決然去國向天涯 生別又兼死別時

誰知今夜出郷志 愁使情緒闕考弟(ママ)

書シ終ルヤ、カスカニ警鐘ノ音ヲ聞ク 門番ヲシテ尋ネサシタガ充分デナイノデ自身電  
話ニテ濱宅へ聞クト近所カ否カラ聞クト板屋橋ノ周防町角ダトノコト 先ヅ安心シテ  
十一時就眠ス

▲▼80ページ▲▼ 明治43(1910)年3月17日(木)

天気晴

五時覺醒 新聞ヲ讀ミ六時半起床 論語ヲ讀ミツ、出勤  
出店ノ準備トシテ着々用事ヲ方付ク  
夜七時帰場入浴 三十分間代數學 後チ直チニ就眠ス

▲▼81ページ▲▼ 明治43(1910)年3月18日(金)

天気 晴

四時半ヨリ新聞ヲ讀ミ後チ飛行術研究 六時起床 論語ヲ讀ミツ、出勤 本日八八併  
第三モスデニ央過ギマデ進ンダ

夕五時ヨリ今日ハ工場デ稻荷祭ヲスルノデ井上君ト余ト御馳走ニ預リニ帰ヘル 余ハ先  
ヅ入浴シ宴ニ列シ四五ハイ盃ヲ重ネアトハ食事御飯トシタ 皆ハ「ニワカ」ヲシタリ歌ウ  
タリ大分ニギヤカデアッタ 十時全部解散 十時半就眠シタ

▲▼82ページ▲▼ 明治43(1910)年3月19日(土)

天気 晴

バチ、ト天窓ヲ打ツ雨ノ音ヲ聞イテ再ビ目ヲ醒シタ 時ハ丁度三時 便所ニ行ツテ帰ヘ  
ツテ來ルト中島ハソガ平方根ヲ出ストハドシナコトカト尋ネラレタノデ、ツマリ算術ノ開  
平ノコトヲ答ヘルト算盤デ仕方ヲ教ヘテ呉レト云ハレタガ余モ此間カラシキリニ考ヘテ居  
タノダガ解スルコトガ出來ナカツタノダ シカシ余モ又研究ニナルコトト思ツタノデ、ソレ  
カラ色々工夫ニ工夫ヲコシヤット講義録ノ中カラ引パリ出シ筆算デ出來ル様ニナツタ  
ガサテ算盤デヤルトドーモヤリニクイ。デ又考ヘテヤット五時過ギヤ、コシナガラ算盤デ  
行ケルヨ一ニナリ中島ハソニ傳ヘタ。後チ新聞ヲ讀ミ又問ヒニ対シ中島ハソニ「スケッチ」ノ  
ヤリ方ヲアラマシ話シテ六時半起床 少時稻荷サンノ飾リ物ノ仕(ママ)末ノ手ツダイヲ  
ナシ出店。今日ハ非常ニヒマデアッタ。

夕方五時帰場工場ニテ夕食ヲナス。後チ平秤ノ製圖ヲナシ終ツテカキ餅焼ヲシ九時頃  
就眠

▲▼83ページ▲▼ 明治43(1910)年3月20日(日)

天気 曇リ

日曜デ余暇ヲ多ク得タダケ 「セルフヘルプ」ヲ讀ム

夕四時終業後直チニ帰場 入浴後夕食 但シ天野ハソヲ招待シタノデ肉ノ御馳走デア  
ッタ 後チ「三越タイムス」英語ノ日本ヲ讀ミ十時前就眠ス

▲▼85ページ▲▼ 明治43(1910)年3月22日(火)

天気 雨

今ニモ降り出シソーナノデ論語ヲ手ニシタマ、讀マズニ早足ニ工場ヲ去ル 途途昨日ノ手紙ニ付キ一時ハ時機ノ到ルマデ待ツテ見様ト思ツタガ、ヤハリ一日モ早ク行ツテ其ノ事アル(デ)ニ通り同機操縦者トシテノ智識ヲ養ナウ必要ヲ感ジ、何ンデモ明月ハ出郷セザルベカラズト決心シタ 然ルニ此決心ハ遂ヒ三三四ヶ月待タザルベカラザルニ到ツタ ソハ数日前ヨリ店ヲ休ンデ居ラレタ前田ハンガ正午、忽如トシテ死去ノ悲報ニ接シタ爲メ、タゞサエ人員不足ノ今日倉庫長タル同氏ノ死去ニ際シ如何ニシテモ、店ヲ去リニクイ故デアッタ 夜ソレニ就キ帰宅ス  
八時半帰場 入浴後床ニ入り少時昨日ノ日記ヲ文ニ綴リ就眠ス

▲▼86ページ▲▼ 明治43(1910)年3月23日(水)

天気 雨

本日午後三時前田氏ノ葬儀行ハレ店前ヲ通過ス 嗚呼僅ニ数日前) 共ニ勤メタリシ人而シテ店員多シト雖モ誰カ一度ハ同氏ノ許ニ教導セラレザルモノアランヤ。然ル故ヲ以テ差支ヘ無キ限り店員全部見送リスルコトナリヌ 余ハ不幸留都(ママ)ヲ命ゼラレタリ。其間余ハ二十一日ノ日記ト先生ヘノ礼ノ草稿ヲ作ル

▲▼87ページ▲▼ 明治43(1910)年3月24日(木)

天気 晴

五時半起床 六時店ニ出テ先生ヘノ手紙ヲ認ム 後チ倉庫ニ於テ「セルフヘルプ」ヲ讀ム 十時土木出張所ヘ行キ帰途國分店員來ニテ阿保ノ代金ヲ受取ル 帰宅スルヤ、小旦那ノ電話ニヨリ、別判所(ママ)ヘ実印ヲ持參ス 時スデニ十二時過グル 幾分空腹甚ダシ

夜物價表ノ爲メ八時過ギ帰場 科學世界ヲ讀ム

発信 奈良原先生

▲▼88ページ▲▼ 明治43(1910)年3月25日(金)

天気 晴

朝例ノ通り新聞ノ後チハ論語ヲ持テ出勤

書モ一ソロ、引合セラシテモヨイ時分ト思ツタノデ地方ヲヤツタ  
夜六時帰場 入浴後代数ヲヤツテ後チ「ジヤイロスコープ」ノ圖ヲ畫イテ居ルト丁度店  
カラ電話デ越智ヘ行ツテ明朝カラ引キ取ツテ貰フコトヲ傳ヘテ呉レト命ゼラレ、折格  
アタタマツタ寝間着ヲヌイデ又冷タイ「シヤツ」トキカヘ、ブラリ出タガ處ガ分カラナイ  
ノデ京川デ聞キ合セ。「ウドン屋」ノトナリノ「ロジ」ト云フノデ尋ネタガ一向分カラナ  
イ 困ツテ居ルトソノコ女ノ人ガ「モ一ツ南ノトコニ、ユボチヤガアリマシタ筈デ」ト教ヘ  
テ呉レタノデ、行ツテ見ルトナル程「ユボチヤ」ラシイ、ロジノ入口カラ煤ケタ板ヤ棒ガ  
気味悪イ程積ンデアル。ヤツト尋ネアテ、電話ノ趣キヲ傳ヘタガ主人ガ居ラナイノデ、  
妻ラシイ人ニクレ、云ヒ置イテ表へ出タ。スグ帰ローカト思ツタガナンカナシ千日前ヲ  
ブラツイテ見タクナツタノデ東へト進ンダ。例ノ「ヒヤカシ」客ノゾロ、スル處ヲ足早ヤニ  
通りヌケルト千日前ニ出タト、又何ンカナシニ何ニカ喰イタクナツテ、「芋ウドン」デモ  
ト思ヒナガラシバラク本屋ノ前ニ立ツテ買ヒモセズ其儘又北へト行ツタガ、「芋ウドン  
ヤ」ハ表通りデ人目ガ多イシ、ト思フト又、法善寺口ノ「善哉」ニ仕様トクルト廻ワツテ  
「ゼンザイ」ニハイニ「山」一パイヲ平ゲタト「モ一」マタ西洋料理ガタベタクナツテ「ヨド  
今度ハ御手輕西洋御料理トシタ提燈ヲ見付ケテ這入ツタ 初メノ内ハ少シニシテ置コー  
ト思ツタガ「タベテ」居ル内ニ何ニカモ一モノカ、コレキリデ來月ハ何ニモ「デンヤモノ」ハ喰  
ワズニ辛棒(ママ)仕様トツヒモ一皿モ一皿ト、五皿平ラゲ其上ニ「小ビール」一本ト  
「コーヒ」一杯 腹ハモ一モ一イケナイ 勘定スルト八十五錢取ラレタ 何ンダカ「オシイ」  
様ナ氣ガシタガ仕方ガナイ。ブラ、ト帰場シタノガ帰場ノ途ニ付イタガ不圖思ヒ出シ  
テ門番ニ「スシ」ヲ一寸求メモ帰ルコトニシタ

▲▼89ページ▲▼ 明治43(1910)年3月26日(土)

天気 雨

新聞ヲ讀ンデ論語ヲ手ニ出懸ケル 湊町アタリカラ、ポツリ、トシテ來タノデソレカ  
ラハ急イデ出店

晝少(ママ)暇ヲ得タノデ「セルフヘルプ」ヲ觀「平面幾何學」ヲ學ブ

夜判取帳引合セ 九時帰場 直チニ就眠

▲▼90ページ▲▼ 明治43(1910)年3月27日(日)

天気 曇

朝例ノ通り

晝午前中簿記 午後増田へ昨年末ヨリノ勘定引合セニ行ク 其往復モノズキニ歩イテ

見タガ今日ハ非常ニ温カデ「ビッシヨリ」トハ行カナイガ「ニツチャリ」ト汗ヲカイタ  
夜六時帰場 入浴後帰途求メタル糸ゴムヲ以テ飛行機ノ試験ヲ行フニ一向推進機ガ  
回轉シナイ 原因ヲ調べテ見ルト推進器ノ「フェール」ガ悪イ「ゴム」ハ之レデ先ヅ理想  
的ダロー 然シ次ギニハ、モ一少シ強ク懸ケネバルマイ 後チ代数 英語ヲ習學シ十時  
就眠ス。本日ハ時間ヲ正確ニ費シタル爲メ寝心スコブル宜シカリキ

▲▼91ページ▲▼ 明治43(1910)年3月28日(月)

天気 晴

朝雨が降ルカト心配シナガラ論語ヲ讀ミ々々出店 幸ニ降ナカッタノミナラズ後チニハ  
「ケロリ」ト晴レテ春風ヤワラカニ心地ヨイ日デアッタ

七時帰場 入浴後袷セト着替ニ帰宅ス。帰場ノ途次ツラ、考ヘルニ今夜姉ノ云フ通り  
實ニ余ハ言行一到(ママ)セザル人間 無純(ママ)甚タシキモノデアッタ。而シテ本日「セル  
フヘルプ」ノ中ニ誰人モ其収入金額ノ内ニテ生活スルヨウ計ルベシ 中略 蓋シ若シ人、  
自己ノ収入ノ中ニテ正當ニ生活スベシルヨウ計ルベシ 中略 蓋シ若シ人、自己ノ収入ノ  
中ニテ正當ニ生活スルヨウ計ラズバ彼レハ不正當ニ他人額上ノ汗ニ寄食シ居ルモノナリ」  
トアッタ ア、余ハ実ニ姉ノ額上ノ汗ニ寄食シツ、アル。男子スデニ二十才ニ成リテ、アエ  
テ心ヨントスベキコトカ？ 否否 余ハ過テリキ  
帰場九時 其レヨリ「ジヤイロスコープ」研究 後チ飛行機推進器ノ速力研究ヲナシ十  
一時就眠

▲▼92ページ▲▼ 明治43(1910)年3月29日(火)

天気 晴雨

平日ニ異ナルコトナシ

夜吹岩へ一寸行キシノミ

▲▼93ページ▲▼ 明治43(1910)年3月30日(水)

天気 曇

今日モ又点滴ノ音ヲ聞イテ起キル 新聞ニハ土佐灘ニ於ケル低気圧ハ東北ニ進行シツ、  
アリトアルカラマダ晴レソーニモナイ 実ニ斯春雨モ淫々ト降ラレテハ一向雅モ趣キモア  
ツタモノニアラズ 殊ニ泥濘駄足ヲウヅム狭イ町ノ中ヲ朝夕通勤スル身ニハ誠ニウンザリ  
トスル 但シ後チ曇リトナツタガ北風アリテ再正ノ念ジアラシメタリ

午後師團經理部へ見積物アリテ腕車ヲ飛バス

夜七時半)明日支拂ノ準備ヲナシ八時帰場 入浴後チ科學世界ヲ讀ム

▲▼94ページ▲▼ 明治43(1910)年3月31日(木)

天気曇

今日大多忙ヲ極ム 夜十時) 夜業 後チ帰場後代数學 十一時終リ後チ少時英語ノ日本ヲ讀ミ就眠

▲▼95ページ▲▼ 四月中行事豫記

六円繰越 本代 二十銭科學世界 四十銭氣象學

▲▼96ページ▲▼ 明治43(1910)年4月1日(金)

天気曇

五時半覺醒 其レヨリ新聞ヲ見起床 出店ハ例ノ如シ  
本日午前中昨夜々業シタ爲メ爲スコトナク午後モ又閑デアッタ 依ツテ、ソレダケ多ク  
自助論ヲ讀ミ又論語ヲモ觀タ

四時頃二三日前ヨリ氣候ヤ風ノ付イテ非常ニ趣味ヲ感ズルヨリニナツタノデー一通  
リ研究シテヤロート思ツテ田中へ行キ氣象學ノ書ヲ購ヒ歸ル

夜六時帰場入浴。後チ、カキ餅焼ヲナシ少時氣象學ヲ學ビ八時半就眠セリ

本日帰場ノ途々オヲ、過已及將來ノ空想ニラケル 余ハ今日(自助論ニヨリテ固キ志  
ヲナシタ)ハ全ク意志ガキ薄弱ナル アダカモ浮ベル雲ノ如キモノデアッタ事ヲ感ジ、  
ソーシテイツカ余ノ今日)即チ二十年間ノ歴史ヲ書キタイト思ツタ

▲▼97ページ▲▼ 明治43(1910)年4月2日(土)

天気雨

終日春雨肅々タリ

朝例ノ如ク晝又例ノ如シ 但シ本日ハ昨日ト反比例ニ四時頃)ハ月表ノ準備ニ寸暇ヲモ  
得ザリキ

帰場後氣象學

▲▼98ページ▲▼ 明治43(1910)年4月3日(日)

天気曇

晴モセズ曇リ續ケテ降りモセズ

朝四時半目ヲ醒シ氣象學ヲ學ビ明近ク又目ヲ閉ジテ空想ヲ浮ブ 八時起床 九時一寸帰宅シ、序二兄ヲ起シテ(此時兄ハ清平ト寢テ居タ)共ニ公園ニ博覽會ヲ見ル マダ充分ニ調テ居ナイ 殊ニ出品物ニ目ヲ引ク様ナモノハ一ツモナイ 機械館モマダ「エンジン」ヤ何ニカノ据付ケ中デアッタ 然シ例ニ依ツテ繩織器、織器、精米器、ポンプ、瓦斯發動機バカリデ目新ラシイ發明品トテハ一品モナイ 唯ダ一寸前ノト変ツテ居タノハ稍ヤ精巧ナ印刷機械ガ三台アッタノミ。帰宅後途肉ヲ求メテ兄ト晝食ヲ共ニシ、二時帰場ス。然シテ再ビ出デ店ニ行キ菓ヲ服シ、科學世界ヲ持チ帰場 途次ポケット日記ヲ購ヒ、帰場後氣象状態ヲ明示センタメ日本、朝鮮、及ビ支那露西亜東部ノ地圖ヲ作ル 然シテ之レニ倦ム時ハ科學世界ヲ讀ミ後チ論語ヲ手習ヒシ十一時就眠セリ

◆◆◆99ページ◆◆◆ 明治43(1910)年4月4日(月)

天気曇

記事ナシ 本日科學世界、氣象學ヲ讀ミシト雖モ多ク時間ヲ空費セシヲ恐ル 但シ本日ハ實業少年ニ飛行機大會ノ寫眞アルヲ見テ直チニ之レヲ求ム

◆◆◆100ページ◆◆◆ 明治43(1910)年4月5日(火)

天気晴

廿六日以來打續イタ雨曇モ今日ハ名残ナク晴レ渡タツテ如何ニモ春ラシイ好天氣デアツタ 然シ少シ北風ガ寒カッタ

今朝老主人高岡へ行カレタ。余ハ例ノ如ク論語ヲ手ニ出勤ス 晝余暇多ク其科學世界ヲ見ル 又氣象日記ヲナス

夜七時帰場入浴 八時ヨリ九時)代数尚多クヲ成サントシテ眠氣ニ障ゲラレ其儘就寢

◆◆◆101ページ◆◆◆ 明治43(1910)年4月6日(水)

天気晴

昨夜成サントシテ成サザリシ欠ヲ今朝オギナワント欲シ早ク目醒メンコトヲ祈シ居リシ 甲斐アリテ十二時過ギ目ヲ開キヌ。此レデハ余リ早過ギルヲ以テ再ビ眠リ今度醒レバ一時半 マダ早シト又ウツ、スルニ此度ハ二時過ギ モー少シ早イガ之レカラ遣ロト 思ツタガ又知ラヌ間ニ目ハ閉ジテ次ハ三時過ギ 然ルニ尚起キル能ワズ 又眠リ四時又五時 遂ニ本ヲ讀ムヲ得タリ。後チツラ、慮ミルニ余ノ意志今ダ固ナラズ ア、如何ニセバ此惰性ヲ脱シ得ベキヤ ア、余ハ何故意志ヲ実行シ得ザルカ大ニナヤミ且ツ悔ヒヌ。サレドモ満足ナル解決ヲ得ザリキ ア、マダ余ハ眠レルカ

本日午後六時抵氣象學ヲ學ビテ時ヲ費ス。夜六時帰場 氣象日記ヲ誌シ後チ飛行機ノ圖ヲ畫ク内目ガ急ニ痛ミ出シタノデ不圖見ルト袖ニ二錢銅貨大ノ穴ガアイテ烟ヲ噴イテ居ル 驚イテ消シタガサテ困ルノデ早速帰宅 着物ヲ着替ヘタ 十時帰場 飛行機研究 十一時前就眠

▲▼102ページ▲▼ 明治43(1910)年4月7日(木)

天気 晴

朝例ノ如シ

本日月表出來上ガタ 處ガ小旦那ガ一寸調べラレト非常ナ間違ヲ發見セラレタノデ余ハ午後ヨリ之レガ大調査ヲナシ夜八時頃漸ク全部遣リ替ヘテ作クッタ。實ニ此度ノ間違ハ馬鹿々々シイ様ナコトデ全ク岡本君ノ引合せガチャランポランデ遣ツテアツタ爲メダ 後チ濱宅ヘ行き小旦那ニ英語ノ本ヲ借りル心計リノ處來客ニテ約壱時間半モ待ツタ上漸ク拝借シ帰場シタノガ丁度十時 ソレカラ氣象日記ヲ付ケ十一時就眠ス 尚本日帰場ニ付キ大キナル風呂敷包ミヲ事傳ケラレ一時不平ヲ感ジタルモ後論語ヲ思ヒ浮ベテ之レヲ打消シヌ

▲▼103ページ▲▼ 明治43(1910)年4月8日(金)

天気 曇リ

四時ヨリ飛行機研究 六時半起床出店

晝特筆スベキコトナシ

夜六時帰場入浴 七時ヨリ代数 八時半ヨリ、カーチス商会ヘノ手紙ヲ作ル 何シロ、ロクニ遣レナイ英語ヲ二年余モ前ニ止メテシマッタノダカラ作ルノニ大變ニ骨ガ折レタ 十一時頃ヤット下書キダ出來上ツタ 後チ飛行機研究 十二時半頃吉田氏帰場セラ ルニ二時研究ヲ止メ裏ノ反射爐ニテ少時「ダン」ヲ取り床ニ入ラント事務所ヘクル時不計小吹屋ノ方ヲ見ルト火焰ガポツヽヽト出デ眞赤ニ見エテ居ルノデ驚イテ近寄ルニバチヽヽト焼ケル音ガスル イヨイヨケシカラント、ロール場ヲ向ヘ出テ見ルト何ノ事ダ重サ ンガ焚火ヲシテ居タノデアッタ。就床後昨日ノ氣象日記ヲ付ケ就眠ス

▲▼104ページ▲▼ 明治43(1910)年4月9日(土)

天気 雨

今朝昨夜作りシ英文ヲ小旦那ニ一寸見テ不備ノ點ヲ直シテ貰ヒ投函ス

夕帰場後入浴、代数、氣象、九時半就眠

発信 カーチス商会



▲▼105ページ▲▼ 明治43(1910)年4月10日(日)

天気 曇

記事ナシ

夜製鉄所製造ノ平浪板ニ「マーク」ヲ付スルニ付キ其レニ何ニカヨイ「マーク」ヲト云フノデ、色々画イテ見タ 其レガ丁度十時半マデカヽッタ 後チ氣象日記 十一時就眠  
発信 藤井甚松殿

▲▼106ページ▲▼ 明治43(1910)年4月11日(月)

天気 雨晴

店へ來テ此間山奈良カラ呉レタ白ノ小兎二匹ヲ御見舞シテヤルト御腹ガスイタカ、ピヨコヽヽト顔ヲ眺テモノホシゲニシテ居ルデ「御カラ」ヤ裏ノ草ナドヲ與ヘルトサモ嬉シソ  
ーニ食テ居タ 余モ嬉シカッタ

本日出店ノ途々飛行機ノ安定ト云フコトニツイヒ考ヘテ居タ處フト凧ガ空中ニヨク安定シテ居ルノハ如何ナルワケカト云フコト思ヒ着イタ 勿論タコニ長イ尾ヲ付ケルガ又着ケナイノモアル 然カラハ彼レハタゞ一筋ノ糸デ安定シテ空中ニ懸ツテ居ルノデアル 處ガ如何ニシテ糸ガアレバ安定シテ居ルノカト考テ見ルニ、ソハ凧ノ圧面ニ吹キ付ケル風ニ均(ママ)合フ處ノ糸ノ力ガ備ナハツテ居ルカラデアル サレバ若シ其力サへ均(ママ)合へバヨイトスルナラバ糸ノ変リニ他ノモノヲ以テシテハ如何 スナハチ飛行機ノ圧面ニ返(ママ)對ノ方向ニ推進器ヲ付シ之レヲ回轉シテ均(ママ)合ヲ保チシメヨト思ヒツイタ 然シ此コトタル 実ニソウウマク行クモノデハナイ 即チ變化極クナキ風ニ對シ均(ママ)合フヨーニ推進機ヲ廻轉シナケレバナラナイ 之レガ実ニ難事申中ノ難事デアル 然シ後日研究資料トシテ研究帳ニ留メテ居イタ。夜昨夜マーク書キニ又十二時)カヽッタ

▲▼107ページ▲▼ 明治43(1910)年4月12日(火)

天気 晴

低氣圧ハ北東方ニ過ギ去ツテ高氣圧ガ北清地方カラ來リツヽアルト云フノデ久シ振リニ好天氣トナツタ

昨日ノ飛行機研究ノ記事ハ今日ノ誤リ

夜九時就眠 ソレ) 何事モナスナク心マヅク眠ル

本日濱宅上棟式ヲ行フ

▲▼108ページ▲▼ 明治43(1910)年4月13日(水)

天気晴

論語ヲ讀ミツ、出勤 晝常ノ通り用ヲ済マスト明日ノ請求書ヲ作ル  
夜名古屋共進會ノ飛行機模型ノ出品有無ヲ確メル爲メ往復はがきデ照會シタ  
九時小旦那那二借リタ工學大辞典ヲ出シ圧力ニ付キ研究ヲ初メタガカイモク眠ムクテサ  
ツ。パリヤレナイ トードー其儘寝テ仕末ツタ

今日兎ヲ藏ノ前ノ丁亜鉛ノ上へ乗セテヤツタ。デナイト防(ママ)達ガ悪サヲシテ、殺シ  
テ仕舞ソーデアツタカラ。然シ今日カラ「ヲカラ」ヲ老銭ツ、與ルコトニシタノデタ方ニハ  
大分元氣付イテ居タ

発信 名古屋共進會事務所

▲▼109ページ▲▼ 明治43(1910)年4月14日(木)

天気晴

飛行機ノ工夫ヲシナガラ出勤 例ニヨツテ簿記ダケスマシテ集金ノ手配ヲナシ余モ又書  
出シ配ニデタ 晝食ハ川口デ西洋料理ヲ取り帰途工場ニ寄り三時頃ノ遊ビ帰店ス 其  
途デ今朝兎ノ爲メニ葉ヲ買ツタ時八百屋三忙(レテ)居イタ論語ノ本ヲ尋ネルト毎朝夕  
通ル爲メヨク顔ヲ知ツテ居ルモノト見エ、アイソヨク渡シテ呉レタ。

帰店後妙ナ事カラ禁酒論ニ入ヌ 轉ジテ小旦那ト論語ヤ自助論ニ付イッテ小閨(ママ)  
論ヲナシ勝利ヲ得タ。其中ニ余ハ余ノ禁酒ガ今後十年ヲ經バ必ズ功アルベキコトヲ確言  
シタ。然シハタシテ成功スルダローカ ア、勤勉セザルベカラズ。ハゲメ々々々 而シテタ  
トヒ成功セザルトモ余ハ余ノ「ベスト」ヲナサバソレニテ満足セン。然レド天ハ其「ベスト」ニ  
対シ必ズ報酬アルコトヲ信ズ

夜飛行機研究 十二時過ぎ就眠

▲▼110ページ▲▼ 明治43(1910)年4月15日(金)

天気晴

朝ソレ、集金ニ出シテ居イテ余モ又集金ニ出正午過ぎ帰宅 其内他ノモノ等モ帰ッ  
テ來タノデソレヲモ收入ニ記帳シ山口へ入金ス

夜一度帰場 傳票ノ整理ヲナシ後子若シヤ共進會カラ返事モカナト思ツタノデ帰宅シ  
タガマダ來テ居ナカッタ 九時帰場 タゞチニ就眠

▲▼111ページ▲▼ 明治43(1910)年4月16日(土)

天気晴

論語ヲ手ニ出勤 途次兎ニ葉ヲ求メ之レヲ與フ

書食後内外綿会社へ集金ニ行ク途々飛行機ノ楫ニツイテ工夫シ稍ヤマトマリタル考察  
ヲ得タリ

受信 藤井甚松殿

▲▼112ページ▲▼ 明治43(1910)年4月17日(日)

天気 晴

此頃ノ花時ニマレナ快晴々々又快晴ト云フ好天気。ゾロ、ト出懸ケル人何ノ町モ此ノ  
町モ織カ如クデアル

朝論語ヲ讀ミツ、出勤 余ノ椅子ニ着クト寫面台ノ横カラ小イサナ紙ガ出テ居ル 見  
ルト今日ヨリ当分現金課詰ヲ命ズ主人トシテアル。即チ坂口君ガ昨日大阪病院デ見  
テ貰フト神経衰弱ト云フノデ漸(マ)時静養ニ帰ルノデ其輔欠トシテデアッタ。ソーシ  
テ余ノ代トシテ裏カラ岡本正君ガ帳場へ來タ 余ハ心ヒソカニ喜ンダ ソレハ岡本君ガ余  
ノ事務ヲ取ルトスルト今度坂口君ガ戻ツテ來ラレタラ、余ノ身体ハ暇ヲ取ルノニ頗ル好  
都合デアルカラ

夕天王寺公園ニ櫻花ヲ見ル 何ニガサテ都會ノ俗塵デ包マレテ居ルカラ竹外ノ詩ノ水  
煙花霧縹糊ヲ寫スルト云フ様ナ趣キハ更ニナイ。加フルニ今日ハ少シ頭痛ヲ感ジタノデ  
花ヲ見テモ美シトモ麗シイトモ思ワナカタ ソレカラスグ宅ニ寄り夕食ノ御馳走ニナリ  
七時半帰場シタ。ソレカラ中山君ノ御依頼ノ「マーク」ヲ畫コト思ツテ居ルト中島ハ  
ガ開平ヲ教ヘテ呉レト云ハレ余モ、ワスレテ居タノデ九時頃)デ懸テヤット済シ後チ「マ  
ーク」ヲ畫ク 一時終リ就床 今日ノ新聞ヲ讀ミニ二時前眠ル

受信 名古屋共進會

▲▼113ページ▲▼ 明治43(1910)年4月18日(月)

天気 晴

論語ヲ讀ミツ、出店

現金部ニ居ルト表ヲ自然見ルノデ花見客ガゾロ、歩ルクト、シヤクニサワツテ來ル  
夕父ニ京坂電車ノ無料乗車券ヲ持ツテ帰ルト丁度魚島デ大キナ「タイ」ヲ貰ツタト云  
フノデソレヲ御馳走ニナツテ帰ル

▲▼114ページ▲▼ 明治43(1910)年4月19日(火)

天気 曇

例ノ通り新聞ヲ讀ミ終ツテ論語ヲ手ニ出勤

余モツラ、思ヒ店ヲ出ルニシテモ、セメテ何ンナト一ツ目ザマシイ働キラシテ出ナイト

頗ル不甲斐無イ次第デアルノデ現金部へ來タヲ幸ヒ營部ガ一向振ルハナイカラ、一氣張シテ大ニ面白ク新タメテヤロト決心シタ。ソーシテ成ルベク安價ニシテ多ク賣ルト云フ方針ニシタ

夜昨年ノ大火詳報ヲ讀ミ九時就眠

▲▼115ページ▲▼ 明治43(1910)年4月20日(水)

天気 晴

飛行機ヲ工夫シナガラ出勤シタ 然シ得ル處ハナカッタ

今朝兎ガ一匹下水へ落ち込ンデ大サワギヲシタ

後チ錆ノ武力板ヲ尋ネニ來タ人ガアルガ買ツテ呉レナカッタ

午後小主人直接貸シノ木村常ノ約手期日ニ付キ支拂要求ニ行ツタ。主人不在デ要領ヲ得ズ。ツヒデニ帰宅 菓子ヲ飯(ママ)ベテ葉書ヲ一枚書イテ帰ヘツタ 漸(ママ)ラクスルト昨日カラ尋ネニ來テ居ル横町ノ借家ヲ見セテ呉レト云ツテ來タ。ソレガスムト大常トカ云フノガ浪板ノ七八千枚ヅ、ニ六尺式百枚ノ直(ママ)段ヲ聞キニ來タ 多分モノニナリソーデアッタ。夕方食事ヲ終ツテ帰り懸ケルト梅田ノ平岡ガ來テニツケル板ヤ武力ノ話ヲナシ七時過ギ帰場シタ

右ノ如ク今日ハ急ガシカッタ割ニ賣上ハ五十五円程シカナカッタ

夜研究ヲ初メルト又眠クナツテ明朝ヲ期シテ八時過ギ寝タ

▲▼116ページ▲▼ 明治43(1910)年4月21日(木)

天気 雨

夕方帰場ノ途ニ大分蝙蝠ヲ見ル様ニナツタ 今日モ例ノ通りテク、ト奇麗ニ掃除セラレテ水ハ晝間ノホヨリハ何處ヘト云フ位ヒニピツタリト地ニオチツイテ散カレテアル 余ハ一日ノ間此帰場ノ時ダケハ何モノヲモ考ヘナイ。實ニ平和ナ余ノ爲ニハ極樂ノ様ナ時デアルノダ。今日ハ帰場後飛行機研究準備トシテ科學世界其他ノ雜誌切取リヲナス終ツタノガ十一時 スグ寝タ

▲▼117ページ▲▼ 明治43(1910)年4月22日(金)

天気 曇

今日ハ少々急(ママ)ガシカッタ 御蔭デ三百円以上ノ賣上ガアッタ

又横町ノ家ヲ借りニ來タノオ見セテ來テ呉レト云フテ來タノデ最初カラノ行懸リ上余ノ係リノ様ニナツテ仕末ツタ

夜一寸帰場 直チニ帰宅シタ 別ニ用事ハナカッタノダガ今日ノ当直ガ老戸次サンデア

ルノデ電燈ヲ付ケテ居クト眠レナイト云フカラ從ツテ本ヲ讀ム訳ニ行カナイカラ帰宅シテ遊ンダ 父ハ此間持ツテ帰ヘツタ京坂電鉄ノ切符デ今日京都へ行ツタトテ喜ンデ居タソーシテ、八幡ノ八満サンデ五錢デ晝一食ヲスマシ拝殿ノ内ヲ見ルノ三三五錢取ラレルノガ嫌ヤサニ外ダケ見テ帰ツタトノコト 余ハ實際驚イタ。ソーシテ今ノ余ノ行ヒニ比較シテ大ニ反省スル處ガアッタ 十時半帰場就眠

▲▼118ページ▲▼ 明治43(1910)年4月23日(土)

天気 晴

記事ナシ

平日ニ同ジ

▲▼119ページ▲▼ 明治43(1910)年4月24日(日)

天気 晴後曇

今朝出店ノ途中飛行機研究ノ爲メ最(ママ)非一度佛国ニ行キタイト云フ希望ヲ起シ節約ノ必要ヲ感ズ

今日腹部ニ痛ミヲ感ジ困難ス 夜帰場後直チニ終(ママ)眠セリ

尚ホ今日アルミニウム蠟ヲ尋ネニ來タ人ガアッタノデーツ研究シテヤロート思ツテ必要ナ材料ヲ調べテ帰場シタ

▲▼120ページ▲▼ 明治43(1910)年4月25日(月)

天気 雨

今日左ノ如キ詩ヲモノシタ 即チ

近頃爰寝坊成

東風老徐々偏南 花辨解臺淡残香

春眠難醒莊子夢 何時復又莫旧矣

眞ニ此頃寝坊ニナツタ 如何ニシテ之レヲ驚正センカ實ニ問題デアル

夜帰宅 節季ノ拂(但シ本屋)トシテ五円五十錢貰フ 帰途時事ノ夕刊ト初等獨逸語研究ト云フノヲ買ツテ讀ンデ見タ 十時就眠

▲▼121ページ▲▼ 明治43(1910)年4月26日(火)

天気晴

朝新聞起床後論語ヲ持テ出店

業務ノ合間々々ニジョージ、ステッフエンソンノ傳ヲ金科玉條ニ寫ス 何分客ヲ待ツ商賣  
ダカラ暇ナド云ツテ勝手ナ用事ばかり出来ナイ 手ヲ空ケテ、ポカントシテ居ラネバナ  
ラヌ。其時間ガ何ンダカ惜シイ様ナ氣ガシテナラナカッタ  
夜代数後研究 十時就眠

▲▼122ページ▲▼ 明治43(1910)年4月27日(水)

天気晴

今朝近古史談ヲ讀ミツ、出勤シタ。何ンダカト思ツテ居タガツマリ昔ノ多ク武士ノ逸事  
即チ、道德的ノモノヲ集メタモノデアッタ。余モ大分讀ンデ居テ訳ガ明(ママ)カルヨ  
ニナッタ。然シチヨコ、六ヶ箇數字ガ大分アッタ

今日モ余暇ニスッフエンソンノ傳記ヲ寫ス

二時頃ヨリ高津ト松井ニツケル板ヲ賣リニ行ツタ 賣レハシナカッタガ大ニ得ル處ガア  
ツタ

夜代数 九時半就眠

発信 藤井甚松様

▲▼123ページ▲▼ 明治43(1910)年4月28日(木)

天気 雨

平日ニ同ジ

夜戸次サンニ漢詩ノ講義ヲ聞ク 大ニ得ル處アリタリ  
而シテ後十八史畧ヲ貰フ事ヲ約ス

▲▼124ページ▲▼ 明治43(1910)年4月29日(金)

天気 晴

平日ニ同ジ 夜モ又同ジ

▲▼125ページ▲▼ 明治43(1910)年4月30日(土)

今日ハ節季デアル 然シ余ハ現金課詰デアルカラ非常ニ樂デアッタ 其カワリ掛取ニ出  
タ

今朝自助論ヲ讀ミ終ツタ 然シテ大ニ感ズル處ガアツタ。ソハ別ニ金科玉條中ニ記スル思慮デアアル  
夜帰宅シタ

◆▼126ページ◆▼ 五月中行事豫記

大洋  
シヤツ一円七十銭 サル又三十銭 帽子一円十銭  
ズ三円十銭  
田中  
老円七十銭文章軌範 廿銭科學世界 十五銭理學界 天界ノ現象一円十銭  
ズ三円十五銭  
文具屋  
楠木ペン 五十銭  
クツ二円七十五銭

◆▼127ページ◆▼ 明治43(1910)年5月1日(日)

天気 晴  
一日ナリ日曜ナリ快晴ナリデゾロ、出ル人ガ沢山アツタ  
今日ジョージ、ステフエンソンの傳記を寫し終る  
夜代数。後ち名古屋共進會にて研究スベキ諸點をノートニ記シ旅程旅費等ヲ計算ス  
十時就眠

◆▼128ページ◆▼ 明治43(1910)年5月2日(月)

天気 雨後チ晴レ  
明日アタリ阪口クン帰店ノ筈ニ付キ余ハ其レト同時ニ名古屋へ行ク計畫ニテ今朝主人ニ  
阪口君帰店ノ暁ハ数日間ノ暇ヲ貰フコトを願ふて居いた  
夜代数學ヲ學ビ九時就眠ス

◆▼129ページ◆▼ 明治43(1910)年5月3日(火)

天気 晴曇  
イヨ、明朝名古屋へ行クノデ、夕方帰宅 父ニハ、内所(ママ)デ姉ニ費用トシテ十八円

貰ヒ受ケ直チニ又引返シテ社ニテ着物ヲ着替ヘ帰場シタ  
帰途停車場ニ寄り時計ヲ合シテ居イタ  
嬉シイ様ナ又何ニカ恐ロシイ者デモ見ニ行ク時ノ様ナ一種ノ感ガシテ直グニ六寝ラレナ  
カッタ

▲▼134ページ▲▼ 明治43(1910)年5月8日(日)

天気曇

夜來ノ疲レニ醒メタ目ヲ再ビ閉 今度目醒メタ時ハスデニ七時 早速起キ出テ店ヘ出タ  
仕度ヲ調ヘ途中巴堂ニテ菓子ヲ求メ之レヲ土産ノ替ニトシテ店ヘ出タ。然シ今日カラハ  
何ニモスル事ガイ(ママ) 余ノ仕テ居タ事ハ今岡本正君ガヤツテ居ルデ午後此間ノ考ヘヲ  
實行スベク先ヅ関鉄工所ヘ被雇用ノ事ニツヒテ行ツタ 處ガ今日ハ休場シテ居ツテ然カモ  
誰レモ居ラナカッタカラ其儘工場ニ行キ夕方帰宅シテ旅費ノ残リヲ戻シ、竹島様ヘ行キ  
兄ニ面會シテ今夜工場へ來テ貰フコトニシ帰場シタ。實ハ竹島様ニ今日御願ヒスル計畫デ  
アッタガ帝国坐見物ニ行カレタノデ、思ヒ止マラネバナラナカッタ。夜石油機関研究ノ  
爲圖ヲ寫シテ居タガ八時過ギ眠クテ、タマラナクナリ、コロット横ニナツタマ、寝テ仕末ッ  
タ。ヤ、シバラクシテ起ス者アルニ目ヲ醒スト兄デアッタデマツ余ノ心意ヲ明ラカニ兄ニ  
告ゲタ。兄ハ例ノ通り、何ニヨイトモ悪イトモ批評ヲ加ヘナイデ、十一時頃、居テ、ソレ  
デ帰ヘテ仕末ッタ 余ハ又其儘寝タ

▲▼135ページ▲▼ 明治43(1910)年5月9日(月)

天気晴

フット目ヲ醒ストフトンヲ、クル、ト卷イタナリニ寝テ居タ 時四時デ再ビ床ヲ取り寝



夕 七時前起床 八時出勤 例に依ッテ昨日ノ通り用事モ無カッタガ今日現金場ノ黒田君ガ終日不在デアッタノデ、小賣部ノ手傳ヲシテ居タ  
夕方帯屋ノ蝦菓子求メ之レヲ持ッテ竹島様へ行ッテ御主人ニ面會シ明ラ様ニ今日ノ事情ト余ノ決心トヲ述べ又今暇ヲ貰フノニ最好時節タルヲ説キ萬事宜シクト御願ヒシテ宅ニ帰ヘッタ 今日ハ父ハ裏ノ家ガノ軒棟上ゲダトテ氣(ママ)嫌ヨカッタ。ソーシテ、夕食ニ余ノ望ミデ豚肉ノすき焼ヲナシタ 十時帰場 十一時半就眠

▲▼136ページ▲▼ 明治43(1910)年5月10日(火)

天気曇

晝八月表ガマダ合ハナイト云フノデ一寸調べテ見テヤッタガカイモク分ラナカッタ  
夕方帰場 入浴シテ、サテ勉強シヨートスル處へ門番ノ木戸ト云フガ出テ來テ講談ヲヤリ出シタ 九時頃漸ク帰ヘッタノデソレカラ石油機関ノ製圖ヲナシタ

モ一近頃ハ未來ニ來ルベキ奮闘の生涯ヲ想像シテ殆ンド頭ニ休ミ間ガナクナッタ 即チ如何ニシテ困難ニ打勝ツベキヤ 實際余ノ身体ガソレニ克ツノニ充分デアラローカ、之レガ最モ余ノ氣ニ懸ル處デア何ニシロ茲數年間ト云フモノホトンド帳簿ヨリ重イモノヲ持ッタコトガナイノダカラ

受信 藤井甚松様 紀南ノ海岸ヨリ

▲▼137ページ▲▼ 明治43(1910)年5月11日(水)

天気雨

夕方カラ帰宅シタ。ソレハ竹島様ダケニ頼ンデ居イタガ一ツ父ニモ直接談判ヲシテ一日モ早く解決ヲ付ケテ仕舞フト思ツテ、デ夕食モ宅デ喰ツタ。丁度其處へ兄モ帰ヘツテ來父モ今丁度竹島様へ行ッテ來タト云ツテ帰ヘツテ來タ ソシテ父ハ非常ニ立腹シテ居タ曰ク「誰レニ相談ヲシテ竹島ハへ行ッタノダ」ト 然シ之レ位イハ一モニモ承知ノ上ノ事ダカラ格別恐レモシナカッタ 其内兄ヤ姉ヤガ色々云ツテ呉レテ父モ遂ヒニ承認シタ 九時帰場後瓦斯oil engineヲ研究ス 十一時就眠

▲▼138ページ▲▼ 明治43(1910)年5月12日(木)

天気晴

今日トードー月表ノ間違ノ個所ヲ發見シタ

夜少時Oil Engineヲ研究シ完(ママ)ク其運動ノ仕方ヲ知り得タ

後義士銘々傳ヲ讀ミ十一時半就眠ス

▲▼139ページ▲▼ 明治43(1910)年5月13日(金)

天気曇

今日モ例ニ依ッテ用事ナキマ、岡本君ノ手傳ヲナシ三時半頃帰場シタ ソシテ、「カタロ  
グ」ヲ調理シ後チ入浴 タ食ヲ済シ夜ハ工業大辞書ヲ調べ得ル處アリタリ 九時半就  
眠

▲▼140ページ▲▼ 明治43(1910)年5月14日(土)

天気 雨後チ曇リ

今日ハ晝食後書出シ配リヲシテ其儘帰場 職工ノ拂ノ手傳ヲナシ夜工業大辞書ヲ見  
得ル處又少ナカラス 十時半就眠ス

▲▼141ページ▲▼ 明治43(1910)年5月15日(日)

今日カラ簿記ヲ一人デ引受ケル事ニシタ 之レデ一寸用事ガ出來タ  
夕四時半帰場 戸次サント晚餐ヲ供ニス。後チ一寸帰宅 兄ニ竹島ハンニ頼ンデ呉レタ  
カヲ確シカメ直チニ帰場 欧州見物ヲ讀ミ八時過ギ就眠ス  
発信 濱田甚三郎君返事  
受信 濱田甚三郎君

▲▼142ページ▲▼ 明治43(1910)年5月16日(月)

天気曇

今日ハ陰鬱ナ日デアッタ 然シテ余ハ次ギノ様ナ事ヲ思ヒ付イテ余暇ニ研究シタイト思  
ツタ

磁石ヲ利用シテ永久運動ヲナサシム

磁石ハ北ヲ指ス性質ヲ有スルモ之レニ鉄ヲ近ヅクル時ハ磁石ハ鉄ノ方ニ吸引セラル 即  
チ

北ノ互ノ引カヲ敵(ママ)當ニ増減セシムル時ハ磁石ハ運動ヲ始ム 北ノ運動ヲ変シテ  
円運

動ヲ起サシメ茲ニ完全ナル動力ヲ發セシム

夕方田中書店ヘ行キ品性論ガ讀ミタクナッタノデ之レヲ注文シテ居イタ。夜工業大辭  
書ヲ見ル内ニ水雷ノ横舵ノ條ニ至リ端シナクモ之レヲ飛行機ニ応用デキナイカト心ニ浮  
ンダノデ之レノ研究ヲナス 十時就眠セリ

▲▼143ページ▲▼ 明治43(1910)年5月17日(火)

天気 晴

一昨日竹島ハンガ來ラレタガ、ネツカラ主人ニ頼ンデ呉レタ様子モナイノデ又帰宅シタ。ソールシオ兄處ガ竹島ハンガ姉ニナカ用事ガアルカラ手ノ空イタ時一寸來テ呉レト云ツテ居ラレトノ事 ア、余ノ爲メ色々ナコトガ起リソード。ガ然シ何故余ガ暇ヲ貰フ位ガ左様ニ六ヶ敷ノデアローカ トント分カラナイ

宅ニ六廣島ノ御くめ姉サンガ來テ居タ。丁度余ガ四良平君ニ手紙ヲ書イテ居ル時、アワタバシク竹島ハンノ下女ガ内ノ二階ガ燃エテマスト、カケ込ンダノデ先ツ余ハ眞先キニ飛び出シタ。然シ幸ヒ大事ニ至ラナカッタ タゞ下女ガ提丁ヲワスレテ居イタノガ、焼ケテ下ノ新聞紙ニ燃エ寫(ママ)ツタノデアッタ 十時帰場 工業大辭書ヲ讀ミ十一時過ギ就眠ス

▲▼144ページ▲▼ 明治43(1910)年5月18日(水)

天気 快晴

夕方工場カラノ知ラセデ早ク帰場。魚島ノ事デ「タイ」ノ御馳走 今日ハスキ焼キデアツタ 余ノ大好物。昨日ハ「イリツケ」ニ「汁」デアッタガ今日方ガヨカッタ 後チニ工業大辭書ヲ見八時過ギ就眠シタ

受信 藤井甚松様

▲▼145ページ▲▼ 明治43(1910)年5月19日(木)

天気 晴

本日午前十一時二十二分ヨリ十二時二十二分(ノ間我地球ハ、ハレー彗星ノ尾ノ中ヲ通過スルノデ、何ニカ異変ガアルトカ、甚ダシキハ人類ノ死滅期ダト稱ヘテ居タ 然シ、ソレ等ノ様子ハ更ニナク斯ク今夜安全ニ此日記ヲ書イテ居ル。天文學モアマリアテニハナラナイ

▲▼146ページ▲▼ 明治43(1910)年5月20日(金)

天気 晴

今日ハ英帝大葬ノ當日デアアル 市街ハ戸毎ニ吊旗ヲカ、ゲテ銀行、会社ハ業ヲ休ンデ哀悼ノ意ヲ表シテ居ル 店デモ午後休ム事ニナツタ 余ハ晝食後直チニ電車ヲカツテ天王寺ニ博覽會ヲ見ニ機械館デ發動機ノ研究ヲナシ。工業館デ玩具ノ「ジヤイロスコープ」ヲ購ヒニ時帰宅シタ。伊勢ノ「オバ」ハ今日廣島ノ「オクメ」姉サント一所(ママ)ニ帰国シ

タトノコト。ソーシテ西ノ姉ガ菓子ヲ持ツテ送リニ來タノダガ一足遅レタト云ツテ遊ン  
デ居タ。ソシテ其菓子ハ余ガ大分タベテシマツタ尚ホ少シバカリ残ツタノデ工場へ持チ帰  
ヘツタ。之レヨリ先キ、西ノ姉ハ四時頃帰ヘニ行ツタ。然シ今夜公園ノ夜景ヲ見ル約ヲ結  
ンダ。八時前夕食ヲ終ツテ待ツテモ々々々々姉ハ出テ來ナカツタ。デ仕方ガナイカラ余  
ハ帰場 就眠スルコトニシタ

▲▼147ページ▲▼ 明治43(1910)年5月21日(土)

天気晴

今朝坊サンカラ彗星ノ繪葉書ガ來テ居タ。余ハ茲ニタチマチ一種ノ好奇心ヲ起シ一ツ  
彗星探險ノ記事ヲツクツテ返事ノ變(ママ)リニ出ソート思ツテ、用事ヲスマスト、スグソ  
レニカ、リ帰場 後チ又ヤリ續ケテ十一時頃御腹ガ空ツタノデ「ウドン」ニ杯ヲ喰ツテ  
床ニ入ツタ

受信 藤井甚松様

▲▼148ページ▲▼ 明治43(1910)年5月22日(日)

天気晴

午後三時店ヲ辭シ鉄撰場ニ寄り帰場 少時休息、帰宅。推進機ノ模型ヲ造ル 夜姉と  
おつやんと、やゝこと一サント四人半連レニテ公園へ「イルミネーション」ヲ見ニ行ツタ  
奇麗ハ奇麗デアッタガ人多カツタノト、ホコリトデ一番弱ラサレタ 十時半帰場就眠  
八八時頃西ノ空ニハレー彗星ヲ見タ。然シ極メテ薄カツタ

▲▼149ページ▲▼ 明治43(1910)年5月23日(月)

天気晴

用事ヲ終ツタ後チハ、彼ノハレー彗星探險記ヲ書ク。中々形様(ママ)スルノニモ想像ガ六  
ヶ敷。コトニ余ハ無茶苦茶ナ事モ書ケナイ。ヤハリ天文學ニモ敵(ママ)合シテ行ク様ニヤラ  
ナケレバナラナイ。デ五六行書クニモ非常ナ骨ガ折レタ。夜公會堂デ毎日社主催ノ、ハ  
レー彗星講演會ガアルノデ参考ノ爲メ四時半頃カラ出懸ケタ。ソレデ丁度ヨイ場所ニ  
行ケタ。六時ノ開會ガ二十分遅レテ開カレタ。マヅ通俗的ニヨクワカッタ。やゝデ大分  
得ル處ガアツタ。ヤガテ閉會ヲ告ゲラレタテ吐出サレタノガ十時 電車ニ乗ロートシタ  
ガ非常ナ人デ乗レナイカラコツ、歩ミナガラ十一時帰場シタ。ソーシテ水デ顔ヤ手足  
ヲ拭イソレカラ漸(ママ)時探險記ヲ書イテ十一時頃就眠シタ

▲▼152ページ▲▼ 明治43(1910)年5月26日(木)

天気 快晴

今朝八四時ニ、キツチリ起キラレテ、ソレカラ頭ヲ冷水ニテ洗イ身体ヲゴシ、拭フタノデ非常ニ氣持チガヨカッタ。ソレカラ大辞書ヲ讀ミ新聞ヲ讀ミ出勤ス  
簿記ヲ終ルヤ引合セヲナシ三時鴻池銀行ヘ一寸行ツタ。夕食後帰宅シテ単物ト着替ヘタ。姉ハ節季ニ借テアルモノガアッタラ、キツチリ拂ツテ居カナケレバイカント云ツテ二円五十錢デヨイト云ウノ二三円呉レタ

帰場後大辞書ノ書キ抜キヲナス 十一時頃ハナントモナカッタガ、ヤガテ二十分モタツト眠クテ居ラレナクナッタガ今二三行デ済ムト思ツタノデ一生懸命ニ目ヲ見張リナガラヤッタガ又シテモ、スカヲ書クノデトードー二十分間程モカ、ツタ 直チニ就眠

発信 竹島新三郎様詫状

▲▼153ページ▲▼ 明治43(1910)年5月27日(金)

天気 晴

四時半起床 便所ニ行キ冷水摩擦ヲナスコト昨日ニ同ジ 後チ工業大辞書ノ書キ抜キヲナシ新聞ヲ讀ミ

六時出勤 朝簿記 午後引合セヲナシ又「天界ノ現象」ヲ讀ム。夕食後店ニ居イテアル書物其他一切「ゴリ」ニ入レテ帰宅ス 少時、清平ニ合(ママ)手ニナツテヤッタラ、非常ニ御氣(ママ)嫌デアッタ 七時宅へ出デ西ノ姉ノ内ニ行キ來一日帰宅ノコトヲ一寸云ツテ居イテ七時半帰場 入浴後大辞書ノ書キ抜キヲ居タガ九時半頃ニナルト眠クナッタノデ、其マ、横ニ寝テシマッタ。漸(ママ)ラクシテ、又起キ遂ヒニ今夜全部寫シ取ツタ 直チニ就眠

発信 石垣喜三郎殿 紙ノ世界ヲ貰ツタ禮

▲▼154ページ▲▼ 明治43(1910)年5月28日(土)

天気 雨

朝來シト、ト降り通シタ 今朝八四時十五分前起コサレズニ目ヲ醒シ同五分前起床シタ 洗面冷水摩擦等例ノ如ク終ツテ、天界ノ現象ヲ讀ミ又新聞ノ切抜キヲナス  
夕食後帰宅「クツ」ヲ置イテ持ツテ行ツタ。九時頃半鐘ノ音ガスルノニ驚イテ帰途ニツイタ。雨ハ尚バラ、降ツテ居ル 火事ヲ見ニ行ク人ハ北へ行ク程多クナツテ毎ニ提燈ノ数ガ増エタ 余ハ例ノ道ヲ通ツテ難波停車場ヲ西へ折レルト其處ニ、蒸氣ポンプヲ据ヘテ消防シテ居タ 火ハスデニ鎮マツテ居テ白イ煙ガ上ガツテ居タ。帰場後机ニ向ツテ坐ルト其儘眠ツテ仕舞マツタ

▲▼155ページ▲▼ 明治43(1910)年5月29日(日)

フト目ヲ醒スト窓ガ明ルイ。コレハ寢過シタカト時計ヲ見ルト三時。之レハ不思議ナト思ヒナガラ起キ出デ事務所ノ時計ヲ見ルト五時デアアル。ソレカラ冷水デ身体ヲフク事例ノ如ク。後チ、彗星探險ノ序文ヲ書キ六時半出勤ス。今日関鉄工所ヘ行き話ヲ付ケテ置キタイト思ツタノデ小旦那二昨日頼ンデ居イタ照會状ノ事ヲ請求シタ。然シヨシ、ト云ツタナリ、夕方三時過ギルト何處カヘ出テ行カレタ。仕方ガナイカラ夕食ヲ済マシテ帰場。入浴後宅ヘ持ツテ帰ルベク書物ヲ取マトメテ見ルト、アルハ、一寸カタゲテ帰ル思惑デアツタガ、トテモイケンイノデ、車ヲヤト一タ。十一時宅ヨリ帰場。シバラク明笛ヲ吹イテ氣ヲ散シ職人三人ト門番ト二飴湯二杯ツヅラ張込ンデヤツテ就眠シタ

◆▼156ページ◆▼ 明治43(1910)年5月30日(月)

天気晴

昨日トードー照會状ヲ書イテ貰ラハレナカッタノデ今朝又御頼ミシテ「元來コー云フ事ヲ小旦那ニ御願ヒスルノハ間違テ居リマシテ最初ハ私モ製銅場吉田ハンニ書イテ戴カウト思ツテ」ト云フトア、「ソヤ、吉田ニ書イテ貰ヒ ソレガエ、イヤ実ハ色々考ヘテ見タシヤガナ、何一モ店トシテソレハ工合ガ悪イノデ」トツヒニアカン事ニナツテ仕末ツタ。成程ソレハソダ。自分ノ家カラ今暇ヲ出シタモノニ照會紹介状ヲ付ケテヤルト云フコトハ一寸誰レニモ出来ナイコトダ。デ午後工場ヘ行キ吉田ハンニ頼ムト二ツ返事デ引受ケ、スグニ書イテ呉レラレタ。丁度三時。コレカラスグ関ヘ行テ話ヲシテ仕舞カ、ソレデナイト今度ハ二日ヨリ行ケナイガト思ヒ巡ラス内、ド一モ今日行クニモ及ブマイト、其実ハ行クノガ恐ロシイ様ナ氣味悪イ様ナ感じガシタカラデアアル。

夜帰宅 下女ヘ御重サンニ御作サン等ニ呈ス、ベキ品物ヲ調ヘ店ノ者ヘハ巴堂ノ「モナカ」ニスルコトニシテ、切手ヲ十五銭ノヲ十枚貰フテ九時頃帰場。門番ニ明朝三時ニ起コシテ貰フ様ニタノンデ就眠

◆▼157ページ◆▼ 明治43(1910)年5月31日(火)

起コサレテ目醒メタノガ丁度三時。直チニ起床。洗面冷水摩擦形ノ如ク終ツテ外ニ出ヅレバ実ニ静カナモノデアアル。月ハオボロニ影ヲ地ニ印シタ。誰ノ家ノ鶏ダカ、漸クイミシカ夜ノ早クモアカツキノ近ヅキタルヲ知ラセテ居ル。三時半出店。ソレヨリ記帳ニカ、リ終日ヤリ通シテ夜又十二時。ソレカラ帰場シテ御腹ガ空テ居ルノデ「ウドン」ヲ喰ヒソシテ明朝モ又起コシテ貰フ様ニ頼ンデ、カレコレ一時前就眠シタ。実ニ余ハ生レテ今日程働イタコトハ初メテ、〇二十二時間頭ト目ト手ヲ働カシ通シタノデアツタ

今夜下女ニハ石儉(ママ)、店ノモノニハ巴堂ノ「モナカ」十個ヅ、御重サント御作サントニ

ハ半襟一筋ヅ、呈上シタ

余今日ツク、精力ト云フコトヲ憾(ママ)ジ精力サヘアレバ、今日ノ様ニ働クコトガ出來ルト論(ママ)ツタ。デ明日カラ新生涯ニ入ルニ付イテモ此ノモノノ修養ヲオコタツテハナラナイト決心シタ

◆▼158ページ◆▼ 六月中行事豫記

三円五十錢本屋

◆▼159ページ◆▼ 明治43(1910)年6月1日(水)

天気 晴

六月一日ハ來タ イヨ、本日限り新タナル生活ニ寫(ママ)ルノデア

朝三時十五分起床 例ノ通り終ツテ四時出店 ソレヨリ帳簿ヨリ付上ゲヲナシ八時半マツタク月表ヲ造リ得ル様ニ精算表ヲ作ツタ 実ニ去月比スレバ御話シニナラナイ程デ八日ノ日名古屋カラ帰ツテモマダ出來テ居ナカッタノデアツタ

十二時前兄ハ暇ヲ貰ヒニ來テ呉レタ。主人ハ別ニ何ニモ云ワナイノデ、余ハブラ、シナガラ待ツテ居タ 其内主人ハ坊々式人連レテ須磨へ行カレタ。仕方ガナイカラトードー帰(ラレル)デ待ツコトニシ三時一寸帰宅 別家諸氏ヘ土産物ヲ調へ五時帰店 前中へ行キ挨拶ヲナシ、今度ハ若主人ト、中山ハン、ソレカラ濱へ行キ御家サント濱御寮人トニ禮ヲ述べ田中家へ行キ、タ、チニ又電車ニテ戸次サン處ニ行キ、漸(ママ)時遊ビ工場ニモ立寄り再ビ店ニ出デ老主人ノ帰店ヲ待チ合セ七時過ギ御挨拶ヲ申上ゲ、又濱ニ行キ小旦那ヲ訪レタレドモ御不在 ソレカラ中島ハンニ行キ御飯ヲト云ワレルノヲ辞シテ八時帰宅直グ竹島様へ行キ、帰ヘツテ、夕食ヲ喫ス。ア、腹ノ空ヘツタコトツカレタコト。

二階デ九時半就眠 父ハ留都 姉モ元七サン處ノおもんサンガ悪イノデ見舞ニ行テ居タ

◆▼160ページ◆▼ 明治43(1910)年6月2日(木)

天気 曇リ

五時半起床 洗面冷水摩擦ヲ終リ、ソロ、二階ノ室ヲ方付ケニカ、ツタ 何ンシロ三十九年ニ余ガ佐渡島へ行ク時、置イテアッタノガ、マダ其当時ノホコリヲ、カブツテ居ツタト云フノダカラ其様ハ大抵ノモノデハナカツタ

十時頃余ハ腹ガ空ツタノデ、新レコードノ思計デ朝飯ヲ喰ツタ

晝前方付終ツテ晝食後関鉄工所へ行ク思計デ出懸ケルト雨ガ降り出シタノデ、ト

一、明日ニシテソレカラ二階ニ上リタ方、彗星探險ヲ造リ入浴後食事、デ和漢名詩鈔ヲ讀ミ、後チ、代數學、九時過ギヨリ少時文章軌範ノ前赤壁ヲ讀ミ就眠ス

発信 佐渡島御寮人 但須磨へ病氣見舞方々報告

▲▼161ページ▲▼ 明治43(1910)年6月3日(金)

天気 晴

今朝七時過ギカラ関へ行ツタ 處ガ御主人不在中デ丁度余ト同年輩ノ坊ンチト云フノ二頼ンデ見タ。関モ此頃無人中ダト云ツテ居タカラ先ヅ大丈夫。ソコデ明日モ一少シ朝早ク來テ呉レトノ事デ帰途ニツヒタ。ソレカラ店へ寄ツテ科學世界ガ來テ居タカラ、此レヲ貰ヒ、当工場へモ寄ツテ、石險ヤ齒磨ガ置イテアツタノデ之レモ貰ツテ漸(ママ)時遊ビ十二時前帰宅。丁度父ガ焼板ヲシテ居タノデ晝食)之ヲ手傳ヒ午後科學世界ヲ讀ム。其内其論說ニ工業家タントスル青年ニ文學趣味ノアルノハ、イケナイト云様ナ事ガ、チラトアツタ。ナル程其通りダ デ余モ成功スル)デハ決シテ之レ等ニ手ヲ出サナイ事ニシテ彗星探險モ其儘、仕舞ツテ居イタ。夜代數 ソレカラ科學世界ヲ讀ミ十一時前就眠

発信 藤井甚松様

▲▼162ページ▲▼ 明治43(1910)年6月4日(土)

天気 晴レ曇リ

午前五時起床。室屋ヲ方付ケ六時宅ヲ出デ関ニ行ク 主人ハマダ寢テ居ラレルカラ、工場ナド見テ御居デナサレト彼ノ坊ンチト云フノガ云ワレタ。ソコデ工場ヲズット見タ。然シズトト云ツテモ小イサナモノデアル 工場ノ間ハ五六間ハアロー 奥行ハ二十間位ナモノデ動力ハ五馬力程ノ蒸氣機関ヲ備ヘテアツタ

鍛冶場ハ一番奥デソレカラ旋盤工場デ仕上場トテ別ニナイガ入口ニ近い處ガソレラシイ 事務室ハ入口ノスグ左 例ニ疊ナラ四疊程ニ押入レヲ付ケタ様ナモノデ帳簿ハスベテ和帳デアツタ。ヤスリ場ハ事務所対シタ右側ニ細長ク作ツテアル 其内ナンダカ職人ガ、ペタ、スルト思ツテ居ルト、台所ノ方ヲ、ノゾイテハ、ヤ一下女ガケンカラシテ居ヨル。ヤ一轉ロゲタ、喰ヒ付イタ 手カラ血ガ出タ、ヤ一齒カラモト大變ナサワギ 此處等ハ下女マデガ氣ガ荒イト見エル

ヤガテ二時間ヲ待ツタ處御主人ハヤウヤク出テ來タ。ホ一ノ落チコンダ然シ津ヤ、シタ顔色デ、ツヒデニ頭モ少シ、ツヤツイテ居タ モ一カレコレ五十二近カローカト思ワレル品格ハサ程ニ上ガラナイガ、温順ソーナ質デ初対面ノ挨拶ヲシテ、ソレカラ聞イテ居ルト説キ出ストコロ、ナカ、親切ナモノデ自ノ經歷カラ職人共ノ状態ナトモ説明シ、先ヅ事務員ノ方ガ賣方方ニ敵等(ママ)デ又、早ク分カルカラトノ事デ余ハソコ宜ロシイ様



ニト云フト、ソレナラ忤トモ、モ一一度相談ヲ到(ママ)シマシテ御返事シマスカラ御足勞  
ダカ明日モ一辺御越シテ願ヒタイト、コ一云フ事ニナツテ、九時ソコヲ辞シタ  
ソレカラ姉ニ相談シテ洋服ヲ造ル事ニナツテ居ルノデ、店へ寄り栗岡ノ處ヲ聞トソレナラ  
順慶町ノ津田ニサシタラドーデスト坂口君ノ進メデ直チニ電話ヲ懸ケ來ル間ニ飛行機  
ノ模型ノ材料ニ真中(ママ)針五百印分ケテ貰ツタ。三十分程シテ、マダコンノデ又電話  
ヲ急イデヤルト、今度ハスグ來タ。余ノ思ツテ居タ薄色ノ見本ガナク紺ト黒ト白ダケデ  
アツタ。仕方ガナイカラ紺ノ一番、ハナヤカ色ノヲ注文シタ 十五円ダトノ事。十二時  
前帰宅 晝食後ニ階デコツ、模型ノ製作ヲナス 五時半之レヲ仕終イ窓硝子障子ガ  
アマリ、クモツテ、スリ硝子ノ様ニナツテ居ルノデ之レヲ拭フタ。夕食 八時ヨリ十合ノ向  
ヒマデ「スクラップブック」ヲ買ヒニ行ツタガ無地ノガナカッタノデ紙挟(ママ)ミヲ一ツ買ッ  
テ帰ヘツタ 九時帰宅 飛行機書類ヲ挟ミ十時就眠ス

▲▼163ページ▲▼ 明治43(1910)年6月5日(日)

天気 雨

ドシヤブリノ中ヲ七時頃宅ヲ出テ関ヘ行ク。坊サント云フ人が出テ來ラレテ顔ヲ見ルナ  
リ今日カラ來テオクナハツタンダツカトハ余(ママ)期シテ居タ事ダガアマリ突如トシテ聞  
カレタノデ少シ、タヂ、トシタ。然シ宅ヲ通フ事ハ止メテ宿マツテ來レトノコトデ仕方  
ガナイカラ、云フ通りニナシ、今日ハスグ帰途ニツイタ。ソシテ工場ニ立寄り吉田ハンニ事  
務員トシテ採用ニナツタコトヲ告ゲ又禮ヲ述べ十時過ギ帰宅 タヂニ二階ヲ方(ママ)  
附ケ持ツテ行クダケノ本ヲ調ヘテ午後ハ、何事モナサズ、ナントナク気分勝グレス今  
日ノ一日ガウント長ガレカシト云フ様ナ氣持ガシタ ソレハ余ノ「クセ」デ今日)三日  
以上帰宅シタ時ハ店へ帰ル時、カナラズ、コンナ感じガシタノデアツタ。ア、余ハ何故コ一  
憶(ママ)病ナノカシラ。ソコデ一ツ自助論デモ讀ンデ、勇氣ヲ奮ヒ起シテヤロト二階へ  
上ガツタガサテ本ヲ取ル手が動カナイ。仕方ガナイカラ、帰宅後マダ一度モ西ノ宅へ行  
ツタ事ガナイノデ姉ニ明日カラ九條へ行ク事ヲ知ラセ方々西ノ家へ行ツタ 談話ハ別ニ  
變ワツタ事トナク普通ノ尋ネ合ヒダケデアツタ。四時頃帰宅スルト昨朝カラ大和巡リ  
ニ行ツテ居タ大姉ハ雨ニ降ラレテ戻ツテ居タ。夕食ハ牛肉ト豚肉トノ御馳走。十時頃不  
安ノ内ニ帰ル

▲▼164ページ▲▼ 明治43(1910)年6月6日(月)

天気 晴レ

午前五時起床 洗面冷水摩擦、方ノ如ク終リ、荷物ヲ、行柳(ママ)ニ取揃ヘ、車ヲ云ヒ  
ニヤリ、漸(ママ)時、手紙ヲ書キナドスル内時間セマリ六時十五分。菊サンガ來テ呉レタ  
ノデ其車ニ乗り、イヨ、宅ヲ出ズ。モ一昨日ノ様ナ感じハ仕無カッタ。車ハ巴堂ノ表デ

一度止マリ、「カステラ」ノ箱ヲ一ツ増シテ西ニ走り七時少シ過ギル時関ニ就(ママ)イタ坊サンニ二通り仕事ヲ教ワリ、記帳ヲナス 後チハ手空キデ、工場ヲブラ、見廻リ、又帳簿ヲ取調ベナドヲナス。今日ハ兎ニ角、一向不得要領デアッタ  
夕食後入浴。暇ヲ乞フテ順慶町ノ津田洋服店ヘ行き此間ノ外ニ、白ノ安物ノ「ズボン」ヲ一着注文シテ、店ニ寄ニ少時雑談シテ井上君ト岡本正君ガ、雲右衛門ヲ聞キニ行クト云フノト共ニ店ヲ出デ、大宝寺町ニテ、分レ堀口ニテ内職人ニ「夏ミカン」ヲ十個求めテ八時半帰ル。ソレヨリ此日記ヲ書ク處ヘ主人來ラレ、吋ザシノ計算法ノ教授ヲ受ク  
就床後論語ヲ一寸讀ンデ眠ル 時十時

◆◆165ページ◆◆ 明治43(1910)年6月7日(火)

天気 晴

五時起床 漸(ママ)時事務所ヲ取方付ケ後チ帳簿ヲ出シ取調ベヲナシ又記帳ス  
七時ヲ打ツト余ハ頭上ノ古イ黒クナッタ「ベル」アダカモ繪デ見タ米國ノ自由ノ鐘ニ似タヤツデ、カン、ト鳴ラシタ 之レデ就業ヲ報ジル事ニナルノデ正午八三十分ノ休ミ、タハ五時半仕舞ト斯云フ風デアル

今ハ午後客ガ大分ニアッタ。新町ノ山田ト云フノガ「チエイン齒車」ノ注文ニ角一ガ何ンダカ聞キモラシタガ來タ ソレカラ京都ノ加納ガ、「ハイドリツク」ヨリ汽閥ヲ先キニシテ呉レト云ツテ來タ。ソシテ朝ノ間ハ昨日見積ヲ出シタ濱田辰ノ助ノ主人ガ來テ「スクリユーシヤフト」ニ二本ト同用砲金ノナット二個ヲ注文シテ帰ヘッタ

晝食ノ時昨日カラ來タ職人ヲ譚呼ンデ入職志願書ヲ渡シタ。名ハ大塚伊三郎

六時半夕食入浴共ニ終ハツテ製図ヲ學ブ 八時坊サンガ來テ、シバラク話ヲシテ行カレタ 後チ晝山田ガモツテ來タ、「チエイン」ヲ當リ齒車ノ運動ノ模様ヲ如何ニスレバヨイカヲ研究シテ余自身ニハ先ヅ完全ト思フダケノ説(ママ)計ガ出テ來タ。ソシテ練習帳ニ控ヘタ。イツレ主人ノ作ラレタノト比較シテ見ルツモリデアル 十時就眠

内職工ノ中ニモ一人ダケ中々勉強家ガアッタ 以テ友トスベキ人デアル 其人ハ左ノ親指ガ無カッタ 晝モ中々勤勉ニ働ク

◆◆166ページ◆◆ 明治43(1910)年6月8日(水)

天気 晴

目ヲ醒マスト左ノ足ガ非常ニ痛イ 「コブラカハリ」ニデモシタンダ 五時十分起床

今日ハ客ハナカッタガ晝食ヲ終ルトスグ新町ノ山田ト唐物町ノ門田ノ柴田ヘ寫眞ヲ持ツテ行ツタ 但シ山田ノ方ハ何ニカ手紙ガツイテ居タ。帰店後漸(ママ)クシテ阪田ヘハイドリック下盤ノ賣々ニ行ク 量目二百七十一、三百印

余ハ初メデ鑄型ナルモノヲ見タ。眞黒ノ土デ中々丁寧ニ「コテ」デ格行ヲ作クツテ居ル六時スデニ夕食入浴共ニ終ツテ科學世界ヲ讀ミ後チ製図ヲナシ九時頃カラソロ、眠クナツタノデ、シイテ科學世界ヲ讀ミ十時二階ニ上リ本日ノ新聞ヲ見十時半就眠セリ

◆▼167ページ◆▼ 明治43(1910)年6月9日(木)

天気 晴

五時起床 先ヅ洗面ヲ終ルト事務ヲ掃ヒ昨日ノ日記ヲ書キ後科學世界ヲ讀ム

今日齒車ノ割出シヲ教ワツタ

今日ヨリ古屋為吉ト云フ職人が來タ 旋盤ノ方ヲ司サドラシム

今朝宅へ幸ヒナ日ヲ送クツテ居ルコト新聞ヲ殘シテ置テ貫フコトイ爲メヲ報ズル爲メ端書ヲ出シタ

夕食後科學世界ヲ讀ミ製図ヲ學ビ、詩鈔ヲ誦シ十時階上ニ至リ新聞ヲ見十一時十分前就眠ス

発信 自宅

◆▼168ページ◆▼ 明治43(1910)年6月10日(金)

天気 雨後チ晴

點滴ノ音静カニ聞キツ、起床 昨日洋服ヲ持ツテ來タノデ今朝カラ着タ

今日当社ノ帳合ノ仕方デハ一ツノ機械仕上ゲテソレニ材料ガ幾程工賃ガ幾等カ、ツタトモ、カイモク分カラナイノデ、且ツハ余ノ参考)デニ、ソレヲ調べ様ト之レヲ坊ンサンニ計ルト前ニヤツテ居タンダソーダガ、續カナカッタノダソーナ。ソコデ余ハ前ノ帳簿ナドヨリ調べ色々苦心シテ夜新ラタニ、Noteヲ一冊求メ之レニ懸ヲ引ク。然シ中々面倒デアル

夕方主人ノ製圖シテ居ラレルノヲ注意シテ見、終ワツテカラ、捻ジノ畫法其他一々話ヲ聞イタ 九時寢室ニ入り新聞ヲ讀ミ十時前火ノ用心ノ爲メ工場ヲ見廻リ十時就眠ス

◆▼169ページ◆▼ 明治43(1910)年6月11日(土)

天気 晴

目ヲ醒マシテ時計ヲ見ルト六時十分前 コレハ大變ト飛ビ起キタ

昨日ハ御飯ヲ喰フ毎ニ腹ガ痛タンダガ今日ハ何ントモナカッタ 大分六日以降境愚(ママ)ガ變ツタト共ニ、間物ヲ少シモ取ラナイノト食量ヲ定メタノト今一ツハ、飯ガ「コワイ」カラデアッタラシイ。而シテ今日ハモ一新ラタナル摺(ママ)慣ニナレタノデ昨日ハ其丁度變

化ノ過渡期デアッタト云フテモヨカロー。

六時入浴夕食ヲ終リ製図ヲ學ビツ、アル時七時過ギヨリ主人來ラレ種々有益ナ話ヲ聞キ九時半内ニ這入ラレタ。主人ハ一日モ工業學校ト云フモノニ行カナケレバ、本モ讀マナカッタトノコト。然シ其機械ニ関スル博識ナルコト驚クバカリデ、余ノ講義録デ一二間違ノ個所ヲ訂正セラレタ。ソレカラ尚色々実談ガアッタ。余ハ斯シテ毎日勉強スルノガ、ハツカシイ様ナ馬鹿ラシイ様ナ氣ガシタ。後チ空想ニ入ル。噫々余ノ前途ハ洋々タリ。而シテ今一大巨浪ハ返シ吾ガ「ムネ」ヲ突トシテ當ラタントシテ居ル。如何ニシテ之レヲ泳ギ切ルベキカ。而シテ彼岸ニ連スベキカ。忍耐ト勇氣ト健全トハ之レヲ全カラシム。サレド余ハソレヲナシ得ルヤ。大ニ余ハ、アヤブンダ。然シ余ハ正ニ水中ニ飛ビ込ダノデアール。今便(ママ)引返スコトハ最早不可能トナッタ。ソレデハ今勇氣ヲクジカンカ。余ハオボレナケレバナラナイ。ソーダ、オボレテ死ヌノハ嫌ヤダ。ア、然リ々々。奮起一番。イヤニ番モ三番モヤルベシ、ハ、ハ、ハ、

十時火ノ廻リヲ済シ便所ニ行クニ折リカラ警鐘ノヒ、キアリ。大勢ハ見ニ行ツタガ遂ニ不得要領。方角モワカラズニ帰ヘツテ來タ。十時半就眠

▲▼170ページ▲▼ 明治43(1910)年6月12日(日)

天気晴

今日ハ我々ノ御節句デアル。ソレガ故ニ三時頃柏餅ヲ御ボンニ乗セ御茶ヲソエテ持ツテ來タ。余ハ三ツダケ喰ベテアト三ツハ残シテ居イタ。ソレハ近頃間喰ヲ少シモヤラナイノデ、之レ以上喰ヘバ又御腹ヲ損シルダロト思ツタカラ

六時半夕食入浴共ニ終ツテ洋服ヲ着シ帰宅シタ。何ニシロ學生當時以來洋服ヲ着テ表へ出ルノガ今日ガ「レコード」デアル。余ハ勤メテ容姿ヲ正シテ且ツ何トモ無イ風ニ、ヨソオータ。帰宅スレバ皆ヨク似合フト云ツテ、兄ハ一寸下着ヲ見タガ、ヤハリ服ノ方ガ少シ大キカッタ。余ハ丁寧ニ扱カツテ呉レル事ヤ毎夜勉強シテ居ルト主人ガ來テ色々話シテ呉レル事ナドヲ語ツタ。八時頃ヨリ、余ノ「ユカタ」ヲ買フトテ姉ト兄ト出懸ケタ。ソシテ平井サンモ「ユカタ」ハ入江呉服店デニ枚求メタ。ソレカラ余ハ戎橋ニテ一同ト別レ帰所シタ。丁度十時。ソレカラ二階ニ上リ今日ノ新聞ヲ讀ンダ。大分細ニ讀ンダ爲メ十一時十分就眠。軒ニハバラ、ト雨ノ音ガシタ

▲▼171ページ▲▼ 明治43(1910)年6月13日(月)

天気曇リ

昨日カラ入梅シタダカ成程今日ハ實ニ梅雨ノ「タイプ」トモ云フベキ日デ九時頃ハ肅々ト降り續ケンレカラ後チハ晴曇相半バシテ時々細雨ヲ交シテ居タ

午後ノ事デアッタ。主人ハ角一へ行ツテ帰ルナリ、「大変ナ事ヲ云ヒ居ッタ」ト云ワレタ。

ソレハ今造リツ、アル十七馬力ノ「エンジン」ガ尚ホ馬力ガ不足ダカラ今一ツ大キクシテ呉レトノコトデ早速鑄物屋ヤラ火造屋マデ入山ガ止メニ走ツタ。漸(マ)時シテ角一カラハ木下ト今一人護謨工場ノ技師トガ損害ノ程度ヲ取調ベニ來タ。夕刻鑄物屋ガ來テスデニ鑄造ニカ、ツタ分ナドノ損害ヲ主人ト話シテ居タ。ソコハ重田モ來タガ之レハマダ今材料ヲ買ヒニ行ツテ居タノデ製作ニカ、ツテ居ラナカッタ。夜本ヲ讀ンデ居ルト主人ガ來テ話ヲシテ居ル處へ木下ガ來タ漸(マ)時シテ坐敷へ返ツタ。余ハ昨日能フダケ注意シテ主人ノ話シ振リヲ聞イテ居タ。ソレガ爲メ夕食ト入浴ヲ済マシタラハ八時デアッタ。ソレカラ藤井ノ坊チへ繪葉書ヲ出スノデ繪ヲ畫イタ。十時前木下ハ歸ヘツタ。余ハ二階ニ上リ新聞ヲ見テ就眠ス。主人ハ下デマタ。パチ、見積リシテ居ルラシイ。角一ノ馬力ノ間違イハ主人ハイジゲタノデ十七馬力ト取ツタノガ其後神戸ノ商館ガ取ツタノガ三十二馬力ト云フノデソレデ變ワツテ來タ。然シ今一度工業學校ニ依頼スルトノコトデアッタ。

発信 藤井甚松様 関へ來タ知ラセ

▲▼172ページ▲▼ 明治43(1910)年6月14日(火)

天気 雨

今朝十時頃吉岡ハンカラ電話デ、明日夕方送別會方々夕食ヲ差上ゲタイガ御差支ヘアリマセンカト云フテ來ラレタ。余ハ一時辞退シタガ最(マ)非ト云フコトデ御承ケヲシタ。場所ハ明日御知ラセスルト云ツテ居ラレタ。夕散髪ニ行ク。

夜科學世界、理學界自助論ヲ讀ミ又製図文字ヲ習フ。十時就眠ス。

▲▼173ページ▲▼ 明治43(1910)年6月15日(水)

天気 雨

午前五時起床。洗面後理學界ヲ讀ム。其處へ丁度佐渡島製銅場カラ電話デ早ク職人ニ來テ貰ツテ呉レトノコトデ主人ニ云フト全クワスレテ居タラシイ。兎ニ角津村ヲ呼ビニ行キ末次ト二名出張セシム。七時半入山來リテ角一会社ノ「ロール」齒車ヲ、ハヅシテ九時半歸ヘツタ。■時職人ハ大抵何處へカ遊ビニ出テ仕末ツタノデ余ハ主人ノ遣ヒニ宇和島橋ノ後藤寫眞館へ行ツタ。歸所後洋服ニ着替ヘ十一時晝食ヲ済マシテ宅ヲ出デ製銅場ニ立寄り仕事ノ様ヲ見ル。當直ハ老戸次サンガシテ居ラレタ。ソシテ今夕ノ送別會ニ例(ママ)席スル筈ダガ失禮スル。其變リ本ヲ進呈シタイカラ何時ナリト取りニ來テ呉レト云ワレタ。

余ハコレカラ今宮へ歸ルコトヲ店へ電話ヲ懸ケタ。少時スルト店カラ又電話ガ懸リ中山氏

ガ吉田君ガ君ヲ待ツテ居ルカラ今宮へ帰ッテカラ吉田君ノ家へ行ツテ呉レトノコトデ余ハ二時カ三時ニ御伺ヒスルト答ヘテ出タ。處ガポツ、雨ガ降り出シタノデ工場デ傘ヲ借リ帰宅ス。兄ハ留都(ママ)デアッタ。シバラク待ツテ父ト姉トニ招カレタ事ヲ告ゲ着物ヲ調へ一時宅ヲ辞ス。此時雨勢益々加ワ、ツタノデ車ニ乗り九條へ帰り和服ト改メタ、チニ吉田氏ノ宅ニ向フ

吉田氏ノ門ニ立ツテ訪レタガ答ヘガナイノデ中島氏處へ寄ツタ。ト中山氏ガステニ待チカマエテ居ラレタ。お繁ハンモ居合セラレタガ吉田氏ヲ起ストテ直グ帰ヘラレタ。成程呼ンデモ答ヘナイ筈。寢テ居ラレタノダ。待ツ間中島氏ノ「アルバム」ヲ見セテ貰ツタ。実ニ其数ノ多イコトヨク之レダケ、留メラレタモノト、ソゞロニ感心シタ

三時四人打連レ難波ステーションニ行ク。余ハ何處へ行クノカ知ラント思ツテ居ルト濱寺行キノ切符ヲ渡サレタノデ雨ノ降ルノニワザ、遠方(ママ)ヘ上ガッタ。先ヅ池畔ニ面シタニ肅々タル中ヲサク、ト砂ヲ踏ンデ日柄喜ノ玄間(ママ)ヘ上ガッタ。先ヅ池畔ニ面シタニ二階ニ案内セラレテ「ザット」一風呂汗ヲ流シテ「サツパリ」トシタ浴依(ママ)ヲ着タ時ノ心地好サ。試ミニ欄干ニヨレバ雨氣ノ冷ヒヤリトシタノガ殊更ニ肌ザワリガヨイ。ト見レバ左手ノ方自然ノ老松枝モタワワニ濃キ緑リ疊々トシテ。ソガオ暗ラキ下ニトウ、ト響ク音、腰ヲ低クシテ、ウカヅフニ見エルハ滝壺ニ浮ベル生洲ノ籠ノミ。其水流レテ前庭ノ池ト成ツテ居ル。池中又風流アリデ一寸凝タ板橋ガアリ其橋柱ニ緋鯉直鯉ガ隠見シテ居ロト云フ。殊ニ池中ニ白ニ紫ニ緑ニ色トリ、ニ咲クハ「アヤメ」カ「シヨウブ」知ヲヌガカ何ンシテモ五月雨ニ打タレテ肅條タル姿ガ又無ク、ヤサシク愛ラシク、氣高い。池ヲヘダテハ山アリ石アリ燈楼(ママ)アリ、又藤ノ棚等中々ニスキヲ凝ラシテ居ル。而シテ之レ等ガ皆梅雨ラシイ陰氣ナ中ニ緑リガ一シヲ色勝サツテ見エル。余ハ斯ク次第二薄レ行ク空ヲ眺メナガラ静カナ檐声ヲ聞クノハ誠ニ好キダ。何ントナク、シットリト落ち付イテ氣持チガ好イ

然シ此處ハソレハ余ニ満足ヲ與ヘナカッタ。向フノ坐敷カラ三弦ノ音ニツレ時々起コル阿房声ハ誠ニ聞キ苦ルシイ

時ハ四時モ半バ過ギタ頃デアル。井上以下ノ諸氏ガマダ、遅クナルト云フノデ、ソコデ中山中島ノ両氏ハ将棋ヲ初メラレル。吉田氏ハマダ眠イトテ横ニナラレタ。余ハ檐ノ障子ニヨリツ、中山氏ガ電気(ママ)ノ中デ拾ロワレタ今日ノ萬朝報ヲ眺メタ。處ガソレニ先生ノ飛行機竣成ノ記事ガ出テ居タ。余ハ驚キ且ツ嬉シク讀ミ下シタガ、兼ネテ外注シテアツタ發動機ガ來月初旬デナイト到着シナイトノ事デアッタ。コレデヤット安心ガ出來タ。何条同機ヲ他人ニ先キ乗リセラレテナルモノカ。

ソレカラ歐米飛行界ノ近事ト題シテ少シ耳新タラシイ記事ガアッタ。尚モ一ツ嬉シイノハ研究会ガ嘗テ飛行機ノ材料ヲ海外ニ注文シテアツタノガ漸次輸入セラレツ、アルトノ事デ余ハ遠カラズ機會ノ來ルベキヲ喜ンダ。斯カル内ニ時ハ過ギテ電燈ガキラツト輝イタ。此時吉田氏ハ待チアグンデ「ビール」ヲ命シラレタ。處へ御坐敷ガ下ガ開キマシタカラ其レト云ツテ來タト同時ニドヤ、ト井上、坂口、藤田、河野、ノ四氏が來ラレタ

余ハソレ、、挨拶ヲナシ、カクテ席改タマツテ宴ハ開カレタ 遅レ走(ママ)セニ岡本竜君ガ  
來ラレタ 最初一順盃ヲ受ケタガ仲居ニ意ヲ通シテ居イタノデ「ホン」ノマネダケシ呉レ  
タノデ大ニ助カッタ。御馳走ハ大曾ト云フデモナイガ、カナリ次カラ、ト運バレタ 場  
所ガ場所ダケニ大分高ク付ク事デアロー。殊ニ皆ノ貫フ手當ガ見エスイテ居ルダケ、尚  
ホ氣ノ毒デナラナイ。余モ初メハ、コンナ事トハ思ワナカッタノデ精々北村カ鳥鹿位イト  
豫想シテ居タノダ 又今日ノ例カラシテモ嘗ツテ、コンナ盛大ナ事ハ無カッタノデア  
ルソコデ余ハツラ、、推意スルニ余ガ引ク時ニソレ、、印シナガラ送りモノヲシタノト尚ホ外  
ニ余ノ目的ヲ小旦那ニ聞イタ爲メ、ソレヲ壯トシテ、サレバココナ思ヒ切ツタ事ヲセラ  
レルノダト氣ガツクト余ハ余ノ責任ノ一曾(ママ)加ワ、ツタ様ナ氣ガシタ 而シテ之レ等  
諸氏ニ謝スルト同時ニ姉ニモ又多謝セネバナラナイ事ヲ喚起シタ

飲酒ト猥褻トハ付キモノト見エソ、、オカシナ話ガ初ジマル 遂ヒニ仲居ニ銘々ノ年ヲ  
當テサセタ。スルト吉田氏ガヤハリ天デ余ヲ一番若クト云フヨリハムシロオボコク見タラ  
シイ。然シ岡本君ハ余ヨリ一ツ下デアアルノダ。ガ其振舞ヒガ大人ビテ居ルノデ余ニ札ガ  
落チタノダ。其内次第々々ニ酒ガ廻ワルト、伊藤ハニ御免、中山ハ一ツ頂戴ナド、云ヒ  
出スト、吉田氏ガ何處カラカニ味線ヲ引キ出シテ來テ仲居ニ引カセタ。ソレカラハ舞フ  
歌ノ大サワギデ、先キニハ阿房声トノ、シツタガ茲デハヤハリ笑顔ヲ作ツテ居ラネバナ  
ナイ 殊ニ余ガ正賓トシテ床ノ前ニ据エ付ケラレタノデ尚更自由ニ立ツコトモ出來ナイ。  
然シ嫌ナ氣ハ少シモシナカッタ

中山ハハサスガニ遊ビナレテ居ラレルダケ一キハ飛ヒハナレテ見エル 吉田氏ハ例ノ様子  
ト云フデモナイガソナ風ナ氣味ガアツタ 井上君ハ近頃大分遊ビニ行カレルソウダガ  
一向藝ガナイニ立ツテ見タガラレル。坂口河野両君ハ猩々ヲ次テ自カラ任ズルダケデ  
顔色モ変ヘナケレバ又平然タルモデアアル。岡本君ハ少シ嫌ラシイ方デ小声デ時々仲居  
ト對話セラレル。藤田君ト來テハ又大ニ反対デ色氣モソツケモアツタモノデナイ 氣ニ入  
ラナケレバ大キナ声デドナル。カト思フト女ト腕ヲ組ンデ歩タリセラレル ソコデ今一人  
中島氏ダガ其音ナシイ事 実ニ在非ヲ知ルコトガ出來ナイ位デアツタ

時タマ、庭前ニチーラ、ト螢光一ツ飛ビ行クノヲ、ヤサシク追ヒ行ク美人ガアツタ。  
ト中山氏ハヤ、ト囃シ立テ、引キ上ゲソーニセラレタノデ婦人ハアタフタ逃ゲテ行ツ  
タ

斯ク面白オカシク遊ビ興ジル内八時モ過ギテヤガテ九時ニモ近カ、ラントスル頃トモナ  
ルトサスガヨータ風ヲシテ居ラレテモ中山氏ハ余ノ心ヲ計カツテ「メシ、」ト云ワレタ  
然シ仲居ナドハマダ、ト云ツテ急ニ出サナカッタガ遂ヒニ九時十分一同打連レテ旗亭ヲ  
辞シタ 幸ニ雨ハ上ガツテ居タ。然シ星影ハ一ツモ見トメラレナカッタ。幡龍ノ如キ千古  
ノ老松ハ黒ク々々低ク地ヲオウテ居ル。而シテ處々弧光燈ガ白イ砂ノ上ニ松ノ影ヲ模  
様ノ様ニ染メテ居ル

九時二十分電車ハ愉快ナリシ景勝ノ地ヲ、ハナレタ。噫嘻余ハ此地デ祝宴ヲ上ゲタイモ  
ノデアアル。ア、余ハ再ビ此處ニ來ルコトガ出來ルデアローカ

車中デハ一二ノゾク外皆寝タリ居眠タリシテ居ラレタ 十時半無事帰宅 ソレヨリ直チニ禮状ノ下書キヲナシ十二時十五分就眠ス

▲▼174ページ▲▼ 明治43(1910)年6月16日(木)

天気 雨

昨夜遅クナツタ精カ今日又朝カラ眠イ 殊ニ二時三時ニ六如何ニ辛棒(ママ)仕様ト思ッテモ目ガ自然ニ閉ジラレルノニハ一番閉ロシタ

午後角一ゴム合資会社へ、「エンジン」ノ見積書ト既成未成品ノ損害高ヲ郵便ニテ送タ入浴、夕食後昨日ノ日記ヲ書ク。イロ、ト文句ガ出テ來テ非常ニ長イモノニナツタ

九時半火ノ廻リヲ終ツテ直チニ就眠

発信 佐渡島店 禮状 自宅 昨日ノ概況通知

▲▼175ページ▲▼ 明治43(1910)年6月17日(金)

天気 雨後チ晴レ

朝ノ内ハシトシト降り通シタガ二三時頃カラハ久シ振リニ青イ空ガ見エタ

一昨日先生ノ飛行機竣成ノ記事ヲ見テ以來非常ニ心動イテ今日ナドハ又少シ頭痛ガシタ。ソシテ先生ニ手紙ヲ出ソト思ッテ下書キヲシテ見タガ、余リ当ヲ失シタ文句シカ出ナイ 然シテ普通ノ文句ニスレバ、出ス必要ハ見トメラレナイ。トード、今日ハ其儘ニシテ居イタ

夜イヨ、機會ノ近キニアルノヲ知ツタノデ瓦斯及ビ石油機関ヲ讀ム 八時頃時計ノ硝子ガ破レテ居ルノデ直ニ行ツタガ、合ウノガ無カッタカラ止ムヲ得ズ、時間云々ノ張紙ヲ取ツテ使用スルコトニシタ

十時就眠

▲▼176ページ▲▼ 明治43(1910)年6月18日(土)

天気 晴

五時半起床 今朝心持ノ好イ朝日ハ「サツ」ト机ノ上ヲ照ラシテ呉レタ。終日快晴 人ヲシテ余リ梅雨ト云フ感ジラワスレシメタ。ソレガ爲メ今日角一ハ、ロールヲ持タシテヤルノ二人足ガ無カッタノニ一番閉ロシタ。夕方カラ主人ハ角一ノミキザールール外国製ノ圖面ヲ寫シテ居ラレタ。デ余モ其カタワラニアツテ、ジツト見テ居ルト成ル程ウマイモノデ吾レ々々ナラ先ヅ外側ノ基楚(ママ)トナル大キナ部分カラヤリ始メルガ主人ハ中央ノ主要部カラズン、遣ツテ行カレル。ダカラ線ニアヤマリガ無ク、尺度ヲ多ク使用ワズニ、大抵ハ「コンパス」デ済マシテ行カレル。後チ少シ講義ヲ聞キ九時事務所ニ歸リ、瓦



斯機關ヲ研究ス 十時就眠

▲▼177ページ▲▼ 明治43(1910)年6月19日(日)

天気 晴

今日「ハイドクック」ノ組立ガ出來タ 一兩日中ニハ竣成スルデアロー

夕方主人ガ製圖セラレルノヲ見後チ十五日ノ日記ヲ書ク 余リ長カッタノデ九時過ぎ

時ヲ費ヤシタ 後チ銘詩鈔ヲ讀ム

今夜色々考ヘテ見ルト関ニ居ルノガ何ンダカ無純(ママ)シテ居ル氣ガシタ。ソレハ最初、

「エンジン」ノ研究ヲ目的トシタノデアッタガ此處ハ蒸汽々機ノ外「エンジン」ハヤラナイ。

だから飛行機トハ余リ無関係ノモノデアル。デモ―斯ナッタラ一日モ早く先生ノ許ニ行

キ御願ヒシテ乗員ガマダ要ラナケレバ製作ノ方ノ工人トシテ、「ヤトワ」レタイガト思ッ

テ、ソコデ余ハ色々前途ノ方針ヲ考ヘテ見タガ、今ダシヌケニ行ツタ處ガ先生ハ常ニ横須

賀ニ居ラレルトハ極マツテ居ナイカラ、ヤハリ前キニ照會シタ上ニシナケレバナラナイ。然

シ先日ノ手紙ガアルカラ人員ガ入用トナッタラ直グ御知ラセ下サルデアロー。ソレナラ

其時)デ待ト―カ、トコンナ事デア領ヲ得ズニ寝テ仕末ツタ

▲▼178ページ▲▼ 明治43(1910)年6月20日(月)

天気 曇

今日ハ二三日来何ントナク氣ガ浮カナカッタノガ非常ニ心持チ好カッタ。ソレガ爲メ大

分用事モハカマシクヤツタ

夕方ポツ、ヤツテ來タノデ何仕様カト思タガ意ヲ決シテ帰宅シタ 父兄姉ハ此間ノ宴

會ニツイテ一曾勉勵セヨトハケ間敷云ワレタ。ソレハ余ニシテ若シ失敗セシガ引イテ伊藤

家ノ「チジヨク」トナルバカリデナク兄ナドハ当時デ頭ヲ上ゲテ歩ケナイト云ニアルノダ

後チ新聞ノ切取リヲナシ例ニヨツテ菓子ヲ一膳平ラゲ九時半宅ヲ辞ス 十時半帰宅新

聞ヲ讀ミ後チ今夜切り取ツタ新聞ヲ「スクラップ」ニ張付ケ床ニ入り飛行機ノ書ヲ讀ミ

十一時過ぎ就眠ス

▲▼179ページ▲▼ 明治43(1910)年6月21日(火)

天気 雨

五時半起床 今日モ午後カラ雨が降り出シタ

本日本阪晒粉ノ鉛管ヲ泉デ買ツタ ソーシテ後チニ同會社カラ見本ヲ借りテ見ルト外

径ガ太過ギル。ソコデ細イノト交換シナケレバナラナイ様ニナツテ、余ハ早速泉へ出懸ケ

テ行き取換テ貰フ事ニ話ヲ極メテ來タ

夕方京ノ加納カラ電話ヲ釜ヲ急イデ來タノデ余ハ矢内ヘ行キ交照(ママ)シテ見ルト明日中ニ最(ママ)非共出來上リマスカラトノコトデアッタ

夕食入浴後佐渡島店ヘ御寮人ノ見舞ニ行ク。少時店デ遊ブ内六時半頃火事ダト云ツテ勝吉トシガ、スー、云ツテ來タ 井上、坂口、堀ノ三君ハ直グ走ラレタ。千年町ノ借家ノ近所ダトカ。九時十五分帰所 途次隈伯ノ國民讀本ヲ買フ。後チ主人ノ製圖ヲ見ル 其内時間ハダン、スキデ(ママ)十時過ギルト昨夜モ少シ遅クナツタ爲メ眠氣ガサシテ來タ。ガ居眠ハ無論出來ナイ。今更寢ニ行クノモ、オカシニナツテドー、終リニナル) 見テ居タ 其変リ少シ易スル處ハアツタ 十二時少シ前)就眠

▲▼180ページ▲▼ 明治43(1910)年6月22日(水)

天気 雨

雨終日止マズ

今日午後佐渡島製銅場ヘブリ車修繕ノ爲メ二名出張セシム

夕景矢内ヨリ加納ノ釜竣成ノ報アリ

午前五時半起床 掃除新聞ヲ讀ム 晝間少時國民讀本ヲ觀ル 夕主人ノ製圖ヲ見又談話ヲ聞キ後チ実物製圖ヲ練習ス 十一時コンパスヲ納メ階上ニ至リ暫時新聞ヲ見就眠ス

▲▼181ページ▲▼ 明治43(1910)年6月23日(木)

天気 晴

午前五時十五分静カナ檐声ヲ聞イテ起キル 後チ暫時シテ雲間寸青ク現シヌト共二次第二曇色ハ東方ヘ去ツテ換フルニ碧空ニ白雲飛ブヲ見ルニ至レリ。氣サワヤカナリ

有光ヘ注文シアル山田乾燥器用チエン車又々失敗ニ終リ昨日ヨリ方法ヲ換ヘテ製作中 明夕方仕上ガル豫定。加納ノ乾燥釜今朝矢内ヨリ持參ス。來客山田氏ノ乾燥機請求。外ニ京都ノ人ニテ、「ハイドリック」ニ台直(ママ)段ノ問合セニ來リシ人アリシテ主人不在ニテ坊サンハ謂ハレズ

入浴夕食後「ハイドリックメートル」ヲ見テ寫ス 十時出來 十一時前就眠

▲▼182ページ▲▼ 明治43(1910)年6月24日(金)

天気 曇リ

今朝京都ノ加納ヘ注文ノ「ハイドリック」同ポンプ及ビ釜全部竣成ノ報告ヲサシシタ

夜製銅場へ道ヲ取りニ付キ時間ガ早ヤカッタノデ帰宅シテ本屋ノ拂三三円五十錢入ル

ノデ姉ニ云フト五円呉レタ。ソレカラ姉ノ客ガ寫シタ寫眞ヲ見タ 多ク頭ダケデ皆姉ノ結フタモノ 中ニ六七分身デ鏡ニ面シテ寫シタノモアッタ。姉ハ余ノ爲メニ又近所ノヲ借りテ來テ見セタ

九時半帰所 製銅場デ貰フテ來タExport American industriesヲ見ル 十時半就眠

▲▼183ページ▲▼ 明治43(1910)年6月25日(土)

天気 曇

五時十分前起床 本ヲ讀ミ記帳スルコト例ノ如ク日中ハ只工場ヲ見廻ルノミ 十時頃山田ガ又乾燥器ヲ急イテ來タデ有光ハ電話ヲ懸ケタガ明日デナイト上ガラナイトノコト。同時ニ京都ノ加納ガ來タ ソシテ「ハイドリック」ヲ見テ兎ニ角釜ダケ先ニ送クツテ呉レト云ツテ居タガ主人ハ成ダケ一時ニ引取ツテ貰イタイト云フト金ノ相談ニ帰ツタ 此外ニ來客ナシ

七時頃夕食ヲ終リ門田ヘ高野製紙ノ請求書ヲ持ツテ行ツタノデ帰途田中ヘ寄り本代ノ拂ヲ済シ新タニ發明界ノ進歩ヲ購フ。九時帰所後「メートルコック」ノ製圖ヲナシ十二時就眠ス 之レヨリ少シ前「ウドン」ヲ御馳走ニナル 處ガ此「ウドン」ガ不思議否不思議ト云程デモナイガ鉢ガ第一巻デモ入ツテ有リソーナヤツ ソレカラ「フタ」ヲ取ルト「蒲鉾」ガタツタ一切 其次ガ其變ワツタ處デ「トロコブ」ガ這入ツテ居タノダ。然シウマカッタ

▲▼184ページ▲▼ 明治43(1910)年6月26日(日)

天気 雨

坊サント御寮人ハ伏見ノ稻荷ヘ參詣ニ行カレタ 余ハ表ヘ出ラレルノヲ床ノ中デ聞イタ。夜八時半) 大塚ト荻村ガ夜業サレタ ソレハ藤井製材ノ汽関修膳(ママ)ガ急グタメ 今日ハ夜ハ勿論晝モ余暇ヲ見テ發明界ノ進歩ヲ讀ンダ 空中飛行機モアツタガ多クハ余ノスデニ知テ居ルダケノコトシカ出テ居ナカッタ。ソレカラ電氣ヲ少シト夜ハ、モツバラ蒸氣機関ヲ讀ンダ。處ガ茲デ余ハ一ツ論ル處ガアッタ。ソレハ斯ノ本ヲ讀デ居ルト發明ト云フモノハ、「ニュートン」ノ引カノ法則ト云ヒ「ワット」トシテモ事愚(ママ)然ノ如シト雖モ決シテ然ラズ。スベテ古キ以前ヨリ正當ノ順序ヲ経テ而シテ之レ等ノ秀才ノ士ニ會テ始メテ完成セラレタモノデアル。ソコデ余ハ飛行機ニ関シテモ決シテ急グベカラズ 大ニ沈着ノ態度ヲ取り直チニ飛行センナド、ノ空想ヲ捨テ徐ロニ其原動機ヨリ次第ニ進マンカナト思ツタ

九時前坊サン等ハ帰ヘラレ十時余ハ就眠セリ

▲▼185ページ▲▼ 明治43(1910)年6月27日(月)

天気 曇

五時半起床 「發明界」ノ進歩」ヲ讀ミ後記帳

來客八山田ダケ 例ノ乾燥器ヲ急ギニ來タ。然シ有光ヘ注文シテアルチェイン車ガマダ出來ナイ。明日上ルトノコト 然シ又ペケニナルカモ計ラレヌ

夕食後新聞ヲ讀ミ後「發明界」ヲ讀ム 十一時少シ前本ヲ閉ジ就眠ス。八時半頃内海來リテ談話ス 後チ乞ヒニヨリ自助論ヲ貸與ス 此時雨静カニ降レリ

▲▼186ページ▲▼ 明治43(1910)年6月28日(火)

天気 雨

本日午後角一会社ノ木下來ル 要ハエンジンノ圖面トハイドリックバルブヲ急グノト「ミキサール」ノ直(ママ)段ヲ八百円ニ直(ママ)切(但シ八百四十円ノモノヲ)ニ來タノデアッタ 然シ皆不調ニ終ツタ 而シテ約三時間ニ渡ツテ何ヤ斯ヤト話ヲシテ居タ内ニ余モ大分得ル處ガアッタ。中デ最モ煉著ルシイノハ、公稱馬力ノ計算デアル ソレハ「シリンドア」ノ径ノ自乗ニニヲ乗シタモノデ現スノデアッタ

夜九時)主人ト坊サント賣上機械ノ直入ヲナス 後チ發明界ノ進歩ヲ讀ミ十時就眠ス

▲▼187ページ▲▼ 明治43(1910)年6月29日(水)

天気 曇

今日ハサスガ二寸本ヲ讀ム間モナカッタ 然シ店ノ様ナコトハナイ

先ヅ朝廣本ヘ青写真ニスル写紙ヲ買ヒニ行ツテ漸(ママ)時複写ノ助手ヲ勤メ後チ「クエンサン鉄アンモニア」ヲ買ヒニ桑田ヘ行ツタガ無カッタノデ鴻野デ求メタ 一オンス十五錢 帰宅後又漸(ママ)時シテ酒井ヘ、角一ノ「バルブ」ヲ注文ニ行ク 十一時帰所

晝食後書出シヲ調ベ記帳ヲナシナドゴシヤ、スル内五時頃)ニナツタ處ヘ京都ノ加納ガヤツテ來テ金ヲ式百円置クカラ機械ヲ送クツテ來レトノ由ヲ傳ヘテ來タ 然シ主人ハドーシテモ應ジナカッタ 遂ニモ一五十円増スコトニナリ先キノ金ト合シテ五百円内入ト云フコトデ、殘金十八円職人が据付ニ行ツタ時貰フ話デ終ツテ六時過ギ帰ヘツタ。余ハ夕食ヲ喫シ支拂帳ヲ付ケ七時頃入浴ス 主人ハ角一ゴム会社ヘ見積ヲ書カレタ 九時頃ソレモ終ツテ坊サントシバラク談話シ後チ余ハ本ヲ書(ママ)ミ十時ヨリ新聞ヲ見十二時就眠ス

▲▼188ページ▲▼ 明治43(1910)年6月30日(木)

天気 晴

今日ハ支拂ノ準備ヤ職工ノ勘定ナドヲシタ。午後少シ「小ヤミ」ニナルノヲ待ツテ加納ノ「ハイドリック」ヲ出荷シタ  
夕食後友吉トント内海サンノ宅ヘ行き明日佐渡島ヘ行ツテ貰フコトヲ頼ンデ帰ツタ。後チ散髪ニ行き帰宅後飛行機ノ写真ヲ「ブック」ニハリ付ケ十一時就眠  
今夕給料ヲ貰ツタ 七円呉レタ 実ニ意外デアッタ。シカシ先ヅコレカラハ小遣ダケハ姉ニ無心ヲ云ワズニスムコトニナツタ

▲▼1900ページ▲▼ 明治43(1910)年7月1日(金)

天気 晴

目ヲ醒ストスデニ窓白シ 驚キ直チニ飛び出シ電車ニ乗ル時正ニ五時過グル十五分 簿記ノ手傳ヲナス 午後岡本正君ガ昨夜々通シヲヤッタト云フノデ漸(ママ)時寝サセ 交々ニ其方ヲヤル事ニシタ處ガ三時四時ニナツテモ起キナイ 其内ニ余ハ風呂ニ入り岡本君ヲ起シタガ起キナイ 仕方ガナイカラ捨テ、居イテモ別ニカマイハシナイガ、ソレデハ棚卸帳ガ出來テ居ルノニ簿記ノ方ガ出來ナイト云フト岡本君ノ面目ニモカ、ワルト思ツタノデ四早ノ帳面) 書キ上ゲラシテヤッタ 時五時過ギ アマリ中山君小旦那モ八ヶ間敷ク云ワレルノデ、止メルコトニシ、夕食ハ辭シテ丸善ヘ行き、本ヲ見ル内飛行機ノ現在及將來ト云フノガ目ニ入ッタノデ直チニ求メタ 代一円十錢チト高イ。ソレヨリ帰宅途次丸万ニテスシヲ求メ之レヲ竹島様ヘ持參 御機嫌伺ヒヲナス。後チ普請場ニテ少時手傳ヲナシ七時西ノ姉モ來タノデ、今日佐渡島ニテ反物ト預金三十二円幾何ト外ニ老円志付ヲ呉レタコトヲ告ゲ金ハ皆姉ニ渡ス。夕食後西ノ姉ハ天王寺ノ齒神サンヘ參詣スル約束デアタノデアッタガ、オソイノデ止メルコトニナツタ 處デア余ハ姉ニ今日ハ早く帰ヘツテ明日早く行ク方が好カロート注意スルト父ガ又ソレヲ大キナ声デ云ツタノデ、トード、、其處ヘ泣キフシテ仕末ヒ遂ヒ六檐ヘ行ツテ、シク、、ヤルノデア余ハ心配シテ色々云ツテヤッタガ別ニニモナイラシイ。然シ大姉ハ勿論ダガ兄ノ姉ニ對スル風モ何ンダカ親身ナ處ガナカッタデ、帰ル時兄ト難波) 共ニ來タノデ、クレ、、今少シ親切ニセラレル様注意シタ 十時帰宅就眠

▲▼1911ページ▲▼ 明治43(1910)年7月2日(土)

天気 晴

五時半起床 卅日ノ日記ヲ付ケ、後支拂濟ノ分ノ記帳ヲナス  
事務「スクリーニシャフト」ハ今日出荷スル思惑クデ濱田ヘ電話ヲ懸ケルト八時半頃送状ヲ持ツテ來テ十時) 二最(ママ)非出シテ呉レトノコトデアッタ。然シ其レハ不可能デア實ハ「カップリング」ノ「スピル」ガマダ出來テ居ナイノダ 殊ニ今日仕上師ハコト、ク藤井

ト佐渡島へ出仕事ニ行ツテ居ルノデ、遂ニ出セナカッタ  
午後廿四馬力ノ「エンジン」ノ雛型ヲ出スノヲ手傳ツタ。夕食入浴後新聞ヲ讀ミ「エンジン」ノ製圖ノ写ヲ初ム。十時半終リ十一時飛行機ノ現在及將來ト云フノヲ緒言ダケ讀ンデ就眠ス

◆◆1926ページ◆◆ 明治43(1910)年7月3日(日)

天気 雨

降り又止ムコト幾回ナルカヲ知ラズ。噫々ウットーシキ梅雨ヨ早く上ガラマホシト思ヘド如何トモナシ難シ

今日午前午後二回ニ木型ヲ洗フに黒(ママ)汁流レ出デ、新調の「シヤツ」汚レヌ。三時頃ロット其他の製造物ヲ重田ニ注文ニ行ク。至レバ、ムサクルシキ鍛冶屋数軒立並ベル中程ノ家ニテ、入レバ半バ落チタル壁ニ、ヤットコノ類数知レズ下ガレリ。左側ニ火床アリサレド床少シ、ユガミ、吹子横ノ煉瓦又クツレンーナリ。其前ニ金床アリテ今ヤ眞赤ニナリシ「リンツ」ヲ缺ミテ、テント合ワセバ其上カラ二丁ノ向鎚トシカント勇マシ。庭ニハ大小幾十ノ槌逆ニ立チテ林ノ如シ。漸(ママ)時見テ四時帰所セリ

夜西ノ小姉ニ一昨夜ノ事共氣ニ懸レバ、何ニカ氣ノ晴レンーナモノヲト思ヒ台樂ノ繪ニ「条月今ハ昔ノモノガタリ」ノ十七字ヲ書キ送り又外ニ宅へ新聞ヲ残シ居イテ貰フ事ト。中島丑松様へ去月十五日日柄喜(行キシ)日ニ題シテ「日乾きも日かわきならぬ日柄かな」ト雨中ノ花勝負(ママ)ヲヒラヒラ晝ス。十時就眠

◆◆1933ページ◆◆ 明治43(1910)年7月4日(月)

天気 晴

午前十一時兄ヨリ佐渡島御寮人ノ訃ヲ報ジテ來タ。兎三角今夜行クコトニシタ。事務山田ノ乾燥機ノ組立ヲシタ。四時頃重田へ佐渡島ノロープ車ノスツピルノ注文ニ行ツテ帰ヘルト佐渡島ノ黒田ハンカラ電話ガ懸カ、ツテ帰ヘラレタヲ呼ンデ呉レトノ言傳ヲ下女カラ聞イタノデ別(ママ)カッテハ居ルガ先ヅ電話ヲ懸ケテ見タ。豫想通りデアッタ。夕方一時帰宅。御佛前ノ事供ヲ聞キ竹島様へ一寸旦那ガ上等ノ錢入ヲ呉レラレタ禮ニ行ク

七時宅ヲ出デ、日本橋北詰ニテ、「ローソク」ヲ一ヶ半紙函入リトシ代五十五錢ヲ拂ラツテ店へ行ク。昨年御上サン御死去ノ時ト別ニ変リハナイ。先ヅ小旦那ニ挨拶ヲナシ老主人、御家サント別家、店員諸氏ト終ツテ通夜ヲナス。小旦那ニ中山ハンへ帰ヘツテ呉レト云ワレタ。ガ應ジナカッタ。後チ飛行機ノ現在及將來ヲ讀ム。得ル處少ナカラズ。竹島福西ノ諸氏八十時頃。前中、黒川沢村ノ諸八十二時。何レモ帰ヘラレタ。談声、ニギヤカナリ

発信 小姉 中島丑松様宅

◆▼194ページ◆▼ 明治43(1910)年7月5日(火)

天気 晴

一時寢番交對(ママ)時デアル 處ガ藤田君ガ三十分早く起シタトテ非常ナ立腹デ後チ各一時間毎ニ寢室へ防(ママ)害ニ行ツテ居タ。ハタセルカナ、藤田君一類ハ又大変ニ怒カツテ今夜復シニューヲ遣ルトテカキンデ居タ

三時頃カラハ、ヒソソリトシテ皆ユクリ、ト寢テ仕舞ツタ。余ハ本ヲ讀ム 四時過ぎ老主人ガ出テ來テ猿又ヲヌギナガラ、「タレ誰ゾ、ノミヲ取ツテ呉レンカア、伊藤 御前 上手ヤロー 一寸取ツテ呉レ」トテマダ、生温イノヲ、ツキツケラレタニハ早朝カラ氣持ノ好イ話デハナカッタ

六時一寸九條へ帰り帳合ヲナシ直チニ今宮ノ宅へ帰り寢テ見タガサテ日中ハ寢ラレナイモノデ二時間程ウツ、シテ晝飯ヲ喫シ再ビ安堂寺町へ行ク 漸(ママ)時山供養ノ手傳ヲナシ後チ倉庫ニテ吉田中山両氏ト談話ヲナシ本ヲ讀ム。別ニ用事ナシ 小旦那ヨリ明日ハソレデハ昨年ノ通ノ手傳ヲシテ呉レト頼マレタ。夜ハ九時就眠 久シ振りデ手代室デ数年ノ友ト枕ヲ共ニシタ

◆▼195ページ◆▼ 明治43(1910)年7月6日(水)

天気 晴

一時カラハ交換時デアル 余モ起キタ。例ニ依ツテ蒲鉾ヤゴンボヤナド、大キナ鉢ニ入レタノヲ出サレ酒モ付イテアッタ 余ハ岡本正君ノ科學世界ヲ讀ム

ヤガテ夜ガホノボノ明ケ初メテカラハ、バタ、ト大分ヤ、コシクナツテ來タ。余ハ昨夜控エテ居イタ人名表ニ照シ合セテ運バレタ下駄、帽子、傘等ヲ用心籠ニ入レ九時過グル三十分葬式ノ出ルヤ表ノ門ヲ閉メ河野、黒田両君ト車ニテ阿部(ママ)野ニ向フ。待ツ事稍ヤ久シクシテ荷物ガ到着セシニヨリ之レヲ整理ス 程無ク葬儀ハ静カニ來タ 余等モ又之レヲ迎ヘタ 柩(ママ)ヲ見ルトサスガニ、生前ノ面影ヲ思ヒ起コシテ変ナ氣持ニナル

十二時無事ニ後自ヲ勤メ終ツテ車ヲツラネテ帰店 漸(ママ)時シテ晝食 後チ色々ノ手傳ヲナシ三時頃ヨリ戸次サント二人老主人ニ命ゼラレテ坐敷ノ床、額ナドノ掃除ヲサラレル 處ガソレガ終ルト今度ハ、硫黄ヲクスベテ消毒中ノ、ハナレ坐敷ヲヤツテ呉レト云ワレタニハ一番閉口シタガ仕方ガナイカラ、「ハンカチ」デロワ、オーイ室ニ這入ルト、モ、トシテ呼吸處デハナイ 目ガ痛い位イデアッタ 一ツ手ヲ懸ケテハ外ニ出デ呼吸シタ々々テヤツト取ハツシタガ、サテカケル段ニナルト「カン」ガ折レテ居テ間ニ合ハナイ仕方ナシニ買ヒニヤリ又ヤリ初メタガ此時煙リガ大勢居ラレル坐敷へ這入ツタノデ遂ヒニ御家ノ言葉デ止メルコトニナツタ 時五時過ぎ

老主人ハ、マダ「コレシキノ煙リグライ中デ仕ゴトガ出来イデカ」ト云ツテ居タ 実二人ヲ馬鹿ニシテ居ル 今ニ見ロ 此ブジョクヲ取返シテクレルカラト帰途大ニ勵慨シタ  
七時帰宅 夕食後直チニ就眠 十時頃火事ノ爲メ一寸起コサレタ外十時間ノ間何ニモ知ラナカッタ。

▲▼196ページ▲▼ 明治43(1910)年7月7日(木)

天気 晴レ曇リ

六時起床洗面。六時十五分戎サンヨリ菊サノ車ニテ帰所

山田ノ乾燥機ガ漸ク出来上ガッタト同時ニ濱田ノ、スクリユーシヤフトモ出来上ガッタ。

山田ノハ取リニ來タガ濱田ノハ韓国組) 出荷

夕飛行機ノ書ヲ讀ミ、後チ主用ニテ堀口ノ後藤写真館ヘ行ク。

帰所 發明界ノ進歩ヲ讀ミ十時就眠ス

▲▼197ページ▲▼ 明治43(1910)年7月8日(金)

天気 晴レ

五時半起床 飛行機ノ書ヲ讀ム

今日ハゴシヤ、ト、カナリ身ヲ、オチツケル間ナシニ過シタ

夕方發明界ノ進歩ヲ讀ンダガ氣ガ乘ラナイノデ、ブラリ七時頃カラ電車ニ乗ツテ心齋橋デ帰り田中ヘ行キ注文セシ品性論ヲ貫ヒ店ヘ行キ漸(ママ)時遊ビ八時過ギ辞シ横町ノ精養軒ニ入り久シ振リニ「ビーブ」ヤ「チキン」デ舌ヅミヲ打チ、十時前帰所 直チニ就眠

▲▼198ページ▲▼ 明治43(1910)年7月9日(土)

天気 晴

四時頃フト目ヲ醒スト、ダラシナク不(ママ)團ヲ跳(ママ)ツテ居ルノデ、正シク寢返ヘルト此時横ノ方カラ友吉ガコロ、トヤツテ來テド、ト、余ノ中ヘコロゲ込ンデ仕末ツタ仕方ガナイカラ、エ、モ起キテヤレト思ツタノデ直チニ起床 洗面ヲナシ、飛行機ノ書ヲ讀ム

來客ハ京ノ加納ダケ ドーモ「ハイドリック」ノ「ポンプ」ガウマク行カナイ 入山ヲ二度モヤツテ、ヨー直サナカッタデ兎三角明日内海ヲモー一日ヤルコトニシタ

夕食入浴後岡本正君ノ依頼ニヨリ決算ヲ見ニ行ク。處ガ一番ニ中坊ニ見ツカッテ繪ヲカ、サレトードー三人共ヤラサレタ 後チ月表ヲ見間違其他必要ノコトヲ教ヘ八時「アイスクリーム」ヲ馳走ニナツテ、中島氏ノ宅へ先日「ナイフ」ヲワスレテ居イタノヲ貫ヒニ





五時起床 朝ハサスガニ心持好イ 殊ニ表ニ出ルト氣ガ、ストスル  
朝飛行機研究中フト今日要領ヲ得ナカッタガ、名古屋ノ共進會特許館デ貰ツテ來タ  
特許局ノ出品説明書ニ、クワシク書イテアルコトヲ思ヒ出シタノデ今夜ソレヲ調べルコト  
ニシタ

三時頃ヨリ、タイクツニ委セ日本製銅硫酸肥料株式会社ヘヤル硫酸バルブノ製圖ヲナス  
入浴夕食後散髪ニ行キ帰所後又製圖ニカ、ル 遂ニ十二時完ク畫キ上ゲタ 直チニ就  
眠

仕上職長入山ハ三四日前ヨリ休ンデ出テ來ナイ 原因ハ先日加納ヘ「ハイドリック」ヲ据  
付ニ行ツタガ水ガモッタノデ其翌々日又出張シテ、ソレデモ尚「ポンプ」ノ「ハンドル」ガ六  
ネ返ヘサレルノヲ、ヨ一直サズニ帰ヘツテ來タノデ當時主人モ風ノ氣味デ氣分ガ悪ルカッ  
タ爲メ、頭カラ、シカリツケラレタニ因ルノデ直其他ニモ色々平常ノ不平モアルラシイ  
ソシテ、前ノ番頭ノ吉村氏ニ暇ヲ貰ツテ呉レト云ツテ居ルソ一ダ(因ニ同機ハ又翌々日  
内海ガ出張シテ直グ直シテ來タ 何ンデモ「バルブシート」ガヤハリ、ユルンデ居タノダン  
一ナ)

▲▼202ページ▲▼ 明治43(1910)年7月13日(水)

天気晴

五時起床 飛行機研究

今朝石炭ヲ上ゲル筈デアツタガ晒粉ノ大砲ガヌツト横ヘ出テ居テ通レナカッタ爲午後二  
スルコトニシタ 處ガ午後ハ先方ノ仲仕ガ來ナカッタ

那賀製板眞中メタル出荷。日本製銅硫酸ノアンチモニーバルブ出來明日出荷ノ筈  
夕食入浴後約三十分間表デタ涼ミヲナス 之レ本年度最初ノ納涼ナリ 後チ「ベアリ  
ング」ノ製圖 十時終リ飛行機研究ヲ仕様ト思ツテ居ルト坊サンガ「フートバルブ」ノ製  
圖ヲシテ居ラレタノデ出來スル 直グ寢ル

▲▼203ページ▲▼ 明治43(1910)年7月14日(木)

天気曇リ

五時起床 飛行機研究 今日ハ就(ママ)日ヤ、コシカッタ。即チ晝(ママ) 石炭ノ貫々 午後ハ  
阪田ノ鑄物、職工ノ勘定等其他ゴシヤ、ハ、用デアツタ

四時頃中島氏カラ手紙ガ來タ 終業後讀ンデ見ルト、明十五日笠置探勝ノ誘引状デ  
アツタ 處ガ其頃カラ、雨ガ降り出シタ デ七時頃カラ途(ママ)ハ中島氏ヲ訪レテ打合  
セヲシタ 而シテ雨サヘ降ラネバ少々曇ツテ居テモ行クト云フコトニナツタ。デ八時同宅  
ヲ辞シ帰宅 旅費トシテ五円トコーモリ傘トヲ借りテ歸所 就眠ス

▲▼205ページ▲▼ 明治43(1910)年7月16日(土)

天気 曇

「ノミ」ト蚊ニ攻メラレ折格ノ夢ヲ破ブラレルコト幾回ナルヲ知ラズ 其中デ丁度一時頃デアッタ 表ヲ尺八ノ音色好ク静カナ々々夜ノ大気ヲ、アダカモ月ノ世界マデモ聞エハセヌカト思ハレル程、スレダスミ切ッタ調子デ行クモノガアッタ 漸(ママ)時窓ヲ開イテ耳傾ケテ居タガ次第二音ノウスレ行クト共ニ再ビカスカナ眠ニ入ッタ  
五時十分前起床 昨日ノ紀行文兼日記ヲ作ル

晝例ノ如ク閑ナリ。サレド機械ハ相當働キ居レリ 只余ノ身体ノミ  
夜製圖後品性論ヲ讀ミ十時頃氷ヲ喰ヒニ行ツテ帰宅後直チニ就眠

発信 藤井甚松様 中島丑松様

▲▼206ページ▲▼ 明治43(1910)年7月17日(日)

天気 曇晴

四時半目ガ醒メテ眠レナイマ、起き出テ飛行機研究ヲヤル 即チ一昨日天満宮神前ニ於テ發見シタ翼面ノ試験(ママ)ニ関スル設備ニツヒテ

四時頃角一ノ木下ガ來タ。サイダーヲ出シタ。要領ハ府廳へ差出ス圖ヲ引イテ呉レト云フノデアッタ。四時半頃帰ヘッタ

今朝九日ニ関原デ購ツタ、ツル丸棒ヲ折ツテ見ルト何一モ、イツモノト大分違ウノデ関原へ電話ヲシテヤルト主人ガ飛ンデ來タ。ヨク関ノ大将トヨク似タデアッタ。然シテ先ヅ普鉄デモナイノデ兎ニ角使シテ見ルコトニナッタ。處デ丁度南方ガ來合セテ居タノデ直(ママ)段ヲ調ベテ見ルト大分関原ノ方ガ高イデ談判シテ遣ツテヤット百貫ノ手前五十錢ダケ引キヲツタ。然シ中々骨ガ折レタ

夕食入浴) 品性論ヲ讀ミ後チ中島氏ヲ訪ヒ一昨日ノ勘定ヲ仕様トシタガ何シテモ受取ツテ呉レラレナイ 遂ヒ二円ダケ置イテ來ルコトニシタ

九時帰宅シテ机ニヨルト、ザート大雨ガ降ツテ居タ 九時過ぎ就眠 本日ヨリ蚊帳ヲツル 暑苦シ

▲▼207ページ▲▼ 明治43(1910)年7月18日(月)

天気 晴

例ノ時刻ニ起キテ例ノ如クニナシ特筆スベキコトナシ

▲▼208ページ▲▼ 明治43(1910)年7月19日(火)

天気晴

午前五時少シ前起床 洗面後例ノ研究ニ懸カ、ツタガ本日カラ一番同機ガ今日ノ隆盛ヲ來セル爲メニ拂ラハレタル犠牲ヲ記録セント欲シ調査ス  
今日錆止メ油ヲ求メタレバ之レヲ、其ノ「エンジン」中ノ既成品ニ塗ル手ハヌル、トナリテ汚キコト云ワン方ナク又クサカリキ  
夕食入浴後帰宅ス。西ノ姉ガ來テ居タ 何故カト聞クト頗ル阿方(ママ)ラシイ 菓(ママ)物ト「ラムネ」ヲ喰ヒ過ギテ皆病氣ヲ起シタ爲メ手傳ニ來テ貰ツタトハテサテ。九時過ギ帰所 五日以降ノ雑誌ノ切取りヲナス 十二時近ク就眠ス

▲▼209ページ▲▼ 明治43(1910)年7月20日(水)

天気晴

五時起床 昨日ノ調査ヲ續行ス  
日中眠クナツタ時ハ習字ヲナス 又品性論ヲ讀ム 午後三時頃ヨリ、フートバルブノ製圖ヲ遣ツタガ中途デ居眠リカケタノデ止メタ。ハタセルカナ後チニ調べテ見ルト間違ツテ居タ

夕食入浴前品性論ヲ讀ミ、後新聞ヲ讀ム 電燈燈火ヨリ製圖 九時半) 今夜ハ割合涼シイ風ガ僅カナガラ窓カラ吹キ込込ダノデ大變好カッタ ソレデモ汗ハ出タ。然シ之レ位イノ事ハ何トモナイガ、タゞ蚊ダケニハ一番困ラサレル 十時就眠

▲▼210ページ▲▼ 明治43(1910)年7月21日(木)

天気晴

五時起床 昨日ノ迹ヲ續行シ今朝完成ス 割合ニ少ナカッタ。然シヌケテ居ルモノモ大分アルダロー  
晝食ノ時土曜(ママ)ノ入リトテ、オハギノ大キナノヲ三ツ食シタ 御蔭デ御飯ハ一ツヨリ喰エナカッタ 而カモ尚胃恬(ママ)ヲノマネバナラナカッタ  
夕食入浴後「アンドガイジ」ノ製圖ヲナス 九時半終リ、サル又ヲ買ヒ三行キ「アイスクリーム」ヲノミ帰宅 十一時就眠  
日中午後習字ヲナス

▲▼211ページ▲▼ 明治43(1910)年7月22日(金)

今日明日ハ此辺ノ御祭りデアル 然シ祭りラシイコトハ少シモナイ 夕方カラ少シ祭りラシカッタガ提燈ノ如キモ誠ニ少シシカ見ラレナカッタ  
余ハ例ノ如ク五時前起床 電気學講義ヲ讀ミ七時前事務ニ懸リ七時例ノカン、、、、ヲタ、ク

午後八三時ニ今日ハ終業シテ掃除ヲナス 後チ余ハ少シ品性論ヲ讀ンダノミ 夜モ寢ル表ニ夕涼ミヲナス 夜ノ長キコトアキル、バカリナリキ

▲▼212ページ▲▼ 明治43(1910)年7月23日(土)

天気晴

午前四時半起床 便通後洗面 朝燈明ヲ點ズ 近所ヲ見廻ツタガ一軒トシテ起キテ居ナカッタ。五時少シ過ギ茨住吉ニ參詣 「余ハ余ノベストヲ盡クスヲ以テ神ハ之レヲ保護ナサシメタマエ」ト例ノ通り祈ツテ居イタ 帰宅後朝食ヲ喫シ井田工場ノ注文ヲ坊サント佐平友吉ノ手傳ヲ借テ調べ勘定書ヲ作り居ク 間モナク船頭ハ其品モノヲ取りニ來タ。余ハ金ヲ貰フ爲メ三木ト云ウ米屋) 一所ニ行ツタ

七時半帰宮ノ途ニツク 帰宅後ハ去月來ノ新聞ヲコトゞク取調べ切取帳ニ納ム 丁度四時過ギ)カ、ツタ。余ハ乞フテ本年ノ新芋ヲ初メテ喰フ 晝ノ西洋料理ヨリ味最モヨシ。夕方畑へ水懸ニ行ツタ 大ニ心地好クナツタ。

帰宅後夕食ヲ終リ發動機ノ調査ヲナシ宅ヲ辞ス(但シ先頃研究ノ爲メ歐州へ派遣セラレタル日野大尉ハ、既ニアルマン式飛行機ニ乗シ若干ノ飛行ヲナシ本邦人ノ第一先驅ヲナシタコトヲ知タノデ増々同研究ノ急急ナルベキコトヲ憾ジタ爲)而シテ八時一寸九條ニ帰ルヤ着物ヲ着替、佐渡島ニ岡本正君ヲ尋ネ發動機ニ関スル外国ノ雜誌デモ來テ居ラナイカ調査シ、大谷君ニ學校デ今日調べ得タ「エイアシップモーター」ノ記事ヲ翻譯シテ貰フコトヲ頼ンデ帰ヘル 十時直チニ就眠

▲▼213ページ▲▼ 明治43(1910)年7月24日(日)

天気晴

五時起床 昨日一昨日ノ日記ヲ書ク

今日午後角一ノ大クランクノ事ニツキ重田ト然シテ實際火造ツタ家ノ主人トガヤツテ來テ色々試験ノ上、モーニ分割ヲ取ツテモ尚ホキズノ現ワレテ居ル様ナラバ其時又相談スルト云フコトニナツテ分レタ 即チクランクニ圖ノ如クニ後カラ金ヲ張ツタモノデアルノダンソーナ 處デソレガウマク焼ケキツテ居ラナカッタノヲ其儘ニヤツタカラ、キズガ現レタトノコトデアル。入浴夕食後新聞ヲ見少時納涼 後チ製圖 九時十分終リ一寸鐘詰ヲ買ヒニ行キ九時半帰宅 漸(ママ)時表ニテ涼ミ十時就眠ス

▲▼214ページ▲▼ 明治43(1910)年7月25日(月)

天気 晴

五時起床 好坤心地ヨキ朝風ソヨ、吹ク 表ニ椅子ヲ取出シ飛行機ノ犠牲ヲ書キ出ス。而シテ余ノスクラップブックカラ書キ抜キタルモノ四十二年一月以降廿一件デアッタ 割合ニ少ナイガ然シ大分マダ、スクラップブックニヌケテ居ルノガアル筈デアアル 昨日ノクランクハイヨ、使用ニ適シナイコトニナッタ 兎ニ角一應帰ヘスコトニシタ 夕品性論ヲ讀ミ夕食 入浴後阪本ト佐渡島工場トヘ請求書ヲ持ッテ行ッタ 今日ハ吉田氏ノ当宿デアッタ。余ハ戸次サンヲ訪問シ約束ノ十八史略ヲ乞ヒ得テ九時頃帰宅ス。今夜ノ電車ノニギワイハ大変ナモノデアッタ 天神ノ神威大ナルカナ。余ハ少時表ニ涼ミ九時半就眠ス

▲▼215ページ▲▼ 明治43(1910)年7月26日(火)

天気 晴

五時起床 品性論ヲ讀ム サレド頭ハ飛行機ノ上ニ散ッテニ者何レモ要領ヲ得ズ 晝食ノ時坊サント身長ヲ計ルニ坊サンハ五尺四寸六分 余ハ僅ニ四尺九寸九分 五尺ニ足ラザルコト一分 而シテ重量ハ余ハ十二貫弍百五十 坊サンハ十三貫三百印 一ハ余ノ差アリ 身長ノ割合ニ少ナシ。之レナラ徴兵検査ニハ多分不合格トナルデアロー 夕散髪ヲナシ夜九時)製圖 後坊サンガ明日柏原製銅へ集金ニ行カレルノデ請求書ヲ作ッテ居イタ 十時就眠 夕景ヨリ風アリ頗ル涼シカリキ

▲▼216ページ▲▼ 明治43(1910)年7月27日(水)

天気 雨

久シ振リノ雨 非常ニ涼シ

今日不計新聞ノ廣告中ニガソリン機関製造販賣九條町岡鉄工所トシテアッタ 之レデ余ハ思ヒアタッタ 共進會デ関ト見タノハ完ク岡ノ間違イデアッタノダ ソコデ來月一日ハ最非一度見ニ行ッテ見タイト思ッタ。何ンシロ資金ノナキ余ハ飛行機ヲ造ル前其動カヲ自ラ造ヲザルラナケレバナライノデアアル ア、前途遠キカナ 而シテ四辺ヲ省ミレバ歐米ハサテ置キ研究會ニ於テ着々進歩シツ、アルノヲ見ル 実ニタマライソコデ余ハ、一時金策ヲシテ之レヲ以テ佛国ニ渡リ、タトエ労働者トナル)デモ尚ホ同地ノ飛行機學校ノ様ヲ見且ツ練習シタイト思ヒ浮ベタ。ソコデ旅費ナドヲ一ツ郵船会社ヘデモ聞合セテ見様ト下書キマデシタガ得出ス勇氣ハナカッタ

夕方徳島製材カラ「煙突折レタスグ來イ返」ト云フ電報ガ來タ 返信ハ「サシツカエアル

アスバンノル」ト出シタ

七時半) 夜業 余ハ今日非常ニ眠カッタノデ直チニ床ニ入ッタ

▲▼217ページ▲▼ 明治43(1910)年7月28日(木)

天気晴

五時起床 例ノ通り表ノ涼シキ朝風ニ吹カレナガラ飛行機ノ研究ヲヤル 之レ眞ニ余ノ一日中最モ愉快ノ時ナリ

日中余暇ヲコトゞク「本邦發明家ト富豪ニ望ム」ヲ書クノニ、費ヒヤシタ ソハ余ガ飛行機研究ニ際シ資力及バザル爲メ其發動機スラ自カラ造ラナケレバナラナイ。斯クノ如キハ同機研究上發達ヲ速(ママ)延セシムル事非常ニ大ナルガ故、大分他ニモ多ク此種ノ人々アルベシト憾(ママ)ジタル爲メ何レハカ投書シ與ント思ヒツイタ爲メデアッタ  
夜八時半) 夜業

主人ハ八時過ギ徳島ヘ行クベク、出ラレタ

十時就眠前今日ハ年期ガ大分夜業ヲヤリ居ッタノデ、芋ヲ十五錢張リ込ンデヤッタ  
実ハ余モ新芋ヲ喰イタカッタカラ

因ニ昨夜ニ二時間常ヨリ早ク寢タ爲メ今日ハ少シモ晝眠氣ヲ憾(ママ)ジナカッタ

▲▼218ページ▲▼ 明治43(1910)年7月29日(金)

天気晴

五時起床 例ノ飛行機犠牲者ヲ取調べ後就業

八時頃ヨリ昨日ノ續キニ筆ヲ取り午後ヤット出來上ガッタ。ヤッテ居ル内ハ少シ頭痛ヲ憾(ママ)ジタガサテ筆ヲ置クト云ヒ知レヌ愉快ノアルモノヲ以テ充タサレ氣ハ清シクナッタ。而シテ二時三時ノ眠タイ時モ知ラヌ間ニ過ギテ仕舞タ  
夜八時半) 夜業 後チ品性論ヲ讀ム 十時就眠

▲▼219ページ▲▼ 明治43(1910)年7月30日(土)

天気晴

五時起床 例ノヲヤル 今日ヲ以テ全ク終ル 而シテ明日ヨリハ訂正清書セザルベカラズ

午前中昨日作り上ゲタルヲ訂正増補シテ金科玉條ノ内ニ納ム

午後終日月末ニ於ケル諸勘定ヲナス。然ルニ茲ニ阪田ヨリ九日ニ受取りタル中ニテ戻シタルモノアリシニ通ヒニ書カザリシト余ノ手帳ニモ品名ヲ認メザリシニヨリ大調査ヲナシテ尚分明セズ止ムヲ得ズ墜(ママ)ニ請求通リトナス 而シテコハ全ク余一人ノ責任ニアル

ヲ以テ余ハ之レヲ賞(ママ)ナワザルベカラズ(主人ハ如何ト云フモ) 夕之レモ勘定ノ違ヨリ平末ニ行ク 此度ハ全ク前方ノ違ヒナリシ 夜又九時半) 諸種ノ事務ヲ整理ス。後チ表ニ出デ主人等ト納涼シツ、アル時、タマ、一人來ルアリ 而シテ談話機械ノ事ニ及ブ 此談話中余ハ大ニ得ル處アリタリ。ソハ大結シテ云ワバ横紡等ハ決シテ余リ元圖式原品ニコーデイスベカラズト云フニアリ

◆◆220ページ◆◆ 明治43(1910)年7月31日(日)

天気 晴

五時起床

朝モ晝モ夜モ何ントナシニ過シタ。然シ「本邦發明家及富豪ニ望ム」ヲモ一寸清書シタ 齒車ノ晝ハ稽古モシタ 諸勘定ノ則リヲモ附ケタ 而シテ八時頃ヨリ表デ納涼ヲシテ十時十分床ニ就イタ

今日午後佐渡島ノ大谷君來リ 先日依頼シ居キタル翻譯物ノコトニ就テ五円以下デハ出來ナイト云ツテ居ルトノコトデ余ハ驚イタガ止ムヲ得ナイ。記事其モノニ、ソレダケノ價直(ママ)ノ有無ハ別トシテ研究ノ爲メニ投ズルノダカラ遣ツテ貰フコトニシタ。ソレニシテモ益々英語ノ必要ヲ憾(ママ)ジタノデーツ獨學デモ最(ママ)非ヤリ遂ゲント決心シタ

◆◆221ページ◆◆ 八月中行事豫記

科學理學三十五錢 發明界一円八十錢 電気一円十錢 品性論一円五十錢 和俳四十錢 料理三十五錢

〆五円五十錢

飛行機通解四十五錢

〆五円九十五錢

◆◆222ページ◆◆ 明治43(1910)年8月1日(月)

天気 晴

例刻起床 洗面後献燈 六時半ヨリ関口、細川八角一ノロールメタルブシヲ割ル 火夫ノ代リハ末次ガナス 急ギニ急イデ二時全ク出來上ガツタ 丁度其處へ内海ガ來テ仲仕ニ右ノ品ヲ持タセ末次ト二人角一へ出張ス。余ハタゞチニ身体ヲ新タメ不用ノ書物ヲ取リマトメ暑イタ々日中ニ飛出シタ。先ヅニ番道路カラ電車ニ投シテ本店へ行き佐渡島へ寄り小旦那ガ居ラレタラ此間書イタノヲ一ツ見テ貰フト思ツタガ濱ガ間嫌ク大掃除デアツタノデ余ハ心齋橋筋ニテ、スクラップブックヲ購ヒ帰宅ス。後チ新聞切取リヲナシ



入浴後夕食。兄ト共ニ帰宅ノ途ニ就ク 途次道頓堀ニテ洋食ヲ喰フ 十時十分帰所。身体ヲ水ニテ清メ床ニツイタ ガ然シ暑クテ眠レナイ 種々枕ヲ返ヘスコト幾十回 然シソレデモ何時ノ間ニカ寝タラシイ

▲▼223ページ▲▼ 明治43(1910)年8月2日(火)

天気 晴

五時起床 今朝六呎ノ革車ヲ割ツテ呉レト云ツテ居タ人(堀江ノ喜多)ガ先方ノ人(モリソン商会)ヲツレテ来テ明日午後五時)ニ最(ママ)非仕上ゲテ呉レテ、ヤカマシク云ツテ居タ 其處へ主人ガ出テ来タ 處ガ喜多トハ旧知デアルカラ話ガハズンデ色々ノコトヲ聞イタ 其内ニハ韓国白銅貨偽造ノコト 久保田鉄工所主ノ青年時代ノコト 其人ト成等モアツタ

午後又モリソン商会ヒトリヤツテ来テ六時頃)ツキキツテ居タ  
夕方豊福へ依頼ニヨリサクシヨン七吋気筒直径十六吋ト云ウ途方モナイ大キナウオーシントシポンプノ見積書ヲ持タセテ遣シ代價千六百円  
夜歯車ノ晝キ方ノ練習ヲナス 職場ハ革車ダケ九時) 夜業  
十時就眠ス

▲▼224ページ▲▼ 明治43(1910)年8月3日(水)

天気 晴

五時起床 「英語ノ日本」ヲ讀ム

昨日ノ革車ニ就イテハ朝カラ「モリソン」ト喜多トガ交ル々々話ヲ懸ケテ居タ 然シ五時)ニ出来様筈ハナカッタ デ今夜之レヲ徹夜サスコトニシタ

余ハ先生ト自宅ヘ出ス繪端書ヲ一寸書イタ 先生ヘハ近キ未來ノ想像畫トシテ奈良原式飛行機ノ飛揚セル様ヲ俳畫的ニ晝イタ 自宅ヘハ「シヤツ」ヲ持ツテ来テ貰フノ道筋ヲ晝イテヤツタ

十一時就眠

▲▼225ページ▲▼ 明治43(1910)年8月4日(木)

天気 曇リ

三時半一寸工場ヲ見廻テ見ルト荒井奴机ニモタレテ居眠リヲシテ居タ 後チ五時起床 今日ハ余暇アルニ多クヲ理學界ヲ讀ンダ 又夜ナドハ品性論ノミヲ讀ム

今日向ヒ側ハスベテ清潔法ヲ行ツテ居タ 中途時々雨が降ツタノニハ大分困マテ居タ ソシテ三時頃カラ非常ナ降りデ雷鳴モアツタ御蔭デ後ハ冷(ママ)シクナツタ。丁度其際(マ

マ中ニ彼ノ八ケ間敷革車ガ出來上ガツテ雨ノ降ル中ヲ運ンデ行ツタ  
今夜低圧ノシリンドアーヲ換ルノ二十時カ、ツタ。而シテ余ハ主人カラ「シリンドアー」別ノ  
機械ヤ、「スチーム」ガ「シリンドアー」ニ這入ルノハ「ストローク」ノ十分ノ七デ十分ノ二ハ蒸  
氣ノ張力ニヨリアト一分ヲ残シテ排泄セラレルコトヤ其レヲ調整スル「エキスパンションバル  
ブ」ノコトナドノ話ヲ聞イタ

十時ニナツタ時非常ニ眠クテタマラナカッタノデ寢タ

発信 先生 暑中御伺ヒ方々兼テノ件ニ付問合せ 自宅

▲▼226ページ▲▼ 明治43(1910)年8月5日(金)

天気 晴

今日ハ掃除デアツタル 然シ朝ハ通常ニ起キタ 余ハ事務所ノ押入レヲ一寸方付(ママ)  
後チ三十九年以後ノゴジヤ、ニナツタ請求書、領収書等ノ諸書類ヲ整理シタ 午後  
ハタップノ「引出」シヲ掃除シタ

夜品性論ヲ讀ミ又科學世界ヲモ觀ル 八時半終業後松島ノ觀(ママ)工場へ行き岡本龍  
君ニ出スベキ返信用ノ繪葉書作ル台紙ヲ買ニ行ツタ。同場ノ二階カラ往來ト遊郭トヲ  
見下ルトソレコソ甘キ集フ蟻ノ様デ唯ウジヤ、ト動イテ居ル。帰宅後意匠畫的ニ朝  
顔ヲ繪書キノレニ、朝顔も晝顔待ぬ暑さかな、ト遣ツテ同時ニ同様ノモノヲ藤井様へモ  
出シタ

受信 岡本竜太郎君

▲▼227ページ▲▼ 明治43(1910)年8月6日(土)

午前五時起床 昨夜ツヒデニ購ツタNoteヲRecordト命名シテ印刷ノ様ニ寄(ママ)麗  
ニ書イテヤツタ

御晝過ギ大谷君ガ來テ翻訳モノガ出來テ來タト知ラセテ呉レタ

漸(ママ)時スルト田中カラ「飛行機通解」ヲ持ツテ來タ。タゞチニ讀ンデ見タ。夜モ又ソ  
シテ機ノ構成材料ガ出才其他大分有益ナコトガ出テ居タ。前キノ「飛行機ノ現在及ビ  
將來」ヨリモ廉價デ内容ハ充分満足スベキモノデアツタ。夜八時半終業後タゞチニ竹屋  
町ニ走ツタ。久シ振リデ先生ニ面會シテ翻訳物ヲ貰ツテ買(ママ)ヘツタ。帰途大谷君ニ謝  
意ヲ表スル爲メ佐渡島へ寄ツタガ、合嫌(ママ)ク不在デアツタ 手代室ニ這入ルト井上  
河野藤田ノ三氏ダケデ、洋酒ノ空壇、コック、西洋料理ノ出前箱ナド、コロガツテ居タ  
而シテ藤田君ハ眞赤ナ否ヤ、黒イ位ノ皮膚ヲシテ、別(ママ)ノ分ラヌ歌ヲ歌テ居タ。余  
モ一時ハ之レ等ノ誘惑ニ落入ラントシタコトガアツタト思フトゾツトシタ 談話ハ極テ簡  
単ニ終ツタ。ソシテ大谷君ニ傳言ヲ頼ンデ十時十分前帰所シタ 直チニ就眠

帰途電車内デ翻訳物ヲ讀ンデ見ルト五円ノ價ハドーシテモナイ 然シ發動機ノ材料ニ

ツキシシ書イテアッタ

発信 岡本竜太郎君 藤井甚松様

◆228ページ◆ 明治43(1910)年8月7日(日)

天気 雨

五時起床 昨日一昨日ノ日記ヲ一度ニ書ク

午後ヨリ空曇リテ三時頃雨 左程ニ強カラネド雷鳴スゴカリキ 此時分ヨリ余ハ「和歌ト俳句」ヲ讀ミ居タリシガ不計目ヲ轉ジ何處ヲ見詰ルデモナク「ボンヤリ」トシタ、ト頭ニ色々ナコトヲ思ヒ出シテ來タ 即チ今ノ主人ノ性格カラ次第々々ト前ノ主人其前ノ主人ソシテ余ハ其間ニ何レダケノ憾(ママ)化ヲ受ケタカト云フ様ナコトヤ太陽ノ光ヲ利用シテ動力ヲ得ルコト 之レハ外国デモ二三研究シテ其結果モ發表セラレタガ余ノ考ハ又違フ 今一般ニヤツテ居ルノハ太陽ノ熱ヲ利用スルノデアル ソコデ余ハ光ヲ利用仕様ト云フノデ先ヅ光ハ何ンデアルカト云ヘバ「エネルギー」ノ変型デアル。然ラバ「エネルギー」ノ変型タル光ヲ元ノ「エネルギー」ニ直サレヌコトハナカロトノ考デアルノダ。サテハタシテドーダカ 丸デ夢ノ様ナ話デアル 然シ余ハ此レガ必ズ成功スルコトダケハ信ジテ居ルデ、之レノ研究ヲヤルニハ最(ママ)非電氣學ノ奧儀ヲ極メナケレバナライノデアル。コンナコトヲ考ヘタ後チ手ハ無意識ニ動イテ昨夜ノ翻訳物ヲ出シタ。デ参考ニナリソノナ處ヲ讀ミ初メルト『右六個ノ汽笛ハ唧子百五十ミリメートル 車輪止百三十ミリメートルルアル直径ヲ有ス』ト書イテアル 車輪止ト云フノガ一向要領ヲ得ナイ デ原書ヲ見ルト『The 6 cylinders have a diameter of 150 mm The piston

130 mm hub』トアル 成ル程仕舞ノ「ハツブ」ハ分カラナイ 辭書ニハ「車ノ殻」トシテアル 然シ意味ガ通ジナイ 余ハ直訳シテ次ノ如クシタ『六個ノシリンドラーノ直径ハ百五十ミリ ピストンノ径ガ百三十三辺』而シテhubハ多分内径トカ外径トカノ意味デアロト思ツタ。然シソレニスト「ピストン」ノ外径ナラ分カルガ「ピストン」ノ内径ト云フコトガ最一ツ我點(ママ)ガ行カナイ 兎ニ角「車輪止メノ百三十ミリメートル」ト云フノハ元書カラ見テモ間違ヒナイラシイ様ニ余ハ考ヘル デ一寸訂正シテ居イタ 夜ハ品性論ヲ讀ミ九時過ギ寢タ

◆229ページ◆ 明治43(1910)年8月8日(月)

天気 曇

五時起床 今朝品性論ヲ讀ミ儘(ママ)ス 余ハ「スマイルズ」氏ニ憾(ママ)謝ス 余ガ数年來志シテ一ツモナス能ワザリシ處ノモノ。ソハ今年ニ入ツテ着々決行スルニ至ツタ。其ノ決断力ヲ附與セシモノハ何ニ曰ク自助論ナリ。余ノ注意深ク(以前ヨリハ)ナリ、正直トナリ(四十一年頃ニ比シ)シハ皆自助論ニ負フモノナレバナリ 而シテ品性論ヲ今日讀ミ

終ルヤ前キノ事々ハ益々強固トナリタリ

晝間ノ閑暇ハ「和歌ト俳句」トヲ讀ミ夜又之レヲ續行ス 十時半就眠ス

▲▼230ページ▲▼ 明治43(1910)年8月9日(火)

天気 曇リ

五時起床 「和歌ト俳句」ヲ讀ミ終ル 之レデ和歌ト云フコトニツイテ少シ分カルコトニ  
ナツタ 成程何ンデモヤツテ見レバ興味ノナイモノトテハ一ツモナイモノデアル

夜業終ツテ主人ノ製圖セラル、ヲ見ル 圖ハ角一注文ノ「ミキザール」ノ連動機デ今  
現ニ使用シツ、アル舶來品ノ模製デアル。後チ其説明ヲ聞ク  
十時半就眠

▲▼231ページ▲▼ 明治43(1910)年8月10日(水)

天気 曇

五時二十分起床 電気學ヲ學ブ。後升始業後 The cycle & motor trades  
Review ヲ見テ居ルト不圖 Heavy Gil Corburettor ト云フノガ目ニ就イ  
タ デ此間翻訳シテ貰ツタ中ニ炭化物交互トアツタ事ノ意味ガ分カラナイノデ辭書ト  
圖ト首引デ半ハ判ジ讀ミニ翻訳シテ見ルト、ツマリ瓦斯發生機ノコトデアツタ。丁度  
晝)カ、ツタ 勿論其間ニハ電話デ聞ケバ工場モ見廻リ主人ガ雛型ヲサワレバ其助手モ  
シタ。ソレデ出來上ガツタノヲ見ルト此間ノニ比換(ママ)スレバー一円ノ値ハアロー。マーマ  
ー之レカラハ此調子デヤルコトダ

夜八時半終業後直チニ帰宅 中元ヲ詫(ママ)レテ居ワシナカト、タゞシテ見ルト中々モ  
ーチヤント出來テ明日ハ兄ガ行クト云ツテ居タ 丁度其處ニ芋ガ三四本アツタノデ御  
馳走ニナルト好味イ、、皆喰ツテ仕舞ツタ 皆ハ驚イテ居タ  
九時半帰途ニ付キ十時五分前帰所シタ 直チニ就眠

▲▼232ページ▲▼ 明治43(1910)年8月11日(木)

天気 快晴

久シ振リデ軽快ナ明ケ方ノ氣ガ充チタ 間モナク太陽ハ赤々ト照ツタ  
飛行機 Recordヲ作ル

今朝八時ヨリ又今一種ノ瓦斯發生機ノ翻訳ヲ初メタ 今日ノハ昨日ノ一寸倍程アツタ  
ガ四時頃出來上ガツタ

夜工學講義録ヲ整理シテ居ル處へ兄ハ中元ヲ持ツテ來タ

今日晝之レハ二三日前カラ氣ニ止メテ居イタノダガ、旋盤デ鉄棒ナドヲ割ル時ニ螺旋

状ニグル、捻レナガラ切レテ行クノヲ見ルト、丁度余ガ昨年來外国ノカタログデヨク見ル紐ノ先キニ車ヲ付ケテ回轉サスヤツヲ作ルコトガ出來ル。其レハ今一方デキリ、廻ワスト針ハ(注・図あり)圖ノ如クナツテ居ルカラ、幾ラ曲ゲテモヤハリ同ジ方向ニ廻轉スルカラデアル。ソコデ余ハ一ツ之レノ模型ヲ造ツテヤロート思ツテ色々試シテ見ルト中々面白い結果ガアッタ

▲▼233ページ▲▼ 明治43(1910)年8月12日(金)

天気 雨

朝飛行機ノ研究ヲヤロートシテモ一向氣ガ乗ラナイ タゞホカリトシテ居ルト頭ノ中デムヅ、ト何ニヤラガ動キ出シテ遂ニ余ガ一番最初ニ考ヘタ爆發式飛行機ノコトニ及ビ今ノ瓦斯機関カラ考ヘ進ムト仮リニ百馬力ノ發動機ナラバ一回四行程トシテオノモノガ一分間千回轉スルトシテ五百回ノ爆發トナル スレバ100、500 一回ノ爆發ニ六僅ニ〇・二馬力ニ過ギナイ。トテモ之レデハダメデアル。然シ之レハ一分間二百馬力ト云フ時ノ計算ダガ實際ハタエズ百馬力アルモノデアロートモ思ワレル。サー困マッタ 今又仮リニタエズソレダケノ力アルモノトシタナラバ一回四行程ナラ一回ノ爆發ニ二百馬力ノ勘定トナル。然ラバ大ニ安心ナモノ 仮リニ半分ヲ抵抗其他ニ引カレルトシテ百馬力ナラバ一回爆發毎ニ千對ノモノヲ三千呎上ゲル勘定ダ。然シコンナ馬鹿ナコトハアル訳ガナイシテ見ルト先キノ方ガ本當ラシイ デ又仮リコ今三千瓦ヲ一分間五百爆發デアルカラ五百デ割ルト千瓦ノモノヲ六呎上ゲルコトニナル コレナラ本當ニ違イナイ 兎ニ角見込ミハアルノデアアル ソコデ之レノ研究ヲヤツテ一ツ世人ヲ驚シテヤリタイモノト思ツタ 否最(ママ)非トモヤリタイ

▲▼234ページ▲▼ 明治43(1910)年8月13日(土)

天気 曇

今日モ終日昨日ノ様ナコトノミニ空想ニフケリ得ル處ナシ  
夜主人ノ製圖セラル、ヲ見後説明ヲ聞ク

午後四時徳島製材ノ煙筒ガ明日出荷出來ル様取ハカロウベク矢内ヘ行ク。宅ニ誰レモ居ナカッタノデ工場ニ行クト主人自カラ槌ヲ振ツテ居タ ソーシテ煙筒ハ明日晝)ニ出來ルコトニナツテ居タ。帰宅後中島ト阿波九トへ運賃郵便等ヲ聞キ合セニ行ツタ。阿波九ニ船頭ガ居タガ頼リナイ事ヲ云ツテ居タ 兎ニ角ドラモ明朝取極メルコトニシテ帰所スルト店ノ岡本君カラ電話ガ懸テ居タノデ聞イテ見ルト禁酒會ノ月次會ヲ十五日午後七時箕面ノシガラミ亭デスルカラトノ通知デアッタ

▲▼235ページ▲▼ 明治43(1910)年8月14日(日)

天気 晴

曇り續キモ漸ク晴レタ 東海道以東即チ名古屋ヨリ東京市ヲ含ンデ一帯ノ大洪水デ甚シキニ於テハ浸水一丈余尺ニ及ビタリトテ日日新紙ニ見ル處ノモノ續々トシテ十一日以來引モ切ラズ尚減水ノ見込ナキ由。ソレニ引返ヘ関西地方ノ平穩ナル 今日モ毎日新聞ハ例ノ濱寺デーヲヤツテ居ル。コレハ余リ「ノンキ」過ギテ東北ノ人ノ爲メ今少シ遠慮シテモヨカロト余ハ思ツタ

夜中ノ島製紙会社ノ人ガ來テ主人ハ氣關ノコトヲドードト説明シテ居タ 余モ聞イタ。或點ニ於テハ學者以上成程ト思ワセル

今日煙突ハ無事出荷 早川丸ニ積ンダトノコト

▲▼236ページ▲▼ 明治43(1910)年8月15日(月)

天気 晴

例刻起床 六時朝食 六時半兼ネテノ望ミヲ以テ岡鉄工所ニ行ク 川口イ新道ツキ當リ渡舟ニ乗ツタ時ニ六日ハカウ、ト照リ付ケテ居タ 川ノ水ハユタカニシツ、流レテ居タ 之レヲ渡ツテ少シ行クト左側ニ嚴メシイ黒ノ門ガアル。コレガ岡鉄工所ダ 今シモ一人ノ小使カ女工カト思ヘル女ガ、ク、リカラ出テ行ツタ。余ハ同ジ處カラ這入ツテ案内ヲ乞フト當直ノ小使ガ出デ來タ。今日ハ此處モ休ミデアル ソレガタメ一向充分ナ調査ハ出來ナカッタガ「カタログ」ト現品トヲ見セ七時半歸所シタ。漸(ママ)時中元ノ配リモノガ残コツテ居タノヲ手傳ツテ出シタ。九時電車ヲ借ツテ佐渡島ノ店へ行ツタ 小旦那ハ丁度不在デ之レモ思惑ハツレテ帰宅。タゞチニ新聞切取リヲ初メタ。ヤガテ好物ノ芋ガ沢山佛前ニアツタノデソレヲ喰ヒナガラ晝時分)ヤリ續ケタガ此時御腹ガ妙ニナツテ來タノデ試ミニ便所ニ行クト下ルハ、大變ダ シカシ少シモ腹ハ痛マナイノデ又ヤリ始メルト又便所へ行ク(ママ)タクナル。デ行クトシヤ、下ル モー三四回モヤツタノデタマラナクナリコロト寝タガ中々ト、夜ノ七時頃)二十四五回下タ。目ハ落込ンデ身体ハグタ、ニ弱ワツテ仕舞ツタ デ兄ニ九條ヘ電話ヲ懸ケテ貰ヒ今日ハ宿ルコトニシタ。御飯ハ一寸モ行ケナイ 夜ハ又熱ガ出デ余ハ内々時候柄トテ心配シテ居タ父モ氣ニナルカ水デ頭ヲ冷ヤシテ呉レタリシタ ヨク眠ツタノハ一時頃デアツタダロー

▲▼237ページ▲▼ 明治43(1910)年8月16日(火)

天気 晴

今朝ハモ一非常ニ心持チガヨカッタ 然シ昨日中何ンモ喰ワナカッタノト下ツタノトテ身体ハ綿ノ如クニ、ツカレテ充分思フ通りニ働ケナカッタ。ソレデモ午後ハ大分マシニナツタノデ小説ナドヲ讀ミ四時過ギカラ公園へブラ、出懸ケテ行ツタ 一廻リグルリツト廻ワツテ自轉車ノ競争ナドヲ見帰宅シタ。大分シンドカッタ。丁度幸ヒ「サイダー」ガ

冷エテ居タノデ「コップ」ニ一パイグットノミホシテ湯ニ入ル 夕食後姉ヲイジツテおくれサント三人千日前へブラゝ、行キ話席へ這入ル思惑デアッタガ休ンデ居タノデ、二〇加ヲ見タ。中ニ六馬鹿シイ様ナコトモアッタガ、オドケテ笑ワセルノハヤハリニ〇加ダ 十一時二十分帰宅 直チニ就眠

▲▼238ページ▲▼ 明治43(1910)年8月17日(水)

天気 雨

夕辺ノツカレデ七時頃ヤット床ヲ出デ洗面後朝食 お芋ノ御かゆハナカ、ニウマイ後チ花鳥集ヲ讀ム 十二時前ヨリ空模様次第ニ悪シク遠雷物スゴクトゞロキ渡リダシ、距離ハ近ヅキテ遂ヒニ強雨降りシキリテ、後チニ六本降りトナツタ 余ハ夕食後手土産ニ菓子ヲ持ツテ帰所ノ途ニツイタ。  
今夜ハ八時半早クモ就眠シタ

▲▼239ページ▲▼ 明治43(1910)年8月18日(木)

天気 晴

朝イヨゝ、飛行機ノ設計ニ着手ス 今朝ハ先ヅ翼面ノ大キサト機体ノ平面圖トヲ粗マシ書イタ。後チ余ガ不在中ノ帳簿ヲ書上ゲ

日中ハ少シモ自身ノコトハナサズ

夜幾日ノ日記ヲ書ク

夕散髪 八時半就眠

▲▼240ページ▲▼ 明治43(1910)年8月19日(金)

天気 快晴

五時過ぎ起床 今朝ハ機体ノ正面圖ヲ畫キ種々梁ノ結ヒ付ケ方ヲ研究ス 本日角一ノフリックシヨクラツチノ雛型出來廻シ型ニツイテ大分得ル處アリ

今朝藤井ノ坊サンカラ雷ノ繪葉書ガ來タノデ御返事ニ淡彩デ風鈴ニすだれヲ畫キ、下ニ風流ナ虫籠ヲ置キ窓ヨリ窺ク片破レ月ヲ其盡(ママ)寫シテ之レニ「いそゝと佛送つてゆつくりと」ト書きそへた。つひでに中島丑松君へも墨書デ肅妙タル竹ニ石ヲアシライ清キ流レヲそゑて之レニモ「月町や清き流れのさらゝと」トシテ明朝投函スルコトニシテ九時半就眠

受信 藤井甚松様

▲▼241ページ▲▼ 明治43(1910)年8月20日(土)

天気 快晴

五時過ぎ起床 機体ノ構成ヲ研究ス  
阪田デハ御晝カラ角一ノブリ車ヲ吹キ出シタガ、ドーシタコトカ四ツノ湯口カラ流シ込  
ンダノニ一ツダケガドーシテモ流レ込マナイ 固クナツテ仕舞タノダ デトードー折格  
(ママ)ノモノヲペケニシテ仕舞ツタ 氣ノ毒ナ(ママ)ガ仕方ノナイ話デアル 夕方坊サント  
二人見ニ行クツヒデニ阪田ノ瓦斯機関ヲ見ル 坊サンハドーヤラ瓦斯機関ノ研究ヲシテ  
居ルラシイ 夜八時半ノ夜業 終業後湯屋ノ風呂ニ入ル 帰所 今日ノ新聞ヲ讀ミ十時  
過ぎ就眠ス

発信 藤井甚松様 中島丑松様

▲▼242ページ▲▼ 明治43(1910)年8月21日(日)

天気 晴

朝例ノ通り飛行機ノ研究ヲナス 今朝ハ翼面ノ角度其他一二ノ解決ヲ付ク  
日中ハ別ニ記事ナシ今日煙突立替ヘヲナス ソレガ爲メ十一時ヨリ四時半ノ夜エンジン  
ノ運轉ヲ中止ス 是レヨリ先午前十時朝田ヘ「クロスヘッド」不良ノコトニ付キ行ク 帰途  
福西氏ニ立會フ 但シ向ハ人力車ダカラ只會見シタノミ

夜夕食後ブラ、築港ニ電車ヲカル 思ヒ出セバ海ヲ見ルノハ之レデ幾月目ニナルダロー  
カ。一寸分カラナイ。棧橋上ニハ「ベンチ」ガ沢山アツタ 頭ノ上ニハ「イルミネーション」ガ  
輝イテ居ル ヘツポコ大(ママ)公望ハ例ニ依ツテ「ノンキ」ソーニヤツテ居ル 次第二海ハ闇ク  
ナツテ來タ 岩端ニ出ルト「ビヤホール」ガ軒ヲナラベテ居ル ヤガテ一轉中程ノ 帰ヘツタ  
頃大キナ赤イ月ハ海上ニポツコリトカッテ居タ。帰途余リ時間ガ早カッタノデ活動寫  
眞 是レモ幾月振リデ見タ  
十時帰所 直チニ就眠

▲▼243ページ▲▼ 明治43(1910)年8月22日(月)

天気 晴

今朝ハ誠ニバツトシタハナヤカナ朝デアッタ 余ハ久シ振リデ椅子ヲ表ニ出シテ朝風ニ吹  
カレナガラ研究ヲヤツタ 今日ハ機体ノ重量ヲ計ツテ見タ ドーシテモ機体ダケニ二百三  
十瓦以下デハ出來ナイ。デ十八呎ノ翼面デハ浮力ガ少シ「オボツカナイ」ト思ツタノデ  
二十尺ニ變更シタ  
夜八時半ノ夜業 後子間モ無ク就眠 但シ空想ニ沈(ママ)ケル

▲▼244ページ▲▼ 明治43(1910)年8月23日(火)



天気晴

今朝スクラップブックヲ讀ンダノミ 十五日以來ノ空想ハ尚ホ盡キズ止ンメト欲シテ止マラズ。ア、余ハ遂ヒニ彼女ノ捕トナッタ。彼女ヤ見ルカラ快活ラシイ

外交的手腕アル女ラシイ 殊ニ花ノ如キ其レ、余ノ腦裏ヨリ取り去ラントシテ能ワザルモノ。彼女ハ日々表ヲ通ル。余ガ顔ヲ見ツムレバ、彼女ハ必ズ、ニラミカエス。ソーソニ三日前夜ノ事ナリシ 余ガ繪葉書ノ臺紙ヲ購フベク末廣坐ノ前ノ行キシ時、妹ナランカ一小女ヲ連レタル彼女ト出會ツタ 彼女ハ余ノ顔ヲ眺メル如クデアッタ 余ハ見タラト思ヒツ、モ横向クノ何カ、オカセル罪ヲ問ワル、ガ如キ心地シテ空ヲ見ナガラ、スレ違ガッタ。ア、何故ニ余ハ斯ク臆病ナルカ 斯ク思フト尚ホ更快淡ラシキ彼女ヲ、コヒシナイワケニ行カナイ。ア、夜又ナスナク忙(ママ)然床ニツク

▲▼245ページ▲▼ 明治43(1910)年8月24日(水)

天気晴

空想々々又空想 今日モナス處ナカッタ 然シ夜業後久シ振リデ製圖ヲヤッタ 十一時終ツテ就眠ス

▲▼246ページ▲▼ 明治43(1910)年8月25日(木)

天気晴

五時起床 今朝ヨリ再ビ研究ヲ開始ス 而シテ今日ハ正面各部ノ製圖ヲナス 夜八時半終業後直チニ帰宅シタ 別ニ用事ハナカッタノダガ小遣ニセマッタノト一口芋ガ喰タクテタマラナクナッタノデアッタ。ソーシテ宅ニアッタ芋二本ト別ニ三錢デア買ヒニヤッタノトヲ皆平ゲテ後チ砂糖湯ヲ「ドウリンク」シタ時ノ心地宜サ、イヤウマカッタコト ア、余ハマダ小共デアル

▲▼247ページ▲▼ 明治43(1910)年8月26日(金)

天気晴

今夜モ八時半終業後佐渡島製銅場へ請求書ヲ持ッテ行ツタ 其ツヒデニ田中へ寄り機械設計及製圖ノ前編ヲ買ツテ、外ニ瓦斯及ビ石油機関ト職分論トヲ注文シテ帰ツタ。帰途彼女ノ表ヲ通ツタ 彼女ハ椅子デ今一人母ラシキト涼ヲ取ツテ居タ 彼女ハ余ヲ眺メタ 余ハ得不見ニ帰ヘッタ

▲▼248ページ▲▼ 明治43(1910)年8月27日(土)

天気晴

昨夜ノ本ヲ朝カラ讀ム 夜ハ久シ振リデ製圖ヲヤッタ。ソーシテ彼女ノコトニ對シテモ大分落付ガツヒテ來テ左程ナヤマシク無クナッタ。然シ今日彼女ガ表ヲ通ツタ時ドーモ先日ノ様ナ活氣ガ見エナカッタ

▲▼249ページ▲▼ 明治43(1910)年8月28日(日)

五時起床 飛行機研究中不圖思ヒ出シテ萬朝社へ、アントワネット、ファルマン、ブレリオー、ライト、カーチス。ボアザン、ノ飛行學校及ビ同機製造所ノ問ヒ合セヲノ手紙ヲ出シタ

昨日ブリ車ハ出來上ガツテ今夜運ンデ來タ 處ガ目方ガ、丁度主人ノ豫算ヨリ一寸少ナイ位ニ出來テ居タ 茲ニ於テカ主人タルモノ例ノ高慢ノ鼻ウゴメカシテ曰ク、「ワシラ一計算シタラ一寸豫算ヨリマダ少ナイ位ニ出來ル。ナンシロ經驗デナ。アマリキツチリ、此ブリ車デモ同圖ニ三、一四一六ヲ乗ケテ出シタリスルト千ベノ思計ガ千二百ベニモナル 何故ナラ、鑄物師ガ「アーム」ナラ「アーム」ヲ込メテモ決シテ土ト型ト面一ニスルコトハナイ 必ズ五ノカソコヲ打チ込ンデ「コテ」デコスリヨル 又コーシナイトマトモナ鑄物ガ吹ケナイ だカラ大キナモノニナルト、コンナコトダケデモ早ヤ十ベヤ二十ベ違フテ呉ル だカラ、ワシラノヤルノハ三、一四ノモノナラ三、一五モ三、一六ニモ見ル 又、七八五ナラ七九モ八ニモ見ルカラ丁度實際ト同ジモノガ出來ル」 実ニ眞理ダ

発信 萬朝報社

▲▼250ページ▲▼ 明治43(1910)年8月29日(月)

天気晴

今朝ハ昨日來タ、瓦斯及ビ石油機関ヲ讀ム

今日號外ガ二三度來タ 千五百余年來ノ韓国問題モイヨ、解決ガツイテ 今日ハ併合ノ詔書發表ノ当日デ其號外デアッタノダ 奇才ノ士ハ彼地ニ押渡リ運ヨクバ十年二十年否五十年モ後チニハ今ノ藤田、岩崎ノ様ナノガ出來ルコトデアロー。余モ他ニ望ミ、無キ身デアアルナラ一ツ最モ人ノ目ニラレザル有望ナル事業ヲ見出シテ大ニ活動モシテ見ルベキ秋デアアル

晝食後朝田へ又タクロスヘッドノ。ペケヲ持ツテ行ツタ 今度ハモーイヨ、新タニヤリ替ヘテ貰フ事ニシタ

▲▼251ページ▲▼ 明治43(1910)年8月30日(火)

天気晴

記事ナシ

▲▼252ページ▲▼ 明治43(1910)年8月31日(水)

天気 晴

支拂其他ノ準備ハ昨日ニシテ居イタノデ今日ハ非常ニ楽デア  
午後、ラップ、リード、カットオフ等ノ関係ヲ考ヘテ居ルト主人ガ出テ來テ教ヘテ呉レラ  
レタ 然シソレハ「リード」ガ之レダケノ場合ニハ「シーブ」ハ此位置ニスルト云フ様ナ結果  
ノミデ、何ノ訳デ實際、斯クナルト云フコトガ訳カラナカッタ ソゴテ余ハ之レヲ一ツ考ヘ  
出シテヤロトヤリカケタ。然シ時スデニ終業時間ニナツテ居タノデ、其儘ニシ職工ノ拂  
ナドヲナシ夜ハロープ車ノ製圖ヲナス

▲▼253ページ▲▼ 九月中行事豫記

職分論 一円五十銭

瓦石 二円廿銭

製圖 一円二十銭

ズ 四円九十銭

雜 一円十銭

ズ 六円也

▲▼254ページ▲▼ 明治43(1910)年9月1日(木)

天気 快晴

五時起床 大分日ガミジカクナッタ 五時デ一寸薄闇イ 直チニ夕辺カラ晝キカケタ  
繪ヲ晝ク 繪ハ梨トブドーデアル 四五年前ニ之レヲ習フノニ殆ンド二日以上モカゝッタ  
ノニ今日ハ又八時頃ニチヤントシカモヤ、満足ニ出來上ガッタ 後チ、シーブノ位置割出  
シノ製圖ヲナシ十時帰途ニツク 途次、田中へ寄り書籍代ヲ支拂ヒ帰宅ス。處へ一サン  
ガ來テ齒車ノコトナド聞クノデ話ヲシタ 後チ丁度晝 特ニ砂糖ニシタ御芋ヲ喰ヒナガ  
ラ例ノ新聞切り取りヲ初メ三時頃終ル 芋ヲ喰フコト徑五吋程ノ腕(ママ)ニニパイウ  
マカッタ。後チ入浴 余獨リ先キニ鳥佐ノ鍋ニテ夕食ヲスマシ帰所 時六時半 浴衣ト  
着ヘテ活動寫眞ヲ見ニ行ク。マッタクツマラナイモノノミデアッタ 帰途彼ノ女ノ表ヲ通  
ル 傘シテ來客ニ氷ヲ進めて渡シテ盆ヲ持ッタマ、カタワラノ婦人ト話シテ居タ。余  
ニモ一少シ膽力ガアッタナラ氷ノ一杯モ飲ミニ這入ルノダガ余ニハ出來ナイ  
帰宅後職分論ヲ讀ミ十時就眠

▲▼255ページ▲▼ 明治43(1910)年9月2日(金)

天気晴

五時起床 瓦斯エンジンノ研究ヲナス。日中モ夜モ職分論ヲ讀ンダ  
後チ、何ニカ喰ヒタクナツテ例ノしるゝ屋(行き金時とぜんざいを喰ヒ帰途新ラシク出  
來タ書籍屋ニ寄り夜長ク起きる爲メ(近頃十時ニナルトモ一眠クテ居ラレナクナルカラ)  
其習慣ヲ付ケルベク面白ソーナモノヲト思テ新金色夜叉ト云フノヲ買ツテ帰り讀ミ出  
シタ ホンニ眠氣モワシレテ丁度十二時讀終ツテ床ニツイタ。然シ一寸眠レナカッタ

▲▼256ページ▲▼ 明治43(1910)年9月3日(土)

天気晴

目ハ醒メヌ 余リノ明ルサニツト手サシ延ベテ東窓ヲ排スレバ彩雲既ニ紅ナリ タゞチニ、  
ハネ起キ清水使ツテ瓦斯機関ノ書ヲ讀ム。後チ漸(ママ)時ニシテ、清メラレタル往来ニ出  
テ不圖南ヲ望ムニ、思フ彼女ノ姿ハ見エヌ ア、タスキカケタル、カヒ、シサ 身モ行モ活  
キタ々ト何時モ活動シテ居ル。余ハ再ビ本ニ向カッタガ讀ンダコトハ更ニ別(ママ)ラナイ  
今日ハ彼女ハ幾度モ々々表ヲ通ツタ 余ハ或ル時ハ職分論ヲ讀ンデ居タ 或ル時ハ手間  
帳ノ懸ヲ引イテ居タ 或ル時ハ阪田ヘ行ツタ 或ル時ハカン、ヲシテ居タ ソシテ今日ノ  
彼ノ女ハ余ハ少シク沈メル如クニ見エタ 或ヒハ、スキ髪ノ故デモアローカ?  
又翻(テ)見ルニ余ハ果シテ彼女ニ如何ナル憾(ママ)ヲ與エツ、アルカ ア、知リタイ  
夜一時間程職分論ヲ讀ミ腐レタル心ヲ清メントハシツレドモソハ無益ナリキ。垂(ママ)眠  
ハ余ヲオソヒ又サレバ机子ヲ表ニ出シモー三十分ノ終業時間(心ヲ落付ケントシヌ、時、  
彼女ハ例ノ妹ラシキト今一人婦人ト何處ヘカ行キヌ。又モ思ヒハ彼レノ上ニ走リヌ ア、  
今日ハ終日モダエテ十時床ニ入りヌ

▲▼257ページ▲▼ 明治43(1910)年9月4日(日)

天気晴

起キ出ヅレバ時スデニ五時四十分 ソレヨリタゞチニ瓦斯機関ヲ讀ム 今日ハ少シク別(マ  
マ)カッタ

今日モモダエタガ如何ニセシカ昨日ト変リ一度モ彼女ノ姿ハ見エザリキ  
夜ニ及ビテ、チラリ北ヘ行ク後姿ヲ見タ時不思議ナル言葉ハ耳ニ入りヌ 余ハホトンド信  
ズル能ワザリキ 其声ハ火夫ノロヨリ來リヌ 曰ク「氷屋(彼女ノコト)ハイカケデ何處カ  
行キヨッタ」ア、此一言如何ニ恨メシキコト。實(今) 夢ニモ思ワザリキ。シカモ其夫ハ  
日日表ヲ通ル人トカヤ

余ハ捨テザルベカラズ。然リ スベテ心ノ曇リハ晴ラサレヌ。ヨシサラバ余ハ余ノ最大ナル戀ニ向ワシ。余ノ彼女ニヨツテ、ナヤマサレタル處ニヨツテ失ヒタル時間ヲ取り戻サザルベカラズ。然リ々々 而シテ知ラズトモ夫アル婦人ニ戀セシ吾レハ又少ナカラヌ罪アルナリ 晩回セザルベカラズ 余ノ品性ヲ、職分ヲ 而シテ余ハ必ズヤ婦人タルノ念ヲ去ザルベカラズ 余失戀スルコト之レニテ二度 ア、最早ヤ余ハ男子タルノ價直(ママ)ナキナリ。サラバ余ハスベテノ女ヲシリゾケン サラバ、、後チ職分論ヲ讀ンデ其處ニ最モ價直(ママ)アル慰藉ノ言ヲ得ヌ 然シテ十時二十分床ニツク

◆▼258ページ◆▼ 明治43(1910)年9月5日(月)

天気 晴

五時起床 天尚ホ暗シ

洗面後瓦斯機関ヲ讀ム 事々皆腦ニ入ル 頗ル心地好シ。殊ニ今日ハ心ニ懸ル雲モナケレバ幾日來氣懸リナリシニ三ノ用事ヲモ方付ケタリ 坊サンハ京ノ加納へ殘金受取ニ行カレタガ、ダメデアッタ。シカモ、イツ呉レルトモ極リヲ付ケテ來ナイナドハ、如何ニ工場ナドデ、小セツイテ居テモ坊サン氣ハ、奴オマダ、レナイト見エル

夜八時半夜業終結ヲ告グルヤ、一寸製圖ヲナシ、後チ夕食不足ヲ補フベク更科へ行キ 井トソバヲ喰ツテ帰ル 再ビ机ニ向ヒ職分論ヲ讀ミ十時半就眠ス

◆▼259ページ◆▼ 明治43(1910)年9月6日(火)

天気 曇リ

昨夜暑サヲ凌グ爲メ蚊帳ノ外ニ寢ヲ取ル 夜蚊軍ニ攻メラル、コトシキリ。遂ヒニ安眠ヲ得ズシテ五時起床。瓦斯機関ヲ讀ム

日中例ノ如ク時々坂田ヲ訪ツテ研究ヲナス外 夜終業後少時製圖ヲナシ今朝ノ歎ヲ補フベク早眠ス

◆▼260ページ◆▼ 明治43(1910)年9月7日(水)

天気 雨

五時半起床 今朝ハ瓦斯機関汽笛ノ設計ヲ讀ム

夜八時半終業後直チニ雨ヲオカシテ帰宅ス 電車ヲ降ル頃雨ハ止ンデ居タ。是レヨリ先キ電車内ニテ兄ト逢ヒ共ニ帰ル。シャツ、サル又、腰巻キ、下駄等ヲ取揃へ直チニ帰途ニツク

今夜父ガ買ツテ來タ襖地ガ宜イトカ悪イトカデゴテ、云ヒ争ツテ居タ。サテモイヤナ  
コトデアアル 余ハ宅ヲ出ルコトトキ、ジョー談ニマギラシテ「帰ンデ來ルカラ、ケンカシナヤ」  
ト云ヒ捨テテ帰ヘッタ

十時帰所後今朝ノ瓦斯機関汽笛割出ノ復習ヲナス  
十一時就眠

▲▼261ページ▲▼ 明治43(1910)年9月8日(木)

天気 雨

五時半起床 例ノ通り研究ノ後チ一寸新聞ヲ見ルト又出テ居ル 水害ガ 而モ京阪  
神ヨリ以西ニ渡ツテ之レデハ日本国中水害ニ懸カラナイ處ハ無クナルデアロー

午後色々不圖思ヒ付イテ紅葉全集ヲ讀ンデ見テヤロート店ヘ電話ヲ懸ケ岡本正君ヨ  
リニ借方ヲ依頼スルト目下野田ニ貸シテアルトノコトデアッタ

夕方藤井製材齒車ノ雛型ヲ出シテ居テ夕食ガ遅クナッタ 手モ腕デ眞黒デアッタ。然  
シ用事ノ無イヨリハルカニ勝オオツテ居タ 実ニ此處ノ家程用事ノナイ宅ハ少ナイモ  
ノデ晝ナド時々本を讀ンデ見タリスルガ極リノ悪イコトオビタシイ

夜雨ノ中ヲワザ、二丁目橋) ぜんざいヲ喰ヒニ行ツタ 実ニ物好キデアアル  
帰宅後少時職分論ヲ讀ミ九時半頃床ニ就ク

▲▼262ページ▲▼ 明治43(1910)年9月9日(金)

天気 雨

今日モ終日陰鬱ナリデアッタ 朝表ヲ明ケタ時淋シイ雨ハシト、ト降ツテ冷ヤリトシ  
タシメツタ朝ノ大氣ハモ一秋デアッタ。後瓦斯機関ヲ讀ンダ。今日ハ別ニ急(ママ)ガシイ  
ト云フデモナイガ此頃主人ガ終日工場デ、ウロ、シテ居ラレルノデ、マンザラ本ヲ見テ  
居ル訳ケニモ行カナイノデ職分論ハ遂ニ手ニセナカッタ。夜少時瓦斯機関ヲ讀ンデ十時  
過ぎ就眠シタ

▲▼263ページ▲▼ 明治43(1910)年9月10日(土)

天気 曇

今日ハ母ガカリソメノ床ニ就キシ日デアリシナリ 思ヘバ晴曇 柿中相半バシテ鬱々タル  
天候一シオ昔ヲシノバシム

朝例ノ機関書ヲ繕キ夜ハ眠タキニ、九時過ぎ就眠セリ

本日職分論ヲ讀ム

◆▼264ページ◆▲ 明治43(1910)年9月11日(日)

天気 曇

朝キラ、ト日ノ光ヲ仰グコトガ出來タ 然シ間モ無ク又曇ツテ來タ。今朝ハ例ノ機關書ノ中ノ自動車ノ部ヲ讀ム

夜八時半終業後散髪ニ行キ帰途、菓子ヲ一ヶ求メテ帰ル 後チ、自動車發動機ノ設計ヲナシ十一時終リシリンダーノ直径ヲ割出シ後チ之レヲ記ス

昨日不圖表へ出會頭ニ彼ノ女ニ會ツタ 其時ハ別ニ何ントモナカッタガ今日又彼女ハ余ノ顔ヲ見テ表ヲ通ツタ。午後余ハ有光鉄工所へ行クベク電車停留所ノ道彼女ノ表ヲ通ツテ彼女ノ顔ヲチラト見タ

夜又夜業中不計往來ニ出テ居ルト知ラヌ間ニ通りカ、ツタ彼女ト摺レ、ノ處ニ居タ。其度毎ニ余ハ腹ノ底カラ一種例へ難キオノノキト云ワンカ 兎ニ角妙ナ感ジガグート込ミ上ガツタ。而シテドーモ彼女ガ夫人アル身トハ信ジラレナカッタ

◆▼265ページ◆▲ 明治43(1910)年9月12日(月)

天気 曇

朝晝共別ニ変リハナカッタ 例ノ同ジ活動寫眞ヲ繰リ反(ママ)スニ過ギナカッタ。然シ夜八時半終業後 瓦斯ガソリン機関ノ設計ニ着手シシリンダートピストンノ製圖ヲシタ 時モ十二時ガ鳴ツタ處デアッタ

◆▼266ページ◆▲ 明治43(1910)年9月13日(火)

天気 雨

例ニ依ツテ例ノ如シ 夜又成スコトナク早眠ス

冷気強シ

◆▼267ページ◆▲ 明治43(1910)年9月14日(水)

天気 雨

今日程ノ寒サデハナカッタガ如何ニモ秋冷ヲ憾(ママ)ジラレタ 殊ニ肅々タル雨ハ一シヲ感ジワイヤ増シタ 夜諸勘定ヲ終ツタ後帰宅シタ 帰ル少シ前又御金ヲヨク遣フトテ小言ガアツタ 然シ余ノ思計デハ店ニ居ル時分ヨリハ余程儉約シテ居ルノデアアル。ソシテ僅カ七円ノ手當ヲ貰フ内其幾分ヲ宅へ持ツテ帰ルナント云フコトハ当分出來得ベキコトデハナイ。余ハ今尚修業中デアアル研究中デアアル サレバ毎月々不足コソ感シルガ残ルナドハ決シテ出來ナイノデアアル。然シ翻ヘツテ考ヘテ見ルト姉ノ言葉モ又一理デア決シテソ

レヲ無理トハ思ワナイ。ソ今年入ッテ余ハ名古屋へ行ツタ 洋服ヲ作ツタ 之レダケデモ大分金ガ懸カ、ッテ居ルカラデアツタル 尚此後チモ幾分入ル訳デアルカラ余モ大分余ノ欲望ヲ抑圧スルノニツトメネバナラナイ

◆◆268ページ◆◆ 明治43(1910)年9月15日(木)

天気曇

長イ間苦メラレタ雨モ何ヤラ晴レテ今朝ハ雲ガユラリ、ト東ノ空三別(ママ)エテ行ツタ 午前中傘齒車ノ稽古ヲナシ晝食後電車ヲ借ツテ先ヅ店ニ行キ二時半頃)居タ 別ニ取止メタ話シモナカッタ 唯ダ余ノ著シク感ジタノハ店ニ居ル内ニ左程ニモ思ハナカッタガ今日見ルト今更ノ様ニ店員ノ贅沢ナ様ガ目ニ映ジタ。余ハ幸福デアッタ 而シテ店ヲ去ツタコトヲヒソカニ祝シタ

三時帰宅 直チニ新聞切取り開初(ママ)シ五時過ぎ終リ、少息ノ後チ公園へ一サント打連レテ散歩ス 例ノレース場ニ赤ヤ青ヤ紫ノシヤツヲ着タ連中ガ御苦労ニモ見物人ノ目ヲ樂マシテ居ル。萩ハ丁度今ガ見頃デアッタ 池畔ノ白萩ハ殊ニ好カッタ。ヤガテ西ノ空眞紅ニ燃エテ居ル時帰宅。

入浴 後チ西洋料理ノ來ルノヲ待ツテ夕食ヲスマシ九時宅ヲ辭シテ帰所 少時文章軌範ヲ讀ミ就眠

◆◆269ページ◆◆ 明治43(1910)年9月16日(金)

天気雨

今日ハ別ニ何ニコトモナカッタ 只職人ガ夜業ヲスルトカセヌトカグズ、云ツテ居タノデ遂ヒニセヌコトニシテ今夜ハ休マシタ  
夜主人ニ傘齒車ノ晝キ方ヲ教ワリタ

◆◆270ページ◆◆ 明治43(1910)年9月17日(土)

天気晴

門ヲ排シテ外ニ出ヅレバ秋風冷ヤカニ面ヲ打ツテ過グ 高ク空ヲ仰ゲバ鼠色ノ雲ハ次第ニ東方ニ去ツテ次ニ白イチギレ、ノ雲ガ通り過ギルトアトハ、ヌグータ様ナ日本晴レゲニ心地ヨキ朝デアッタ

午後主人ノ命デニ番道路)小イサナ古金ヲ買ヒニ行ツタ 後チ四時頃コンデンサーノバルブノ製圖ヲ命ゼラレタ 是レ実ニ余ガ生活ニ対スル最初ノ製圖デアル デー生懸命ニ間違イ無キ様、奇麗ニシカモ早ク引イテヤロト非常ニ骨ヲ折ツタガヤハリ六時頃)カ、ツタ。ソシテ一ヶ所間違ツタ。後チ、同用丸カバヲ引クコトヲ命ゼラレ之レハ間違ヒモナク



九時半出来上ガッタ。處デ今夜又初メテ當主ニ宅(ママ)カラレタ ソレハ火夫ガ今  
夜々業ヲ休ミシテ呉レト云フノデ、カワリニ友吉ニ鐘ヲ焚ク様命ジテ居イタ處七時半  
幾太郎ガ不計鐘ニ水ノナイコトヲ知ラセタ モシ今三十分間バカリ遅ソケレバ破烈(ママ)  
サス處デアッタ。處デ余ハ友吉ニ云ヒ付ケテアルシ製圖ヲヤツテ居タノデ安心カツ見廻  
リモシナカッタノヲ主人ハ友吉ノ様ナモノニ云ヒツケルノガヨクナイト云フノデアッタ 而  
シテマダ何ニカ云ヒカケテロヲ閉ジラレタ 多分遠慮シラレタノデアロー 何シロ主人ハ  
余ニ非常ニ遠慮セラレル風ガアル デ余モ今日ノ御言葉ニハ無理トモ思ハナイ シカシ余  
ガ悪イトモ思ワナカッタ ソハ余ハ余ノ義務ヲツクシテアルカラ。後チ幾太郎ニ發見シタ  
賞トシテ金二十銭余ノマネーバックカラ與ヘタ

▲▼271ページ▲▼ 明治43(1910)年9月18日(日)

天気 晴レ

今日ハ終日頭ノ工合ガ悪イノデ弱ワッタ

夜業後ロビルガ荒レテ居ルノデ薬ヲ買ヒニ長堀橋) 行ツタ 依ツテツヒデニ店へ寄ツタ  
別ニ用事モナカッタノデ間モナク帰宅シタ 後チ主人ガ「ジヨルダル」ノ組立圖ヲ引イテ  
居ラレルノヲ見十二時近ク床ニツイタ

今夕阪口カラ帰り不圖空ヲ見ルト一匹ノ蝙蝠ガ飛ンデ居タ 處ガ其羽根ガ丁度破レ  
タ様ニ見エルノデ、今日ハ幸ヒ陰曆八月ノ待宵デアルカラ、早速「かうもりの羽根やふ  
れけり秋之月」

▲▼272ページ▲▼ 明治43(1910)年9月19日(月)

天気 雨

今朝製銅場へ掛残ヲ持タセテヤル時紙ノ端(月)ニ団子ヲ供ヘテアル繪ヲ畫イテ居イタ  
處ガ仲間ガ又状袋ニ入ツタモノヲ持ツテ帰ヘツテ來タノデ開イテ見ルト「白雲掩月遊金  
眼秋在漢江々上秋」ト書イテアッタ。實ニ其通り 午後カラハ雲處ガシト、ト降り出  
シタ雨ハ夕方ニナツテイヨ、本降りトナツタ  
夜々業後少時職分論ヲ讀ミ九時過ギ床ニ就ク

▲▼273ページ▲▼ 明治43(1910)年9月20日(火)

天気 晴

噫々余ハ何故勉強ガ出来ナイカ 此頃ハ何ントモ無ク頭ナヤマシク今日モ洋服着ルノウ  
ルサキ様ナ氣持シテ終日和服ヲ着テケリ。サル程ニ今夜モ夜業後ハ製圖ナリトナサバヤ

ト思ヒタリシニ時間來タラバ何ニカハナシモノウクナリ勝リケレバ、サラバ、二三日ヲ養生方々面白キ小説ニアモ讀マバヤト思ヒ立チタゞチ二店ニ岡本君ヲ訪ヒ紅葉全集ヲ借りテ帰りヌ 時正二十時ナリケリ 此時角一ハ納ムベキブリ車ヲ運搬スベク多クノ人足ハエイヤ、ト作業シ居タリ。サレバ余モ漸(ママ)時ガ程見張シテアリシガ、ヤガテ彼レ等モ去リシ十一時近クヨリ彼ノ金色夜叉ヲ讀ミ初メヌ。彼ノカルタ會ノ帰途お宮ト貫一ガ親シミ、サテハ熱海ガ濱ノ悲劇等讀ミ去リ讀ミ來タレバ何時カト本ヲ閉ヅル事モワスレ頭ノ痛モモノカワ 遂ヒ二四時近クナリケルニ尚ホ讀ミ續ケタキ氣ハヤマザリシモカクテハ明日ノ事務ニ差支ヘモアラバトシイテ眠ニ就キヌ

▲▼274ページ▲▼ 明治43(1910)年9月21日(水)

天気 曇リ

夕辺否今朝眠リシモ時來タレバ目ハ醒メテ常ト起床時刻ハタガハザリキ 幸ヒ二頭ノナヤミハ醫エタリキ

今日ハ暇アル毎ニ彼ノ續キヲ讀ミヌ 夜ハ又夜業ノ終ルヲ待兼ネル氣持シテ終業後ハタゞチ二床ニ入り彼ノ本ヲ讀ミヌ サレド今日長ク續カザリキ

▲▼275ページ▲▼ 明治43(1910)年9月22日(木)

天気 雨

秋冷肌ニシミ渡ル程ニ感ジタ

夜トードー金色夜叉ヲ讀ミ盡シタト同時ニ寝タ 時九時頃デアッタローカ

▲▼276ページ▲▼ 明治43(1910)年9月23日(金)

天気 晴

今日ノ朝ノ氣持好サ 御蔭デ頭痛モ直ヲツタラシイ

夕方晝) 角一ノ技師ガ來テ色々ノ話ガアツタ

祿午後オソ、カラ高圧シリンダーノ水圧試験ヲ初メタ 處ガ上型ニナツテ居タ「フラインチ」ノキワカラ小便ノ様ニシユ、ト出ル ソコデ例ノ腐ラシノ手段ヲヤツテ居クコトニナツタ。ソレガ爲メタ食ヲ七時前ニ喫シタ。ソレヨリ早速帰宅シテ袷ヲ持ツテ帰ルコトニシタ。

▲▼277ページ▲▼ 明治43(1910)年9月24日(土)

天気 晴

今日ハ休ミデハナカッタ。朝例刻起床 近頃ニナイ好天気デアッタ

今日終日廿四馬力エンジンノ決算ニ従事シタ 夜茲幾日カ遊ビ盡シタノデ製圖デモヤロ  
ート道具ヲ出シタガ、サテ出來ナイ 何故ダローカ。イヤデハナイ ソシテ然カモ仕ナケ  
レバイケナイト思ツテ居テ手ニ着カナイ。今度ハ瓦斯機関ノ本ヲ見タ コレモ讀ンデ居ル  
ト別ニ外ノ事ヲ考ヘルデモナイノニ一口訳ガ別カラナイ。次ギ六職分論ヲ出シタ。ソレ  
モホ、同ジ様 遂ヒニ眠氣サヘモヨオシタノデ、床ニ入り金色夜叉ヲ再讀シタ。コレデ、  
ヨイヤク氣持ガ、ナオツテ十一時頃眠レタ

▲▼278ページ▲▼ 明治43(1910)年9月25日(日)

天気 晴

今日モ頭ガハッキリシナカッタ。デ夜ハ製銅場へ通ヲ持ツテ行ツタツヒデニ帰宅シタ。丁度  
西ノ姉ガ來テ居タガ大姉ハ芝居へ行ツテ留都(ママ)、兄ハ竹島様ノ用事デ和歌山ノ田中  
君ニ會ヒニ行ツテマダ帰ヘツテ居ナカッタ 父ハ例ニヨツテ不在 家ハ静カデアッタ 處デ大  
姉ノ芝居行ハ北町内ノ連合見物デ本町坐へ行ツタノダ。何故カト云フト手傳熊ノ息子  
ガ俳優トナツテ居ルノガ今度本町坐デ小供芝居ヲヤツテ居ルノデ、ソコデ人氣ノ爲メ  
町内六十何名トカ、ガ總行キトナツタノダソナ。余ハ此ノ話ヲ聞イテ、イタク、ムネ  
ニ感ジタ。何故ナラバ彼レハ年少ニシテ、スデニ本町内ノ人々カラ左程ニセラル、半バ成  
功シテ居ルノデアル 處ガ余ハ如何 飛行機研究ヲナストハ云ヒナガラ今ダ具体的考察  
モ出來テ居ラナイデハナイカ アハハツカシイ次第デアル 斯ク思ヒ巡ラセバ、モ一氣ニナ  
ツテタマラナイ 帰途電車ノ内モ帰所後モ思ヒツメニシテサラバ明日ヨリハ一奮發ヲコソ  
スベシ

▲▼279ページ▲▼ 明治43(1910)年9月26日(月)

天気 曇

五時四十分起床 新聞ヲ讀ム  
夜イヨ、機ノ研究ヲ今日ヨリハ必ズ成功スル一日タリトモ、カ、スマジト心ニチカヒツ、  
開始ス

▲▼280ページ▲▼ 明治43(1910)年9月27日(火)

天気 曇リ後雨

五時半起床 新聞ヲ讀ム

今日午後主人父子ハ平野ノ吉川製油会社へ行カレタ 余ハ製圖ヲ練習シタ。夕食後阪  
田へ例ニ依ツテ鑄物ノ研究ニ出懸ケタ 而シテ事務所デ漸(ママ)時夫人ヤ息子等ト談

話シタ 其間ニ阪田ノ現番頭ノ不平ヤ職人ノ勘定ノ事ヤサテハ息子ノ通ツテ居ル職工  
學校ノコトナドヲ聞イタ。又閑ノ主人ノウウサモ出タ。然シソレハ宜イ方デアッタ 然シ  
坊ンサンノ「コマカイヤ」ハ此處(阪田)デモ評判ト見エル ソレカラ、レモンノ様ナ妙ナモノ  
ヲ馳走ニナツテ後貴(ママ)宅シタ。ソレヨリ飛行機研究ヲ初メタガ九時過ギテヨリ頭ハ  
次第ニ明確ニナツテ來テトードー十一時) 研究ヲ續ケタ

▲▼281ページ▲▼ 明治43(1910)年9月28日(水)

天気晴

六時少シ前愴惶トシテ起床 考ヘル間モナク新聞ヲ讀ム

夜夕食後不計思ヒ出シテ佐渡島ニ岡本君ヲ訪イ紅葉全集ヲ返済シタ。漸(ママ)時  
話ヲシテ居タガ皆々節季デ急ソガシソーニシテ居タノデ、イクラ、コッチガ気楽ナ身デ  
モ遊ソ(ママ)居ル訳ニ行カナイノデ間モナク辭シ中島君ヲ訪フタ 話ハタチマチ來一日ノ  
休暇ニ及ビ遂ヒニ淡之輪ニ一垂ノ風流ヲ學バンコトヲ約シタ。其處(濱宅)ノ老主人ヨリ  
中島夫妻ニ遊ビニ來イトノ令ガアッタノデ余ニモ行ケト云ワレタガ一日ノ準備ノ爲メ帰  
宅セネバナラナイノデ、之レモ又辭シテ電車ニ乗ツタ  
帰宅後例ニヨツテ芋ヲ買ニ遣リ依(ママ)服ヲ整ヘ十時帰所 漸(ママ)時飛行機研究 十  
一時就眠

▲▼282ページ▲▼ 明治43(1910)年9月29日(木)

天気晴

朝ハ又新聞ヲ讀ムダケニ過ギタ

昨日柏原製油ノ木入齒車ヲ阪田ノ職人ガ型ヲ作ツテ居ルノヲ見ルトドーモ妙ナ工合  
デアッタノデ番頭ニ其由ヲ告ゲルト、アレデヨイト云フ。然ラバモシ違ツテ居タラ「ペケ」  
ニスルガヨイカ?ト念ヲオスト「ヨイ」ト答ヘタカラ其儘ニシテ居イタ處今朝出來上ガッタ  
品物ヲ持ツテ來ルトハタセルカナ、丁字型アームガ、齒ヲ入レル穴ノ眞中ニ來テ居ル デ  
イヨ、ハケニシテヤッタ 番頭奴頗ル無責任ナヤツデタ、ニコ、ハ笑ツテ居タ  
夜飛行機研究 今夜新タニ考ヘツイタハ安定ヲ保ツ第一トシテ重心ヲ翼面下ニツクルコ  
トデ、ソコデ乘坐ヲ翼面ヨリニ呎乃至三呎下ニツケルコトニシタ 十時半尚程々工夫シ  
ツ、眠ツタ

▲▼286ページ▲▼ 明治43(1910)年10月2日(日)

天気 曇

今朝大ナル大ナル不快ヲ憾ゼシメラレタ。ソハ主人ニヨツテナサレタ。然シコハ記シテ記憶(ママ)ニ止メルニシノビナイ 実ニ一代ノ恥辱デアル。サレドコハイツカヌグワルベキコトヲ余ハ念ズ 然シヨリ 信ジテ余ハ余ノデューティーヲツクサン  
夜例ノ研究 サレド大ナル得ルモノナシ

▲▼287ページ▲▼ 明治43(1910)年10月3日(月)

天気 雨

常ヨリ寝過ギテ午前六時少シ前起床。直チニ昨日ノコトヲ思ヒテボイラーヲ見ルニ二十瓦内外ニ上ツテ居ル 之レナラ大丈夫  
昨日井上君カラ受ケタ松茸狩ハ丁度十七日ハ休マナイコトニナツテ居ルノデ止ムヲ得ズ 断リヲ出スコトニ決シタ

夜尺度ヲ一昨日宅ヘワスレタノデ其レヲ取りニ帰ツタ。後兄ニ教ヘラレテ昨日ノ朝日ヲ見ルト男爵ノ新飛行機ト題シテ伊賀男爵ノ飛行機ガ出テ居タ 大体ハサントジユモン式トノコト 構造モ出テ居タガ充分トハ思エナカッタ 一時間程シテ帰途ニツキ、久シ振リニ千日前ヲ通ツテ心齋橋ニ出テ、ツヒデニ田中へ寄り太陽ト科學世界ヲ貫ツテ心齋橋ヨリ電車ニ乗ル 丁度上村ノ御家ト熊助ノ御寮人トニ乗合セテ二三言葉ヲ交ヘタ 小供ヲ二人ツレテ御イデ、アッタガ富田屋橋デチト御遊ビニ御越シヤスト言葉ヲ残シテ降りラレタ

九時帰所スルト荒木ハマダ、エンジンノ「パッキン」ヲベテ居タ 夕食モスンデ居ラナイ様子ナノデ手傳ツテ居タモノト今日佐々木ノ「ガバナ」デ木津川) ヤッタ 幾太郎トニ何カ買ヘト二十錢ヤツタ

▲▼288ページ▲▼ 明治43(1910)年10月4日(火)

天気 晴

朝ノ研究ハ非常ニ有望デアッタ 處ガ、夜ニ於テソハスベテ無効デアッタ。ソハ機ノ上圧力ヲ計ルコトデ参考書カラ引出シテ計算スルト何シテモ代数デ證明シテアルカラ実算ニ當ツテ風速ナドノ単位ガ明カラナイ 町ニシテヨイノカ或ハ呟ニシテヨイノカ 尚呟トシテモ一時間ノ速度カ一分間カハタ一秒間カソレモ明カラナイ。トードー明カラナイマ、眠クナツテ寝テ仕末ツタ

◆▼289ページ◆▼ 明治43(1910)年10月5日(水)

天気 晴

今日ハセメテ精進ナドシヨート曾ッテ例シナキコトヲ思フ様ニナッタ。之レ一ニスマイルス氏ノ品性論ノ憾(ママ)化ニ外ナラナイ。然シコレハ晝ダケデ夜帰宅スルト宅デハ別ニ精進ヲシテ居ラナイノ帰途ツヒニ破戒シテシマッタ

本日午後主人二人共不在ニナッタノデ、先日岡本君ノ借リテ來タ外字雑誌ノ翻譯ヲヤッタ

夜九時過ギ帰所後漸(ママ)時研究。後床ニ入ラントシテ不圖昨年ノ日記ヲ讀ムデ見ルト丁度明日夜ガ藤田君ガ脱腸デ入院セラレタ当日ナノデ早速思ヒツヒテ就床後左ノ詩ヲ作ッタ 明日ハ端書ニ書イテ送ロー

十月六日夜

去年今夜就病床 終身思辺医断腸  
當時刀傷猶在腹 伏見日日怨余傷

◆▼290ページ◆▼ 明治43(1910)年10月6日(木)

天気 晴

朝研究 但シ晝モ余暇アルコトニ考ヘルコト例ノ如シ サレド到底實驗ノ後ナラデハ何シテモ充分ナコトノ設計ガ出來ナイ デ、兎三角一應、サンドシユモン(ママ)型ノフーツ設計シテ見ルコトニ仕様ト規(ママ)メタ

午後又翻譯 夜夕食後漸(ママ)時太陽ヲ讀ミ、七時ヨリ昨日翻譯セシスライドバルブ式瓦斯機関ノ製圖ヲナス 十時之レヲ記シ床ニ入ル。漸(ママ)時太陽ヲ讀ミ後チ就眠 発信 井上清次君 茸狩不參ノ返書 藤田亥ノ助君

◆▼291ページ◆▼ 明治43(1910)年10月7日(金)

天気 晴

窓スデニ白キ頃目ヲ開イテ、ユックリト天井ヲ眺メタノハ此家へ來テ今日ガ始メテ 別ニ何ニモ憾(ママ)ジル程ノモノハナカッタ。タゞ目ニ入ッタノハ足ノ方ニ立ッテ居ル空ノ水屋ト其上ニ釣ッテアル簞子ヤ長持ノ棒 外ハ此間張り替へタマダ新シイ天井板ト同ジサントデアッタ

六時前起床 新聞ヲ見ル

本日午後昨夜製圖シタノニ墨入レト彩色ヲシタ



特筆スベキコトナシ 夜散髪ヲナシテ後觀工場ニテ製圖用紙ヲ求メタノミ 何事モナサズ唯ダ太陽ヲ讀ンデ就眠

▲▼295ページ▲▼ 明治43(1910)年10月11日(火)

天気 雨

六時起床 此頃ハ遅イ、ト思ヒナガラドーシテモ早く起キラレナイ 否起キラレナイノデハナイ。頭ハスデニ醒メテ居テ窓ヲ見ルト暗イ 時計ハ損ンジタマ、捨テアルカラ見ルコトガ出来ナイ 目ハ獨リデニ又フサグ 其クセ眠レナイト云ツテ目ヲ開クト、魔ニデモオソワレテ居ルカノ様ニ自然ニ閉ジラレズニ居ラナイ。ゴテ、スル内、白ミ渡リカケルト、スートスグ明クナル 之レ近頃ノ毎朝繰リ反(ママ)ス處デアル  
後チ新聞ヲ見ル

夜太陽ヲ讀ミ七時頃ヨリヨ、飛行機ノ設計成リタレバ製圖ニ着手ス 十時一先ツコン。パスヲ直シ就眠ス

▲▼296ページ▲▼ 明治43(1910)年10月12日(水)

天気 雨

朝五時四十分起床

夜夕食後帰宅ス 離レ坐敷ニ電燈ガ燈ヒツヒテ居タ

四良平君カラ大連へ無事安着ノはがきガ來テ居タノデソレ等ノ反(ママ)事ヲ書カララサレタ

漸(ママ)時スル内西ノ兄ガ來タ 色々ノ話ノ末遂ヒニ余ノコトニ及ビ父ト二人シテマダ商人ニナレト云ツテ居タ。實ニ腹ノ立ツ程イヤデアツタガ、シイテオサへ今日商人ノ殊ニ不道徳ナノヲ攻撃シテ余ノ到底商人タル能ワザル人間ナルヲ説イタ  
十時帰所 太陽ヲ讀ミ就眠

▲▼297ページ▲▼ 明治43(1910)年10月13日(木)

天気 雨

今日ハ朝力寝ル 終日終夜飛行機ノ工夫ヲシタ。考察ハ又先キノ多翼式ニ歸ヘツテ一昨夜製圖シカケタノガ如何ニモ不完全ノ様ニ思ワレタ。工夫ハ有効デアツタ。夜ハソレ等ノ假リ圖ヲ畫イテ見タ 十時半就眠ス

▲▼298ページ▲▼ 明治43(1910)年10月14日(金)



天気晴

長イタ々雨モ午後カラ漸ク晴レテ來テ、夕方ニハ美クシイ空模様ガ見ラレタ。夜佐渡島ヘ行き此間話ヘ行ツタ金ヲ渡ソトシタガ受ケ取ラナイノデ宝山ヘ寄りすしヲ持ツテ行ク様注文シテ居イタ 後チ井上君ト濱宅ヘ行ク。新材ノ香リカンバシク、總白木ノ造リハ一シオ心地ヨカッタ 先ヅ、正面ヲ這入ルトスグ左手ニ表庭ニ通ズル切戸ガアツテ其儘ニ掘リ抜キノ手洗鉢 其向ヒ側ニ車夫部屋 道ハ中央板石デ両側ハ横ハ石ヲ敷キ太イキリ、トシタ木ガ二三本アツタ 正面ガ勝手口デスグ横手ガ玄關デアツタ。風呂モ見タ裏庭モ見タ。然シ表庭ガ最モヨカッタ。小旦那ニ挨拶ヲ仕様ト思ツタガ御顔ガ見エナカッタノデ再ビ店ニ歸リ岡本君ニ又雜誌ヲ借りテ八時歸所

▲▼299ページ▲▼ 明治43(1910)年10月15日(土)

天気晴

今朝ハユツクリシテ起キタ。後チ別ニ之レト云フコトモセズ時間ノ來ルノヲ待ツテ居タ。九時ニナツテヤット給料ヲ渡シテ仕舞ツタノデ早速、参考書類等ヲ整へ歸宅ス。清平ノ頭ニ包帯ガシデアツタ おこたガ走り元デコケタノダトカ云ツテ居タ。余ハタゞチニ新聞切取リヲ新ライシ(ママ)離レ坐敷デ初メタ 晝食後一時程シテヤット出來上ガッタ。ソコヘ例ノ一サンガ來テ共ニ天王寺ノ荷造リ共進會ヲ見ニ行ツタ。相変ラズ六ナモノハナカッタ 少シ目ヲ引クナト思フト舶來品デアツタ 三時早々辞シテタゞチニ歸宅シ余ハ考察成リシ飛行機ノ製圖ヲ初メタ 五時頃一サンハ歸ヘツテ行ツタ。夕食後モ又製圖 其内兄モ戻ツテ來タノデ漸(ママ)時飛行機ノ圖ニ就イテ話ヲシタ。兄ハ製圖ニ書キ入レヲシテ呉レタラ模型ヲ作ツテヤルトテ中々熱心デアツタ。之レナラ大丈夫 成功スル 九時姉ニセキタテラレ早々歸所ス 十一時就眠

▲▼300ページ▲▼ 明治43(1910)年10月16日(日)

天気晴

五時半起床 飛行機参考物ノ切り取り並ニ集々ヲナシ後チ新聞ヲ見ル 晝余暇ニ一寸又ガソリン機関ノ the new wayト云フノヲ翻譯シタ 夜明日ハ、店ノ友ト山ならへ行ツタニ週(ママ)年ト中島君ト多田方面へ行ツタ一週(ママ)年トニアタルノデ當時ノ繪葉書ヲ晝キ九時半投函シタ

▲▼301ページ▲▼ 明治43(1910)年10月17日(月)

天気晴

好イ天気デアツタ

今日ハ何ニラシテモ殆ンド駄目デアッタ 讀ムコトハ少シモ腦ニ入ラナカッタ。夜角一ノロ  
ールガ手間取レルノト平野ノ「コンデンサー」ガ急グノデ十時半）夜業ガアッタ  
十一時就眠

▲▼302ページ▲▼ 明治43(1910)年10月18日(火)

天気晴

今日モヨイ天気デアッタ 朝ハ新聞ヲ讀ミ晝ハ、軽量エンジンノ研究ヲシタ ソシテ外ニ午  
前ニ一度ト午後ニ一度ト頼田ヘ行ツタ。用事ハ那賀整板ノ丁字ロットノ眞ガ出合ハナイ  
ノデ直シテ貫フ爲メデアッタ。夜夕食入浴後職分論ヲ讀ンダガ七時頃早クモ眠クナッ  
タノデ、店ヘ行キ岡本君ニ寄生木ヲ借りタ 帰途一寸心濟橋ヲノゾイテ見ルト、ドコモ  
中々景気デアッタ

八時半帰所後今ノ本ヲ讀ミ初メタ 十時半夜業終ツテ火ノ廻リヲナシ之レヲ記ス。床  
ニ入ツテ又讀ム 十一時ハ知ラヌ間ニ過ギ十二時ハ事務所ト台所ノニツヲ三分明キニ聞  
イテ、ハルカノ後眠ツタ

受信 河野道雄君

▲▼303ページ▲▼ 明治43(1910)年10月19日(水)

天気晴

今日殆ンド終日寄生木ヲ讀ンダ。止メ様ト思ツテモ止メラレナカッタ 一寸用事スル間  
モオシマレタ。余ハ何故ニソシナデアルノカ 実ニ譯ガアル 大ニ理由ガアル。ソレハ良平ノ  
今夜）讀ンダ境愚(ママ)ガ実ニ余ニ似テ居ル。ソレハ但シ然シテ居ルト云ツテモ、忝ハ  
目的ハ違ツタ 行為モ違ツタ。然シ彼レノ性質彼レノ志シ其レガ似テ居ル 小サイ時カラ  
表デ余リ遊バナカッタコト、腕白ノ嫌イ否得シナカッタコト、心ニチカヒヲ立テ、猶守ラ  
ナカッタコト 郷里ヲ脱走スルコト、女ニナヤンダコト、然シ良平ハ余ヨリモ幸福デアッタ。  
ソハ余ハ學業大ニ上ガラナカッタ 然シ彼レハ何時モ優等デアッタ 余ハ脱走ヲ欲シテ成シ  
得ナカッタ。即チ彼レハ成シタ。然シ彼レハ今ヤケニ成ツテ居テモ(今夜讀ンタ處)スデニ  
余ヨリ二年若クシテ中央幼年學校ニ入り確実ナル道ヲ歩ンデ居ル 然ルニ余ハ莫然何ン  
ノ得ル處モナク此家ノ寄生木デアルノダ。一時近ク就眠

▲▼304ページ▲▼ 明治43(1910)年10月20日(木)

天気曇り雨

昨夜十一時頃床ニ入ルベク上リカケタ時足先ニ見エタ一葉ノ繪葉書 若シヤトヒロヒ上  
ゲルト將タシテ余ニ來タノデアッタ 一寸讀ンデ見ルト藤井ノ坊ンカラ、大ニ御無沙汰

シタ如何デストノ御尋ネ状 ア、余コソ御無沙汰シテ居ル ア、スマヌ。余ノ最初ノ主人、ソシテ余ヲ弟ノ如ク友ノ如ク親シクシテ下サル方 早速御返事差上ゲズバナルマイト思ヒナガラ今日モ適當ノ繪葉書ヲ得ナカッタ爲メ得出サナカッタ  
今日ハ晝ハ寄生木ヲ讀マナカッタ。其交リ夜ハ讀ンダ々々大ニ讀ンダ ソシテ十二時近ク眠ツタ

◆▼305ページ◆▼ 明治43(1910)年10月21日(金)

天気 雨晴

朝六時起床 寄生木ト新聞ヲ讀ム

十一時ヨリ坊サント雛型場ノ整理ニ着手 大ニ疲レタ

夜又寄生木 十時半職人ガ夜業ヲ終ルト同ジニ讀ミ終ツタ

ア、寄生木 ア、寄生木 良平ノ生涯 ア、良平君 余ハ此寄生木ヲ讀ンデ余ノ履歴ノ一端ヲ見ル様ナ氣ガシタ。余モ一ツ同様ナモノヲ書イテ置キタイト思ツタ 否最(ママ)非書イテ子孫ニ傳ヘルデアロー 夜十一時就眠

◆▼306ページ◆▼ 明治43(1910)年10月22日(土)

天気 晴

朝新聞 後チ始業時刻ヨリ雛型場整理 二時過ギ一先ツ通り方付キタレバ之レニテ切上グ 夜七時ヨリ帰宅 別ニ何ニト云フベキ用事モナカリシ。サレド愚(ママ)然おくめやんガ元子ヲ連レテ來テ居リタリ

八時半宅ヲ出テ電車ニテ難波ニ到ル 車中日本橋三丁目ヨリ圖らず岩谷次良右衛門氏ニ會フ 時好ノ挨拶ト住所ヲ語り合内難波ニ着ス 余ハ下車シテ一直線ニ北進 ヤガテ戎橋ヨリ北ヲ望ムニ警文拂ノ事トテ人出頗ル多クヤムヲ得ズ道ヲ東ニソレ井池筋ヲ北上シテ心濟橋ニ出デ田中書店ニ科學世界ノ増刷ヲ聞キ合スニ今ニ來マセントノ由セン方ナキマ、帰所 時十時。十時半夜業終リ十一時前就眠

発信 藤井甚松様

◆▼307ページ◆▼ 明治43(1910)年10月23日(日)

天気 晴

近頃ドーモ勉強スル氣ニナレナイ。ア、何故斯様物ワスレスコトヤラ チットモ覺エラレナイ。ソレガ爲メニ嫌ヤニナル ア、余ノ罪ヤ大ナリ 何故ナレバコソ余ハカクモ罪深ク生レ來タルヤ。ア、余ガ一度オカセル(オカスト云フ字モワスレタ)罪ノ報イハ終生拭ワレザルカ。誨(ママ)ア、誨(ママ) 何ンゾ此誨(ママ)ノ遅ソカリシコトヨ

今日モ、シイテ製圖ヲ成セシモ唯直線ト曲線ト円ヲ畫イタト云フノミ。ア、ツマラナイ

▲▼308ページ▲▼ 明治43(1910)年10月24日(月)

天気曇

六時起床 今日ハ終日気分過(ママ)レザリケレバ夜氣ヲ晴ラサバヤト夕食入浴後タゞチ  
ニ、活動寫眞見物ニ行ク 八時帰所 少時歐州見物ヲ讀ミ就眠

▲▼309ページ▲▼ 明治43(1910)年10月25日(火)

天気晴

今日モウツ、トシテ楽シカラズ 夜製銅場へ通帳ヲ持ツテ行ツタ序デニ漸(ママ)時老戸  
次サント談話シテ居タ 處ガダン、話ノ進行ニツレ老戸次サンガ近頃悟リヲ開イタト  
云フ 現在、過却(ママ)、未來ノ三体ニツイテ語ラレタ。云ワレル處頗ル解ニ苦シム 即チ  
曰ク過却(ママ)ハ過ギ去ツタコトデ現在ハ今アルコト 之レハ誰シモスグ分カルガサテ六ヶ  
敷ハ未來デアアル。ドー考ヘテ見テモ解カラナイ。ナンシロ堂々タル博士學士ノ多イ世ノ  
中デモ分カラナイノダカラ其レハ、アタリ前トシテ、サテ人間ノ身体ハ何ナルカ 即チ死  
ネバ一片、唾微ノ煙リト化シテ去ル 只之レダケダ。ソコデ靈塊(ママ)ハ如何ニナルカ  
之レニツヒテハ只ダ佛教デ云フ地獄極樂、神教、耶穌ノ天国ニ行クト思フヨリ外仕方ガ  
ナイノダ。ソレデ吾ハモ一安心シテ居ルノダドーダトハ驚イタ。ドーモ之レ位イナ論リナ  
ラ大抵老年者ハ皆ソー思ツテ安心立命シテ居ルノダ 然シ老人ニ口答ヘモト思ツタノデ、  
ウマク合槌ヲ打ツテ居イタ。  
帰宅ニ望ミウドシテ馳走サレタ

▲▼310ページ▲▼ 明治43(1910)年10月26日(水)

天気晴

午前六時起床。数日來大分、ノンキニ生活シタノデ氣ハサワヤカニナツタ ソコデ今日モ  
モー一日ズボラシテ七時就床 漸(ママ)時歐州見物ヲ讀ム内八時ノ音ヲ聞カズニ寢テ  
仕舞ツタ

▲▼311ページ▲▼ 明治43(1910)年10月27日(木)

天気晴

今日ノ冷ヤカサハ余ヲシテ遂ヒニ足袋ヲ取りニ帰宅セシメタ  
夜帰宅シテ萬朝報ヲ見ルト、計ラザリキ奈良原氏ハ此度佐世保ニ轉任ノコトナリ其

赴任)デノ少間ヲ利シテ同氏飛行機ノ試揚ヲセラル、由ガ出テ居タ。実ニ身ニ取り由々敷キコトデアアルデモシ同氏ガ佐世保(行カレル様ナコトニナルト、ドーモ、余ノ研究會志願モ頗ル心許ナイコトニナル)デ此際最(ママ)非共一度同氏ニ面會シテ確カナコトヲ定メタイノト又ハ、イツマデ鉄工所ニ居ツテモ第一ノ目的ガ違ガテ居ルシ又研究スルニモ秘密ニヤツテ居ル様ナコトデハトテモ充分ノコトガ出來ナイ。ソコデ山田氏カ伊賀氏ニツイテ、実地研究ヲ初メタイ ソレニツイテハ、今度ノコトアルヲ幸ヒ一ツ東京(行キタイモノ)ダ 否最(ママ)非行カネバナラナイト帰所後ハ時間表其他先日調査セル旅費等ノ取調べヲナシ又前途ニツイテ種々考ヘ十二時近ク就眠ス

▲▼312ページ▲▼ 明治43(1910)年10月28日(金)

天気晴

今日ハ朝カラ昨夜ノ考ヘニツイテ兎ニ角第一ノ問題ハ旅費デアアル 如何ニ切りツメタ處デ十五円ハ入ル サテ其金ヲ如何ニシヨ。ア、今更姉ニ金ヲ頼ムコトハ出來ナイ 名古屋(行ツタノト)店ヲ出タ時ト洋服トテ少ナカラズ姉ニハ迷惑ヲカケテ居ルノダカラト云ツテ父ニハ勿論駄目。兄ハ例ノ同情アルガ金ガナイ。ツヒニ思ヒツイタノハ寄生木ノ良平ナラネド一ツ小旦那(御願ヒシテ漸(ママ)時拝借スルコトニシ反(ママ)濟八月ニ四円カ五円ツ、月賦ニシテイタゞイタラト、ソコデ夜店ヘ一寸立寄り、ソレカラ濱宅(小旦那)ヲ御尋ネシタガ表ガドーシテモ開カナイ 案内ヲ乞フノモ氣ガ留メタノデ裏(マワシ)中島君ヲ訪ツタ 丁度御主人トモ居ラレタ。イロ、ノ話ヲスル内八時モ過ギタ。心ノ内ハクル、廻リヲヤツテ居ル。ヤットノコトデ思切ツテ中島氏ノ庭ヲ通ツテ小旦那ヲ御尋ネシタ。台處デ御目ニカ、ツタ 談話ハ飛行機ノコトガ多カバカリデ余(今日)ノ研究シテ得タ處ヲ御尋ネニ應ジト、ト述ベタ。小旦那ハタシカニ憾(ママ)心セラレタ風デアツタ。然シ借金一件ハツヒニ云フベキ機會ヲ得ナカッタ。ソシテ折格朝カラ練習シテ居イタ口上モ述ベズニ九時濱宅ヲ辞シタ

▲▼313ページ▲▼ 明治43(1910)年10月29日(土)

天気晴

昨夜ノ失敗ニ目ハ未明ヨリ醒メテ眠レヌマ、色々ト工夫スル内マ、ヨイマ丁度小旦那ニ手書(ママ)ヲ以テ御願ヒシテ見様ト早速起床 時スデニ六時。直チニ筆ヲ取り、目的ト希望ト境寔トヲ述ベテ十五円拝借ノ件ヲ依頼シ最後ニ今夕失禮ナガラ電話デ御返事ヲ聞カシテ戴キタイコトヲ述ベタ

夕四時過ギ恐ル々々店(電話ヲ懸ケ先ヅ岡本君ヲ呼ンデ小旦那ノ様子ヲ聞クト今神戸ノ宮城ト御話中ダトノコト 後チ再ビ聞イタ頃ハスデニ濱(濱)ヘ帰(ラ)レタ後デアッタ。ソコデ濱(濱)ヘ尋ネルト、マダ御帰リガナイトノコト。漸(ママ)時シテ六時頃再度濱宅(電話ス

ルト御在宅デ、アツタ 取次ギハ下女デアツタガ待つ間モナク、小主人様自カラ出ラレタ。余ハ無禮ナル振舞ヲ謝シテ、後チ御伺ヒスルト、一声高ク小旦那一流ノヨロシイ承知シマシタ。ソーシテ明日カ明後日封筒ニ入レテ店ノ誰レカニ渡シテ居クトノ御意ア、余ノ其時ノ嬉シサ今モ手ガ振フ様ダ。ソシテヤット第一番ノ難関ヲ切りヌケタ 而シテ何ンデモ勇氣ト熱心ニカギルト思ツタ 尚ホ目前ニ横タワルヨリ大ナル困難ニ対シテモ勇氣ト熱心ニシカズト心ニチカツタ

▲▼314ページ▲▼ 明治43(1910)年10月30日(日)

天気晴

昨日ニ引替へ今日ハ氣ガユックリトシタ。午後坊ンサンニ暇ヲ願ツテ居イタ

夜書出シヲ調べタ後チ電車ノ切符モ錢モナイノデ帳場ノ車ニ乗り店へ行ツタ 誰レモマダ預カツテ居ラナイト見エテ、何ニモ云ワナカッタ デ其足デ帰宅シテ姉ニ告ゲタ 丁度西ノ姉モ來テ居タ。兄ハ居ラナカッタ 十時帰所

就眠後モ又晝ノ間デモ氣ニ成ルノハ向フへ行ツテカラ、後ノコト 種々様々ナ好樂ヤ悲觀ガ交モ々々思ヒ浮ベラレテナラナカッタ

▲▼315ページ▲▼ 明治43(1910)年10月31日(月)

天気晴

今朝朝日新聞ヲ見ルニ昨日戸山原ニ於テスデニ飛揚試験ヲセラレタソダ。然シ、エンジンノ電火装置ニ固(ママ)障ガアツテ上ガラナカッタ 否推進機ガ廻ワナカッタノダ。茲ニ於テ余ハ一刻モ早ク行キタクナツテ來タ 終日氣ガイラ、シテナラナカッタ。ソシテ、コンナコトヲ思ツタ 閣下ガ自身デヤツテ居ラレルノヲ余ニ試乗ヲ乞フテ、ソシテウマク一変(ママ)ニ飛揚セシメテ見タラト

夕方岡本正君ガ小旦那ニ手紙ヲ預カツテ居ルカラトノコトデ夜帳簿ノ整理ヲ終ツテカラ早速行ツタ。ソシテ御重サンニ東京ノ矢島サンニ用事ハナキカト聞クト、心カラ嬉シン一ニ、謝サレテ、ナンゾ買ツテ居クカラ、ドーゾ事傳カツテ呉レトノコトデアツタ。帰途本屋ノ拂ヲ済マシ下駄ト手帳ヲ求メ帰宅 小旦那ノ御手紙ヲ見ルト、私モ決シテ豊カデナイノダカラ此金ハ有用ニ使用シテ呉レトノコトデアツタ 余タルモノ小旦那ニ対シテモ一曾(ママ)成工(ママ)ヲ斯シナケレバナラナイ

393~400 ページ

金銭出納録

月日	品目	収入	支出	姓名
1	繰越金	1.395		
々	姉ヨリ	3.000		
3	幸チヤンニ蜜甘十三個		.130	
々	風呂賃 坂口君ト二人		.050	
2	顔ソリ		.080	
々	活動写真		.400	
4	常男帯一筋		1.100	
々	マンヂユウ		.100	
394 ページ				
4	岡本正坂口両君トゼンザイ屋ニ入ル 皆取替		.175	二円三十六銭
6	過働賞與(二日分)	.330		
7	帰宅車賃		.200	
々	脳丸		.300	
9	岡本正君ゼンザイノ立替金	.080		
々	店雑収入ヨリ新年宴會費	.500		
々	東京研數學館		.320	
々	工學會		1.120	一円三十五銭
々	北村拂		.500	
々	十六豆		.100	七十五銭
10	帰宅土産林檎五ツ		.250	
395 ページ				
10	中坊ニ吉凶ヤ其他		.260	
11	ウドン屋拂		.120	十二銭
12	姉ヨリ	.500		
13	電車賃		.090	
14	間食		.350	
々	散髪		.200	
21	姉ヨリ	.500		
々	ぜんざい		.100	三十八銭
24	給料ト利子	2.150		
々	製圖用紙ト「ピン」		.110	
々	學校ヨリ帰途間食		.315	一円八十二銭五厘

396 ページ				
25	巻二ハイ		.160	
26	姉ヨリ	2.000		
27	ケント紙ト雲形定規		.110	
28	學校用道具袋ト Note 一冊		.400	
29	姉ヨリ 平井サンガ勝手ニ貰ツテ來テ呉レタ	1.000		
30	西洋料理、半蔵ニ五錢ヤル		.460	
3	店員簿	3.000		
7	小旦那へ本ヲ譲ル	1.500		
6	姉ヨリ	3.000		
4	コンパス		2.500	
8	下駄屋拂		1.850	
397 ページ				
6	若林獨立軒寫眞		1.500	
4	土産物		.150	
7	紙、鉛筆、同心		.150	
1/31	シャツ、パツチ代		2.850	
8	不明		1.500	七十錢
々	小旦那ニ本代	.500		
々	岡本正君ニ本代	.600		
10	墨一丁		.550	
12	腦丸		.300	九十五錢
13	ケントペーパー二枚		.200	
々	時計修繕費		.350	
398 ページ				
2/	雑誌會々員		.300	
	姉ヨリ	2.500		
	給料ト利子	2.200		
	散髪		.200	
27	本屋拂		5.000	
々	晝食		.300	
々	本賣却代	1.000		三十錢
	蠣屋拂		.700	
3/10	姉ヨリ	10.000		
々	藤公銅像		3.750	



々	世界地圖		1.350	
399 ページ				
11	散髮		.200	四円三十錢
10	帰宅土産すし		.500	三円八十錢
12	下駄		.650	
14	禁酒會々費		.450	
々	同徽章第三号一個		.800	一円九十錢
17	ナイフ		.600	
々	文具箱		.270	
18	胃散		.300	九十三錢
々	飛行機用布二尺		.220	七十一錢
々	同ゴム		.300	四十一錢
25	給料ト利子	2.150		
400 ページ				
25	西洋料理		1.000	

住所	電話	氏名	郷国
東京市本郷区森川町壹番地	下谷三〇一一番	帝國習字速成學會	振替貯金東京六八三一番